

1.0

－ 二次医療圏でみる地域医療の構造 －

医療需給総覧

version

1.0

地域分析

埼玉県 | 南西部医療圏

(医療圏コード：1102)

目次

1. 地域の概況

- 二次医療圏の概況
- 二次医療圏における人口変化率の推計
- 医療機関別の許可病床数
- 医療機関の指定状況

2. 医療提供体制の概況

- 人口10万人あたり医療機関数・病床数
- 人口10万人あたり医療従事者数の比較
- 都道府県内の医療圏の医師偏在指標
- 都道府県別の医師偏在指標
- 診療科別医師数
- 病床数及び診療実績の推移
- 地域の入院患者数と平均在院日数
- 医療機関別職員数
- 病床機能別の病床数の推移と必要病床数
- 病床機能別・医療機関別の許可病床数
- 入院料別病床数（病院のみ）
- 二次医療圏別の1日平均入院患者数
- 二次医療圏別の流出入状況（DPC症例数）
- 患者流出入状況の年度推移（DPC症例数）
- MDC別退院患者数の推移

3. 医療需要の将来推計

- 人口推計
- 高齢化の状況
- 1日平均患者数
- 受療率の比較
- ICD別の患者数推計・増減率
- 精神病床の1日平均患者数
- DPC患者数の推計
- DPC症例数と平均入院期間の推移
- 手術件数の推計
- 疾患別患者数の推計（悪性腫瘍・脳卒中・虚血性心疾患・糖尿病）
- 在宅医療の需要推計（患者数・算定回数）
- 要介護者数の推計（年齢区分・要介護度別）

4. 医療機関のパフォーマンスおよび連携状況

- ポジショニングマップ
- 入退棟経路の傾向
- 救急車受入を行う病院の概要
- 病院別の救急車受入件数および夜間・時間外・休日の患者延べ数
- 救急医療の提供状況
- 救急医療の提供状況の類似区域との比較
- DPC対象病院における平均在院日数
- MDC別退院患者数および医療機関シェア
- DPC退院患者数のシェア

1/ 地域の概況

人口動態や地理特性から、地域の特性を把握する。

高齢化率の推移

生産年齢人口

可住地面積比率

人口構造等の地域の特徴を全国平均との比較や、
基幹的な役割を担う医療機関を確認することで、医療圏内の地域特性を把握する。

埼玉県 | 二次医療圏の概況

都道府県内の二次医療圏の人口および面積を整理しています。

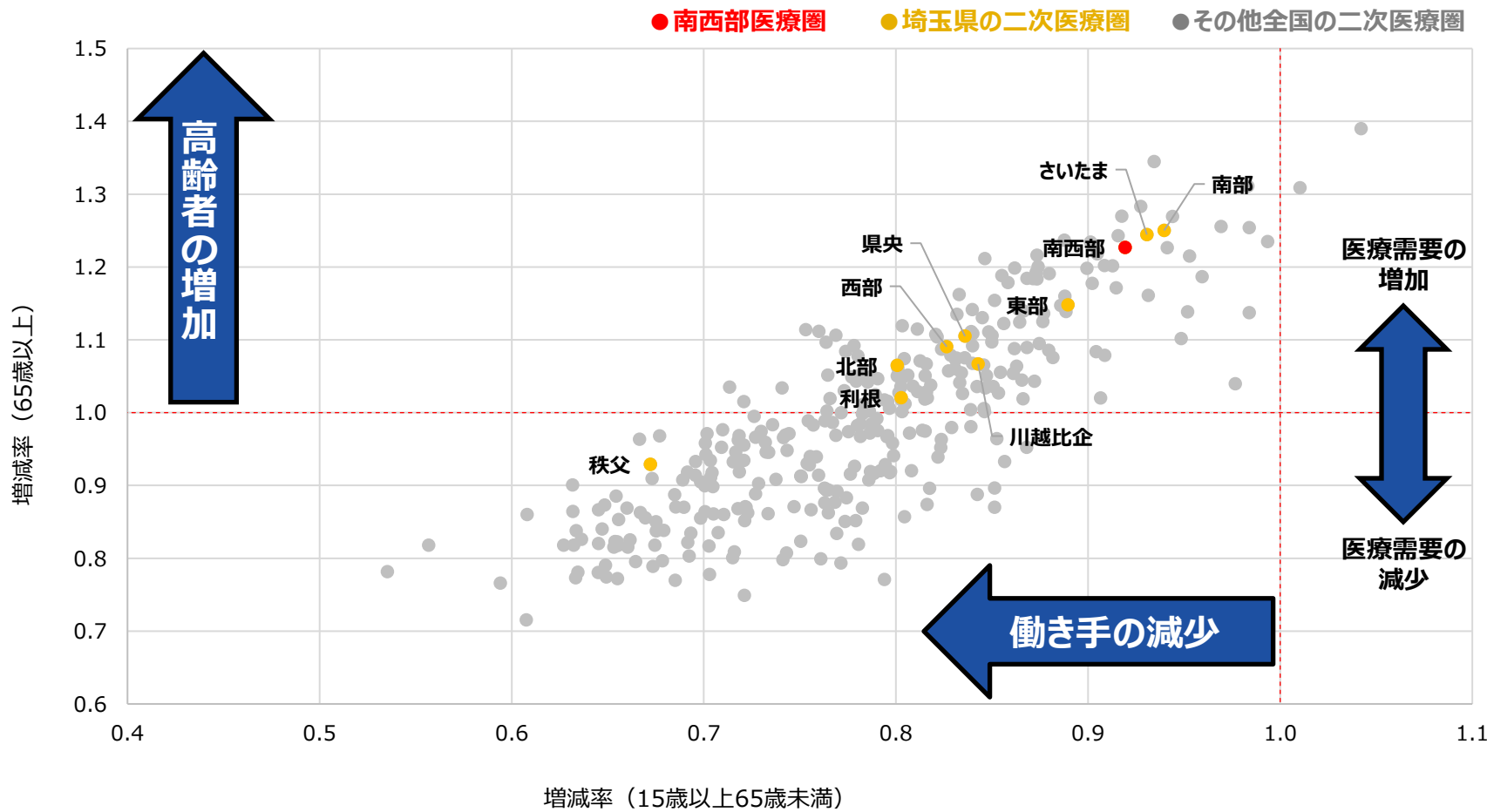
医療計画においては、二次医療圏の人口が20万人未満、かつ、二次医療圏内の病院の流入患者割合が20%未満かつ流出患者割合が20%以上の場合に見直しの検討が必要とされています。

二次医療圏	人口（人）	面積（km ² ）	人口密度（人/km ² ）	可住地面積割合（%）
南部	809,456	85.25	9,495.1	99%
南西部	730,325	110.95	6,582.5	97%
東部	1,155,470	249.71	4,627.2	100%
さいたま	1,324,025	217.44	6,089.2	98%
県央	528,558	172.91	3,056.8	97%
川越比企	793,673	626.53	1,266.8	71%
西部	771,746	406.32	1,899.4	57%
利根	635,455	473.95	1,340.8	99%
北部	501,367	562.12	891.9	85%
秩父	94,690	892.62	106.1	16%
埼玉県 計	7,344,765	3,797.80	1,934.0	68%
全国	126,146,099	372,864.20	338.3	33%

* 可住地面積とは、総面積(北方地域および竹島を除く)から林野面積と主要湖沼面積を差し引いて算出したもの
出典：「令和2年国勢調査」（総務省統計局）
：「都道府県・市区町村のすがた（社会・人口統計体系）」（総務省統計局）2020年度

埼玉県 | 二次医療圏における人口変化率の推計（2025年～2050年）

高齢者の増減割合と生産年齢人口の増減割合の2軸で、全国の二次医療圏における当該医療圏の立ち位置を示しています。
需給の変化に対して医療提供体制を確保できるか、という観点で課題を整理する必要があります。



南西部医療圏 | 医療機関別の許可病床数

二次医療圏内の医療機関の立地とそれぞれの機能別の病床数を可視化しています。

特に急性期においては医療機関同士の距離と、地域住民のアクセスの観点で適切かつ効率的な配置となっているかを検証する必要があります。



No	医療機関名	市町村名	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟・無回答	総計
1	N H O 埼玉病院	和光市	66	484				550
2	T M G あさか医療センター	朝霞市	110	316		20		446
3	新座志木中央総合病院	新座市	8	312	48	34		402
4	イムス富士見総合病院	富士見市	17	284	40		6	347
5	上福岡総合病院	ふじみ野市		194		90		284
6	イムス三芳総合病院	三芳町	10	217		46		273
7	埼玉セントラル病院	三芳町			49	214		263
8	富家病院	ふじみ野市			59	202		261
9	堀ノ内病院	新座市		157	42			199
10	北野病院	新座市				148		148
11	さくら記念病院	富士見市		136				136
12	新座病院	新座市			128			128
13	静風荘病院	新座市				124		124
14	寿鶴会 菅野病院	和光市				120		120
15	三芳野病院	三芳町		109				109
16	T M G 宗岡中央病院	志木市		60	40			100
17	浅野病院	志木市				98		98
18	朝霞厚生病院	朝霞市		38		47		85
19	和光リハビリテーション病院	和光市			79			79
20	塩味病院	朝霞市		44	33			77
21	みずほ台病院	富士見市		60				60
22	恵愛病院	富士見市		60				60
23	三浦病院	富士見市				59		59
24	坪田和光病院	和光市		51				51
25	三芳野第2病院	ふじみ野市		45				45
26	高田整形外科病院	新座市		40				40
27	ふじみの救急病院	三芳町		20				20
総計			211	2,627	518	1,202	6	4,564

※地図内の番号は、医療機関一覧のNoに対応しています

南西部医療圏 | 医療機関の指定状況①

二次医療圏内の医療機関の指定状況を示しています。基幹的な機能をどの医療機関が担っているかを確認できます。
役割の不足や重複を確認して、二次医療圏の医療提供体制の充足度と効率性を検討できます。

No.	医療機関略称	病床数	DPC	地域医療 支援病院	救命救急 センター	災害拠点 病院	周産期	がん診療	脳卒中	在宅医療
1	N H O 埼玉病院	550	標準	○	○	地域	地域	地域拠点	PSCコア	
2	埼玉セントラル病院	463								
3	T M G あさか医療センター	454	標準						PSC	在後病
4	新座志木中央総合病院	402	標準						PSCコア	在後病
5	イムス富士見総合病院	341	標準						PSC	在後病
6	寿鶴会 菅野病院	335								在後病
7	和光病院	285								
8	上福岡総合病院	284								
9	イムス三芳総合病院	273	標準							在後病
10	富家病院	261								在後病
11	三芳の森病院	240								
12	堀ノ内病院	199								支援病 1
13	北野病院	148								
14	さくら記念病院	136								支援病 1
15	新座病院	128								支援病 3
16	静風荘病院	124								
17	三芳野病院	109								
18	朝霞病院	101								
19	T M G 宗岡中央病院	100								支援病 2
20	浅野病院	98								
21	朝霞厚生病院	85								支援病 2
22	和光リハビリテーション病院	79								
23	塩味病院	77								支援病 3
24	みずほ台病院	60								支援病 3
25	恵愛病院	60								

出典：
「施設基準の届出受理状況（全体）（届出受理医療機関名簿）令和7年1月1日現在」（各地方厚生局）
「厚生労働省 令和7年告示第166号」
「地域医療支援病院一覧 令和6年9月1日時点」（厚生労働省）
「救命救急センター設置状況一覧 令和7年4月1日現在」（厚生労働省）
「災害拠点病院一覧 令和6年4月1日現在」（厚生労働省）
「周産期母子医療センター一覧 令和6年4月1日現在」（厚生労働省）
「がん診療連携拠点病院等一覧表 令和7年4月1日現在」（厚生労働省）
「一次脳卒中センター（PSC）一覧 認定期間：2025/4/1～2026/3/31」（一般社団法人日本脳卒中学会）
「一次脳卒中センター（PSC）コア一覧 認定期間：2025/4/1～2026/3/31」（一般社団法人日本脳卒中学会）

No.	医療機関略称	病床数	DPC	地域医療 支援病院	救命救急 センター	災害拠点 病院	周産期	がん診療	脳卒中	在宅医療
26	三浦病院	59								支援病 3
27	坪田和光病院	51								支援病 2
28	三芳野第 2 病院	45								
29	高田整形外科病院	40								
30	ふじみの救急病院	20								支援病 2

出典：
「施設基準の届出受理状況（全体）（届出受理医療機関名簿）令和7年1月1日現在」（各地方厚生局）
「厚生労働省 令和7年告示第166号」
「地域医療支援病院一覧 令和6年9月1日時点」（厚生労働省）
「救命救急センター設置状況一覧 令和7年4月1日現在」（厚生労働省）
「災害拠点病院一覧 令和6年4月1日現在」（厚生労働省）
「周産期母子医療センター一覧 令和6年4月1日現在」（厚生労働省）
「がん診療連携拠点病院等一覧表 令和7年4月1日現在」（厚生労働省）
「一次脳卒中センター（PSC）一覧 認定期間：2025/4/1～2026/3/31」（一般社団法人日本脳卒中学会）
「一次脳卒中センター（PSC）コア一覧 認定期間：2025/4/1～2026/3/31」（一般社団法人日本脳卒中学会）

2/ 医療提供体制の概況

地域の医療提供体制を、医療資源の供給量や受療動向から整理する。

病床数

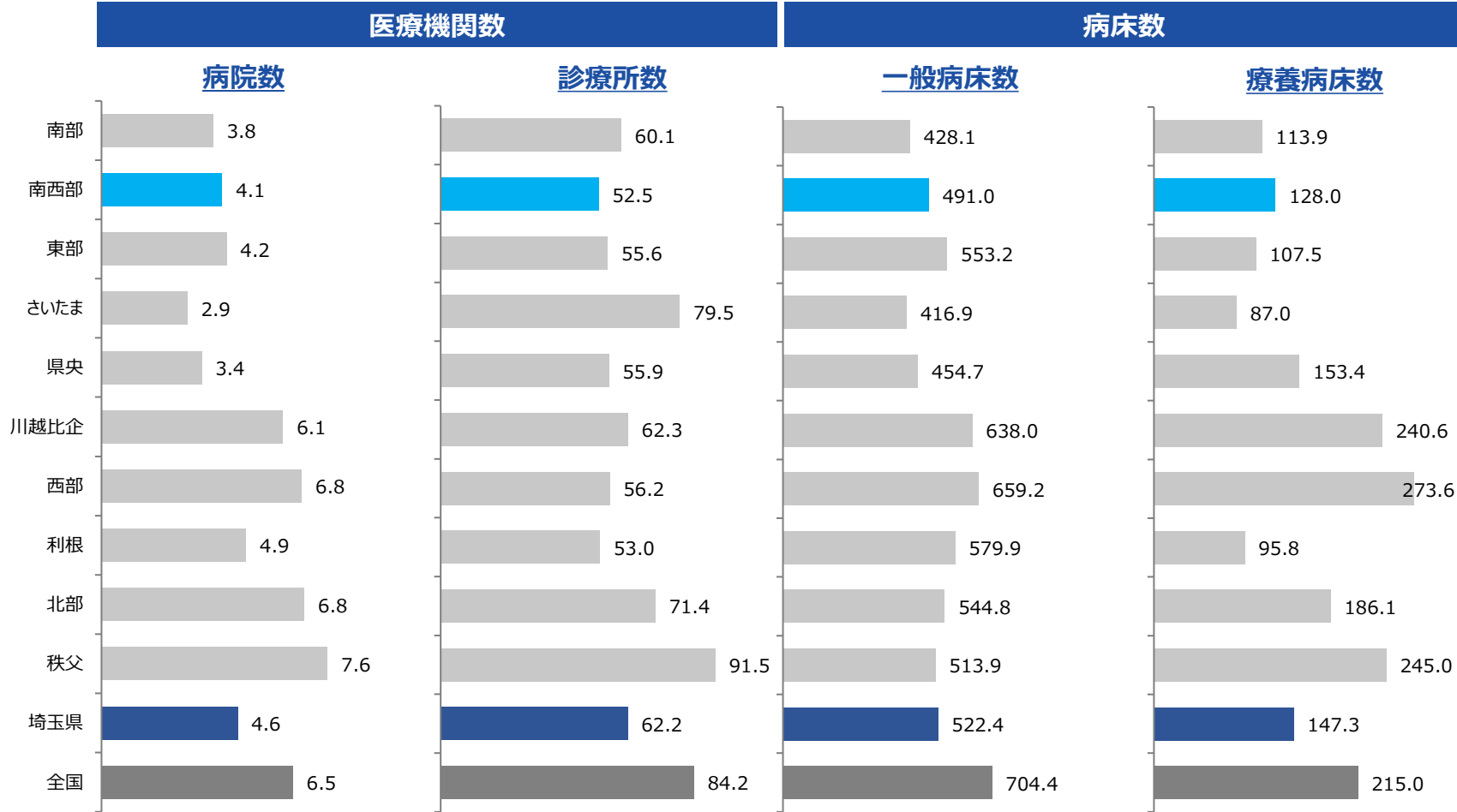
医師数

職種別人員配置

全国・県平均や医師偏在指標との比較から、地域の供給構造における不足や偏りを把握する。
患者流出入や平均在院日数などを踏まえ、医療資源の効率性と機能分化の進展を評価する。

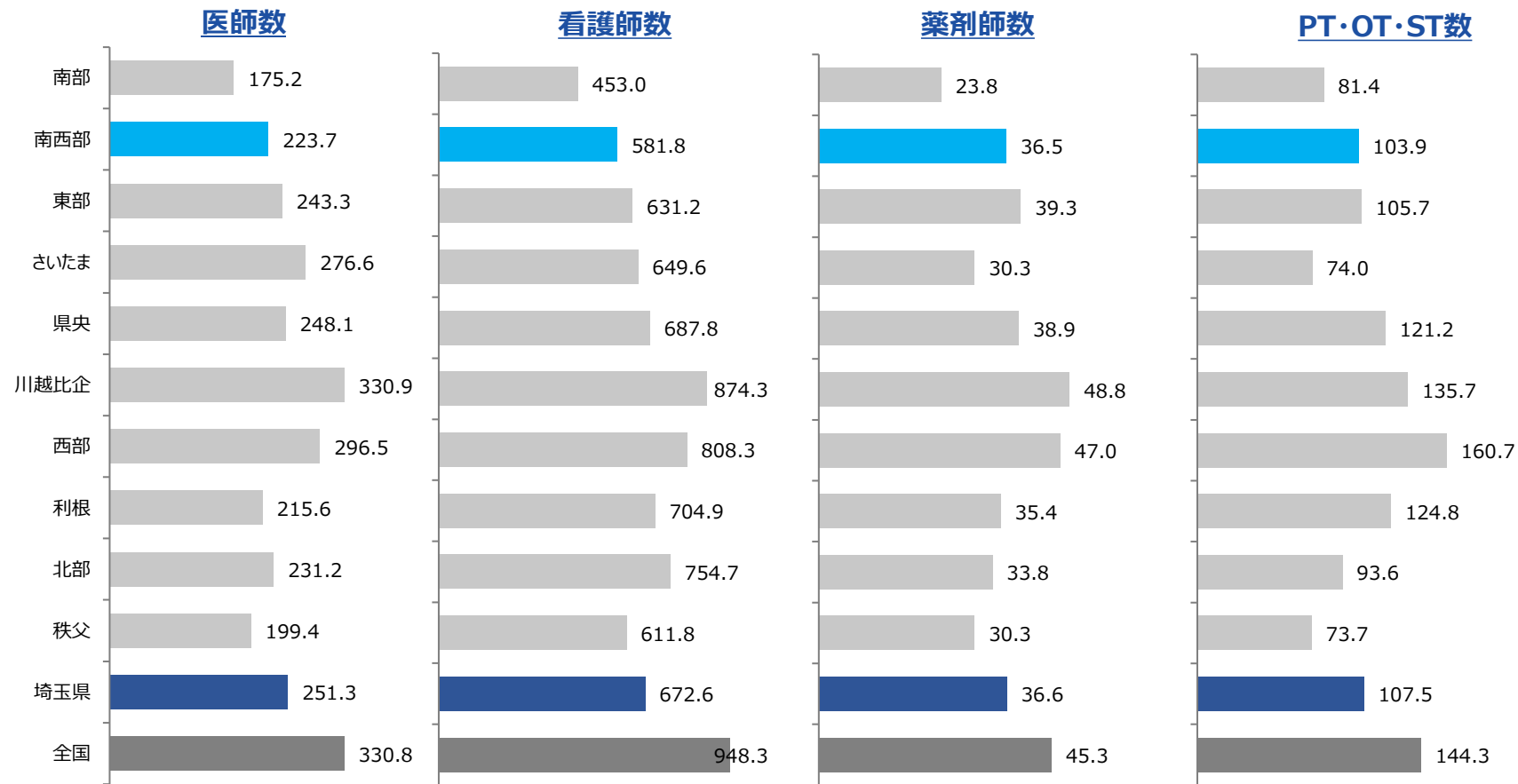
埼玉県 | 人口10万人あたり医療機関数・病床数

都道府県内二次医療圏の、人口10万人あたりの医療機関数と病床数を比較しています。
全国よりも病院数や病床数が多い場合には、医療資源が分散している可能性があります。
診療所が少ない場合は、かかりつけ医の確保が課題となっている可能性があります。



埼玉県 | 人口10万人あたり医療従事者数の比較

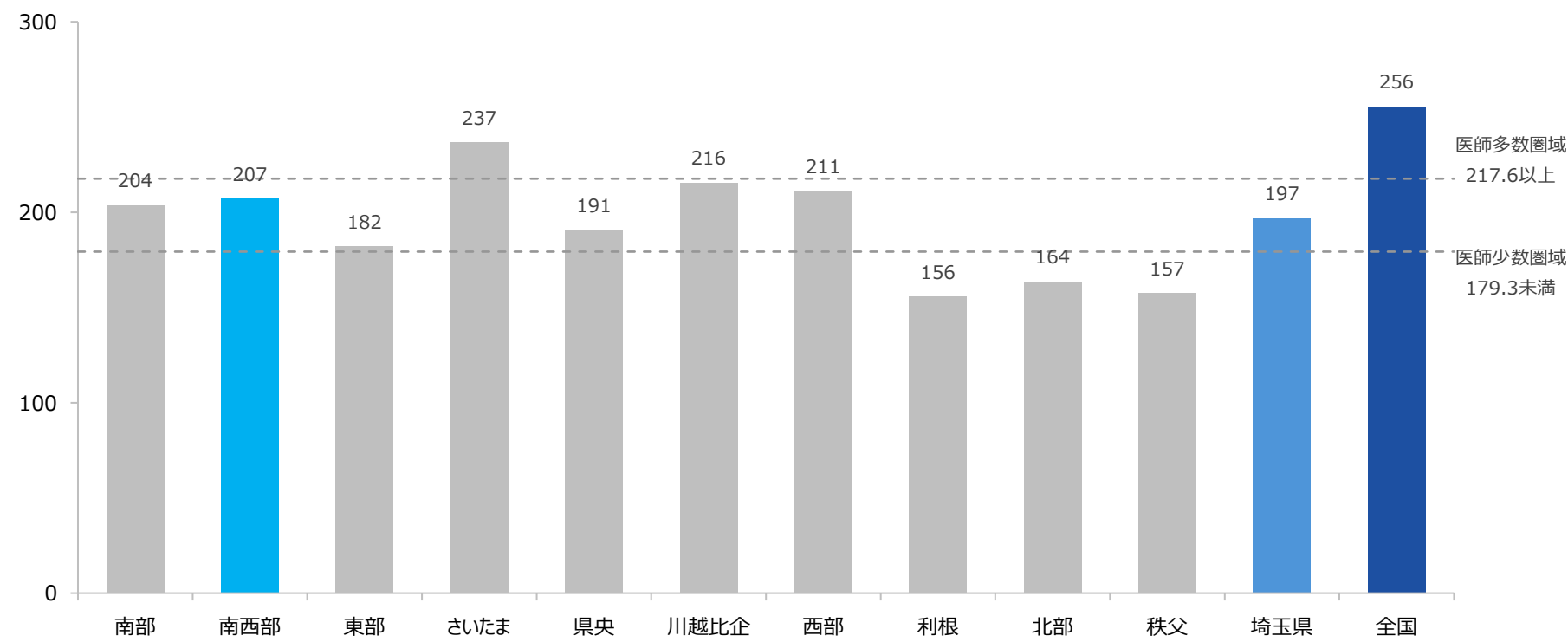
都道府県内の二次医療圏における、人口10万人あたりの医療従事者数を比較しています。
地域全体の医療従事者に不足がないかを確認し、医療従事者の確保が現状において困難となっていないか確認します。



埼玉県 | 都道府県内の医療圏の医師偏在指標

都道府県内の二次医療圏における、人口10万人あたりの医師数を比較しています。

医師偏在指標は、患者の流出入等の患者動向や医師の年齢等の条件を調整し、全国の二次医療圏と患者数に対する医師のマンパワーを比較する指数となります。

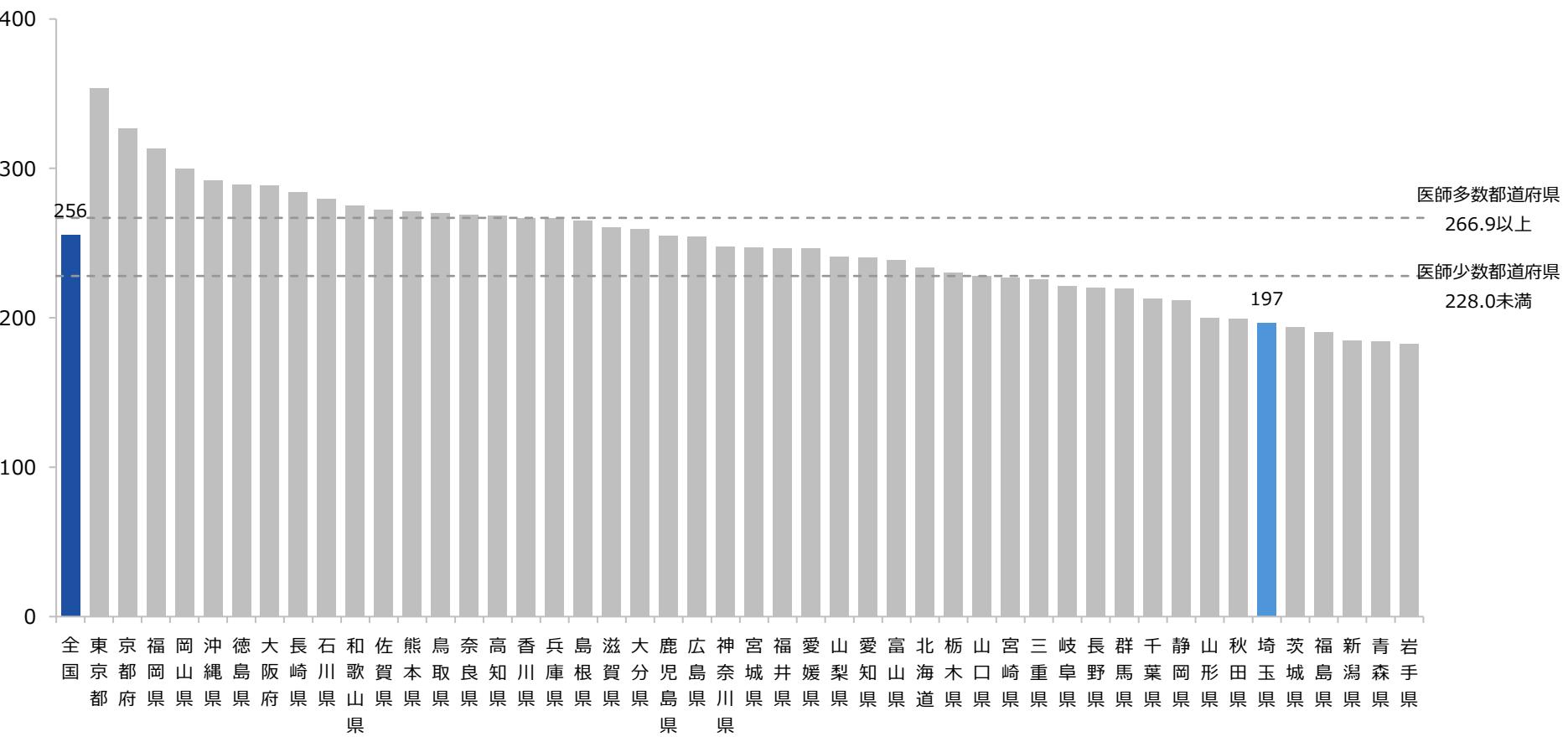


都道府県別の医師偏在指標

医師偏在指標を他の都道府県と比較しています。

都道府県全体で医師数が不足している場合、当該医療圏での医師確保は比較的困難となります。

当該医療圏以外の動向も含めて整理をする必要があります。



南西部医療圏 | 診療科別医師数

当該医療圏の65歳以上人口10万人あたりの医師数を、診療科別で比較しています。

地域内に不足している診療科を確認できます。

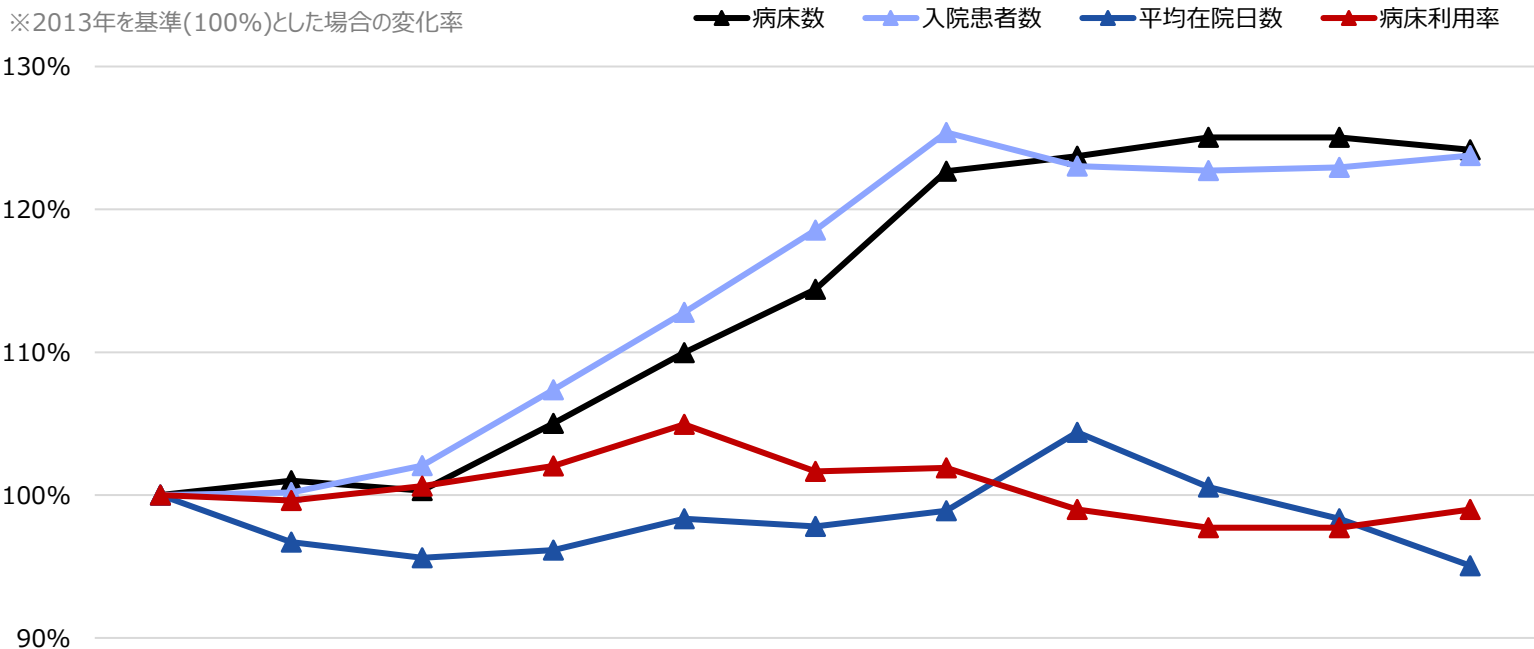
区分	診療科	65歳以上人口 10万人あたり医師数		全国平均との差		
		医療圏	全国	圏域－全国	割合	
内科系	内科	113.1	86.5	26.6	+31%	
	呼吸器内科	4.7	9.9	-5.2	▲53%	
	循環器内科	26.8	19.1	7.8	+41%	
	消化器内科(胃腸内科)	20.4	22.6	-2.1	▲9%	
	腎臓内科	14.6	8	6.6	+83%	
	脳神経内科	7.6	8.3	-0.7	▲8%	
	糖尿病内科(代謝内科)	8.7	8.4	0.3	+4%	
	血液内科	2.9	4.2	-1.3	▲31%	
	アレルギー科	0	0.3	-0.3	-	
	リウマチ科	1.2	2.7	-1.6	▲57%	
	感染症内科	0	0.9	-0.9	-	
外科系	外科	25.7	18.1	7.6	+42%	
	呼吸器外科	2.9	3	-0.1	▲3%	
	心臓血管外科	5.2	4.6	0.7	+15%	
	乳腺外科	5.2	3.3	2	+61%	
	気管食道外科	0	0.1	-0.1	-	
	消化器外科(胃腸外科)	9.3	8.2	1.1	+14%	
	泌尿器科	14	11.2	2.8	+26%	
	肛門外科	0.6	0.6	0	▲8%	
	脳神経外科	13.4	10.6	2.8	+26%	
	整形外科	33.8	31.8	2	+6%	
	形成外科	4.1	4.5	-0.5	▲10%	
小児・周産期	小児科	47.8	25.2	22.7	+90%	
	小児外科	2.3	1.2	1.1	+94%	
	産婦人科	24.5	16	8.5	+53%	
	産科	0.6	0.7	-0.1	▲17%	
	婦人科	5.8	2.9	2.9	+100%	
眼科・耳鼻・皮膚・美容	眼科	28.6	19.2	9.4	+49%	
	耳鼻いんこう科	18.7	13.3	5.4	+41%	
	皮膚科	21	14.2	6.8	+48%	
麻酔・集中治療系	美容外科	0	1.8	-1.8	-	
	麻酔科	30.3	14.6	15.7	+107%	
	救急科	5.8	5.5	0.3	+5%	
放射線・検査系	集中治療科	1.7	1.3	0.4	+35%	
	放射線科	7	10.3	-3.3	▲32%	
	病理診断科	2.9	3.2	-0.3	▲8%	
リハビリ	臨床検査科	1.7	0.9	0.8	+90%	
	リハビリテーション科	8.7	4.4	4.4	+101%	
精神	精神科	22.7	23.8	-1.1	▲4%	
	心療内科	1.2	1.2	-0.1	▲4%	
その他	その他	43.2	36.7	6.4	+17%	
総計	総計	589.1	463.3	125.7	+27%	

南西部医療圏 | 病床数及び診療実績の推移（一般病床）

当該医療圏の一般病床における、診療実績の推移を示しています。

入院患者数が減少しているか、また、それが平均在院日数の短縮によるものかを確認します。

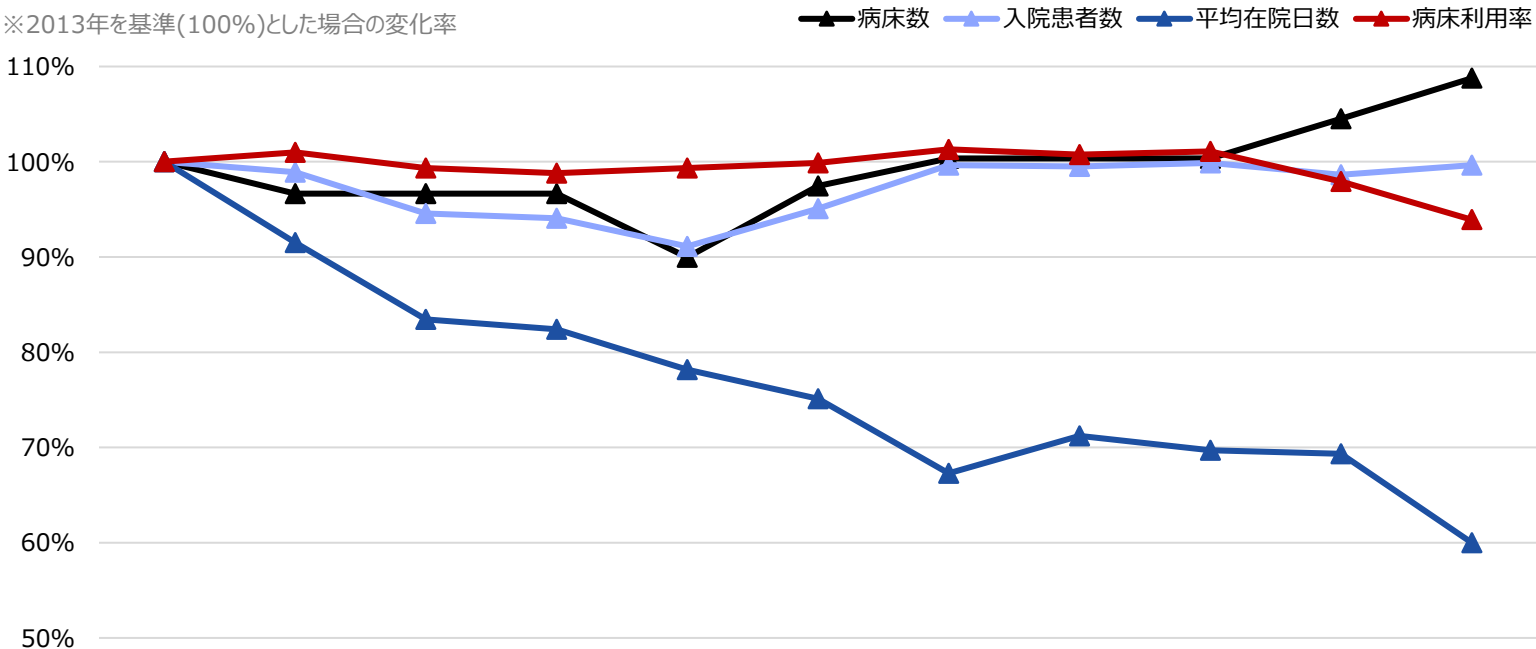
入院患者数の減少に合わせて病床数が減少しているか、病床利用率が低下していないか確認します。



	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2013年比
病床数	2,908	2,937	2,917	3,054	3,198	3,327	3,567	3,598	3,636	3,636	3,611	+24.2%
入院患者数（人／日）	2,281	2,285	2,328	2,449	2,573	2,704	2,860	2,806	2,799	2,804	2,823	+23.8%
平均在院日数（日）	18.2	17.6	17.4	17.5	17.9	17.8	18	19	18.3	17.9	17.3	▲4.9%
病床利用率（％）	78.8	78.5	79.3	80.4	82.7	80.1	80.3	78.0	77.0	77.0	78.0	▲1.0%

南西部医療圏 | 病床数及び診療実績の推移（療養病床）

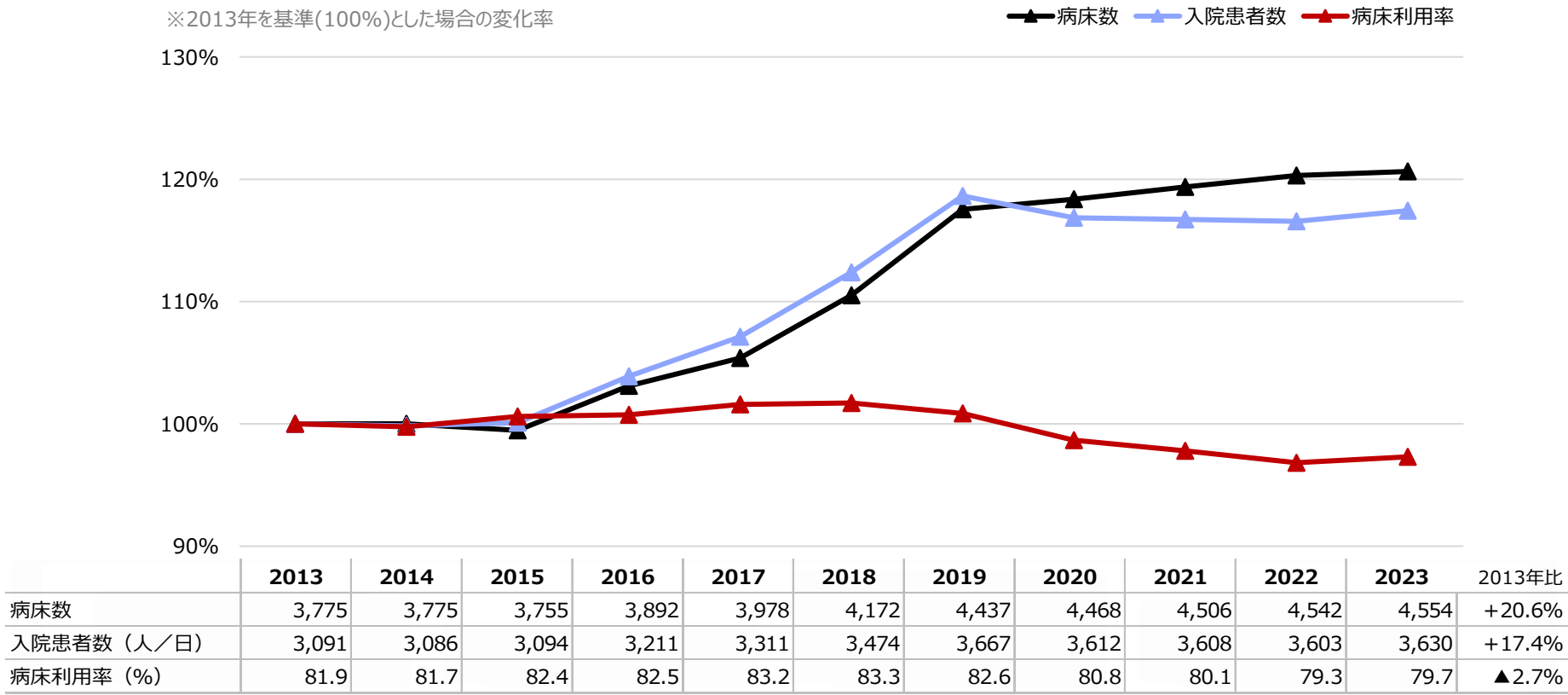
当該医療圏の療養病床における、診療実績の推移を示しています。



	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2013年比
病床数	867	838	838	838	780	845	870	870	870	906	943	+8.8%
入院患者数（人／日）	810	801	766	762	738	770	807	806	809	799	807	▲0.4%
平均在院日数（日）	257.0	235.2	214.5	211.8	200.9	193.0	172.9	183	179.1	178.2	154.2	▲40.0%
病床利用率（％）	92.0	92.9	91.4	90.9	91.4	91.9	93.2	92.7	93.0	90.1	86.4	▲6.1%

南西部医療圏 | 病床数及び診療実績の推移（一般+療養）

当該医療圏の一般病床と療養病床における、診療実績の推移を示しています。



埼玉県 | 都道府県内の医療圏の入院患者数と平均在院日数

都道府県内の二次医療圏ごとの、入院患者数の推移と平均在院日数の変化を示しています。
都道府県全体と近隣の医療圏と比較することで、各医療圏の傾向を確認できます。

医療圏	入院患者数(総数)					平均在院日数				
	2013年	2018年		2023年		2013年	2018年		2023年	
	実績	実績	2013年比	実績	2013年比	実績	実績	2013年比	実績	2013年比
全国	1,275,347	1,246,867	▲2.2%	1,123,654	▲11.9%	30.6	27.8	▲9.2%	26.3	▲14.1%
埼玉県	50,613	50,994	+0.8%	48,250	▲4.7%	31.1	27.5	▲11.6%	26.5	▲14.8%
南部	4,324	4,384	+1.4%	4,010	▲7.3%	24.7	22.0	▲10.9%	21.5	▲13.0%
南西部	4,118	4,460	+8.3%	4,584	+11.3%	31.8	28.5	▲10.4%	26.9	▲15.4%
東部	7,364	7,636	+3.7%	7,265	▲1.3%	29.9	25.9	▲13.4%	25.1	▲16.1%
さいたま	6,406	6,489	+1.3%	6,113	▲4.6%	23.1	20.5	▲11.3%	19.2	▲16.9%
県央	3,077	3,057	▲0.6%	2,857	▲7.1%	29.1	25.8	▲11.3%	23.6	▲18.9%
川越比企	7,909	7,791	▲1.5%	7,220	▲8.7%	34.8	32.2	▲7.5%	32.6	▲6.3%
西部	8,042	7,954	▲1.1%	7,497	▲6.8%	41.8	36.2	▲13.4%	33.6	▲19.6%
利根	4,380	4,433	+1.2%	4,158	▲5.1%	30.4	26.3	▲13.5%	26.7	▲12.2%
北部	4,296	4,152	▲3.4%	4,083	▲5.0%	38.0	35.0	▲7.9%	33.9	▲10.8%
秩父	698	637	▲8.7%	463	▲33.7%	37.8	36.1	▲4.5%	34.5	▲8.7%

南西部医療圏 | 医療機関別職員数①

当該医療圏内の医療機関の職員数を比較しています。

各病院の医療機能に対して、適切な職員配置となっているか確認します。

No.	医療機関名	医師	うち、常勤	看護職員	看護補助者	PT+OT+ST	薬剤師	全職員
1	N H O 埼玉病院	124.2	124	657.1	19.4	36.0	36.0	957.5
2	T M G あさか医療センター	129.0	100	468.2	63.1	79.4	41.8	899.6
3	イムス富士見総合病院	82.7	67	311.7	34.0	54.0	24.0	597.4
4	新座志木中央総合病院	151.1	66	309.1	68.8	84.8	41.0	759.8
5	イムス三芳総合病院	59.9	40	248.5	17.5	6.0	34.8	438.8
6	上福岡総合病院	34.6	21	163.7	40.9	14.5	11.6	285.5
7	堀ノ内病院	43.3	17	171.1	57.4	8.0	13.2	342.9
8	T M G 宗岡中央病院	19.2	14	78.4	36.5	20.4	5.4	183.9
9	埼玉セントラル病院	13.4	12	175.7	58.7	68.9	7.7	344.8
10	さくら記念病院	15.5	11	106.1	30.9	13.0	4.0	209.5
11	恵愛病院	13.5	11	71.8	18.9	0	3.0	113.3
12	富家病院	13.1	10	132.0	79.0	92.0	5.8	348.8
13	新座病院	11.4	9	74.9	23.5	74.0	6.5	193.5
14	寿鶴会 菅野病院	34.0	5	134.0	70.0	15.0	6.0	282.0
15	塩味病院	13.5	5	30.3	9.3	24.0	2.0	85.6
16	静風荘病院	9.5	5	58.0	27.5	0	0	98.7
17	三浦病院	7.7	5	41.9	1.9	0	0	54.2
18	みずほ台病院	7.5	4	37.8	9.0	2.0	2.6	70.2
19	朝霞厚生病院	8.4	4	30.9	12.3	1.0	2.5	63.4
20	坪田和光病院	6.1	4	19.1	4.0	3.4	1.0	34.6
21	ふじみの救急病院	7.0	3	28.6	7.2	4.0	1.5	57.3
22	高田整形外科病院	5.5	3	21.6	9.6	3.0	1.0	43.7
23	三芳野病院	11.8	2	56.5	8.8	10.0	3.0	100.1
24	浅野病院	4.6	2	33.3	30.1	0	2.0	75.0
25	三芳野第 2 病院	9.6	1	53.1	6.6	12.3	2.8	90.4

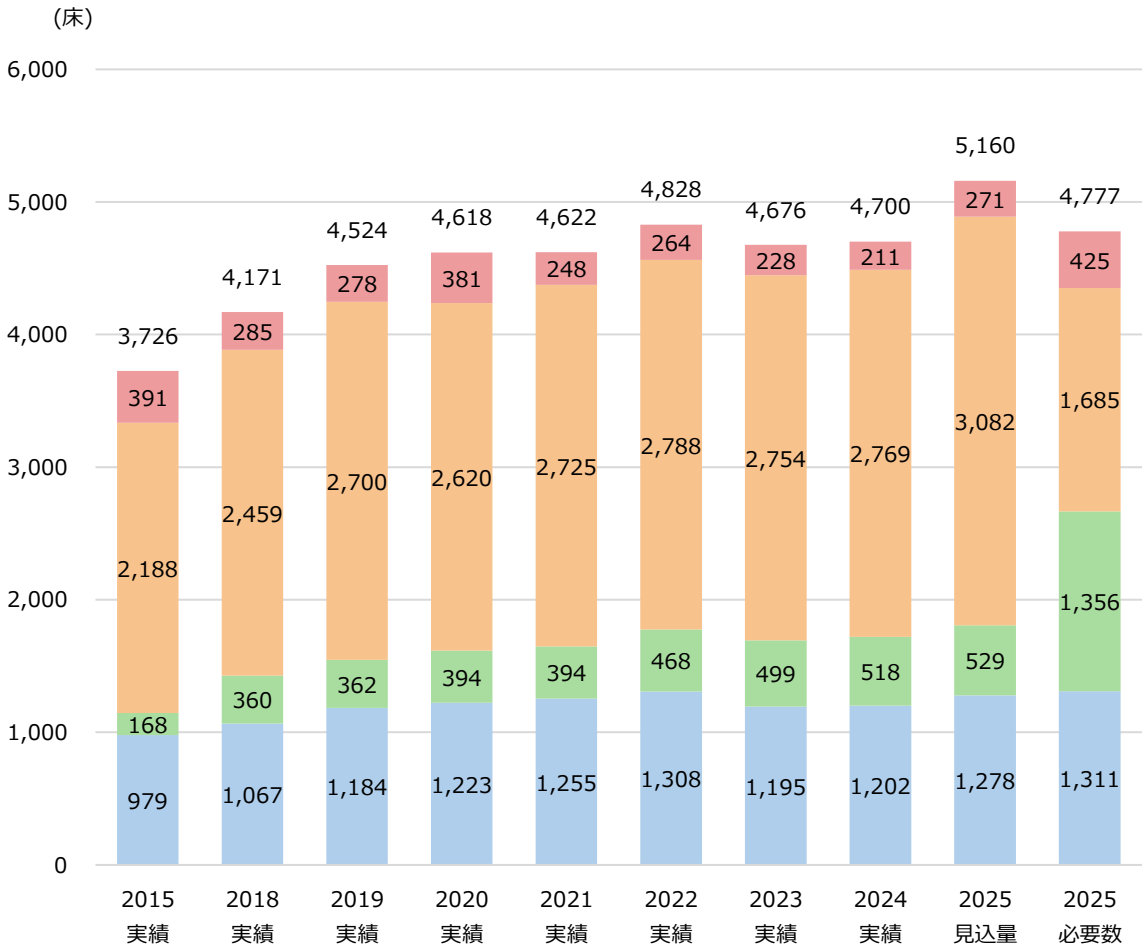
No.	医療機関名	医師	うち、常勤	看護職員	看護補助者	PT+OT+ST	薬剤師	全職員
26	北野病院	0	0	49.4	30.8	0.6	2.3	84.1
27	和光リハビリテーション病院	0	0	32.0	8.9	39.1	2.4	82.4
	総計	836.1	545	3,594.8	784.6	665.4	263.9	6,897.0

南西部区域 | 病床機能別の病床数の推移と必要病床数

当該構想区域の病床機能別の病床数の推移と、2025年の必要病床数を示しています。

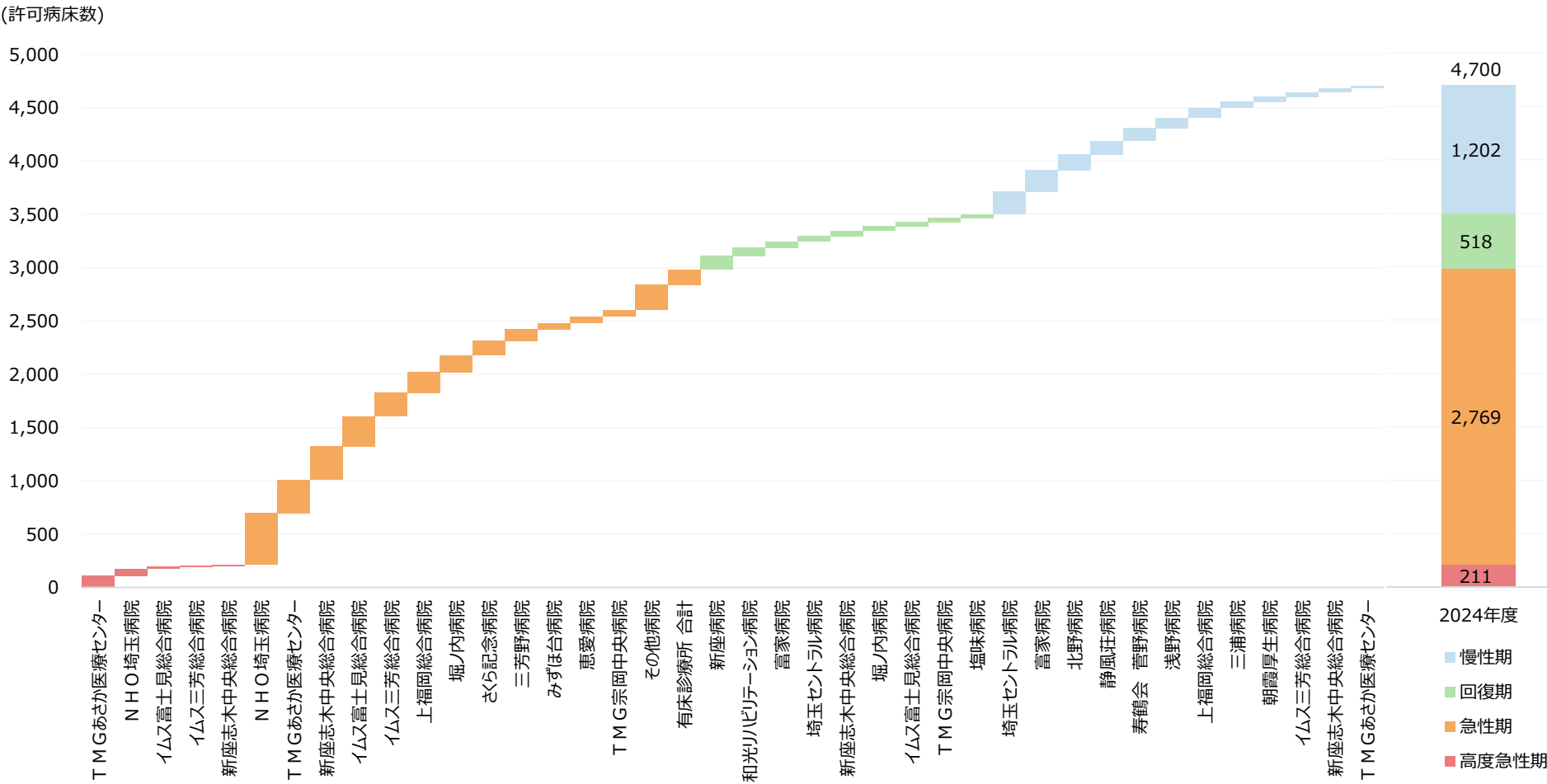
病床数全体の推移だけでなく、機能ごとの増減や、必要病床数との差を検証します。

高度急性期・急性期が少ない場合は急性期の確保、回復期が少ない場合は機能分化が課題として挙げられます。



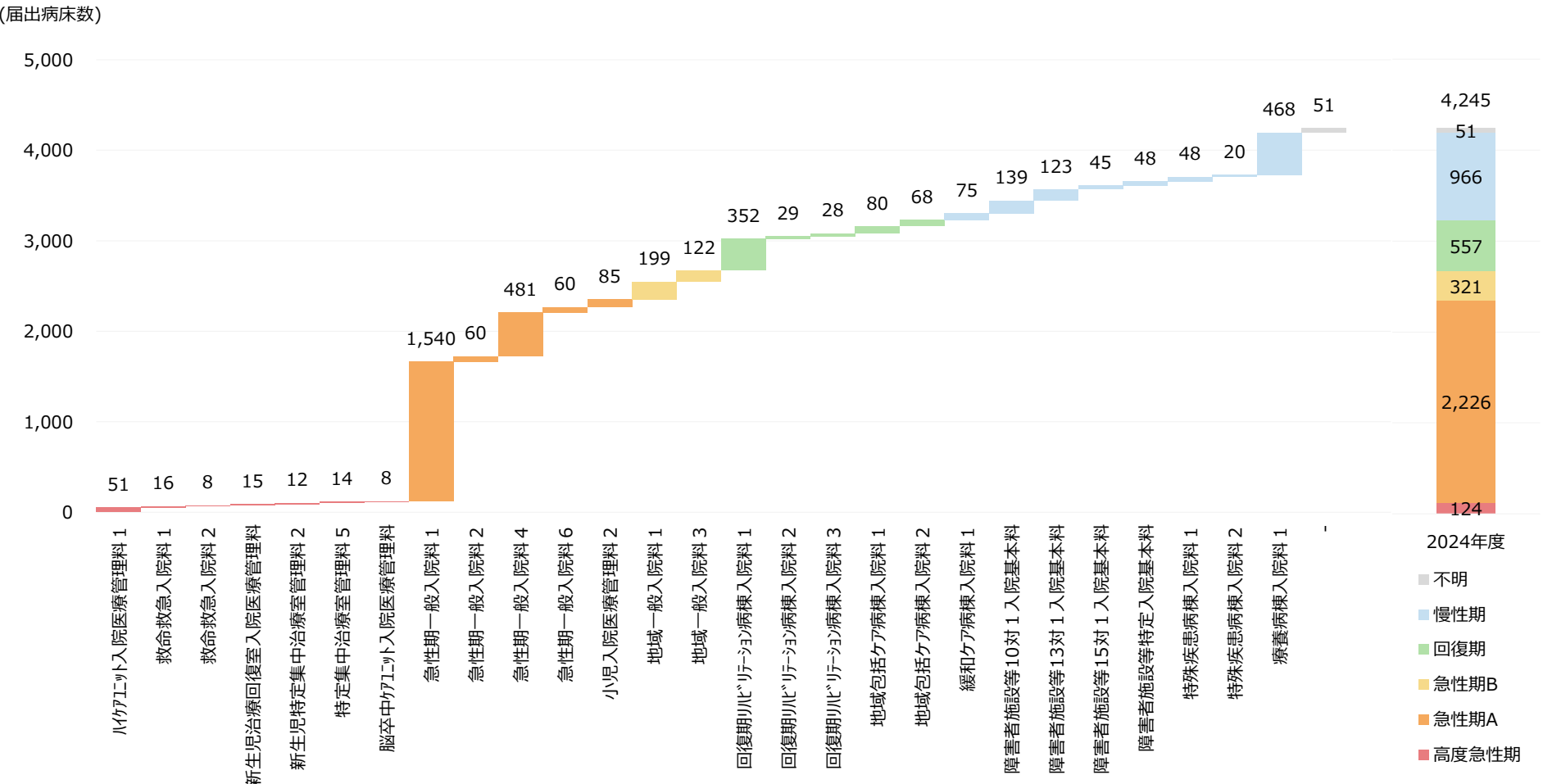
病床機能	2024年 7月時点	2025年 必要数	差分
高度急性期	211	425	▲214
急性期	2,769	1,685	+1,084
回復期	518	1,356	▲838
慢性期	1,202	1,311	▲109
合計	4,700	4,777	▲77

南西部医療圏 | 病床機能別・医療機関別の許可病床数



南西部医療圏 | 入院料別届出病床数 (病院のみ／入院基本料に基づく機能分類)

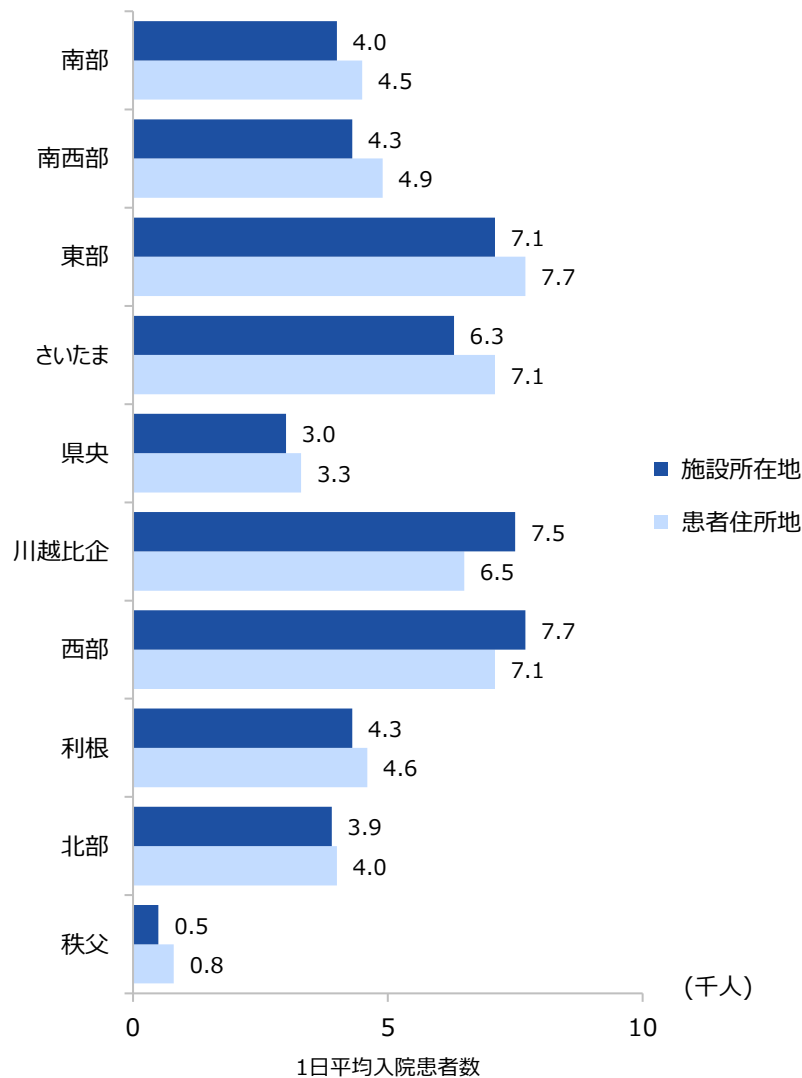
当該医療圏の入院料別の届出病床数を整理しています。
それぞれの病床機能に適した入院料の病床数が多いか確認できます。



高度急性期：HCU、救命救急、PICU、GCU、NICU、ICU、SCU
急性期A：急性期一般、小児入院、専門病院（7対1、10対1）、特定機能一般
急性期B：地域一般、一般特別、専門病院（13対1）、特定一般
回復期：回復期リハ、地域包括ケア、地域包括医療、特定機能リハ
慢性期：療養、緩和ケア、障害者、障害者特定、特殊疾患

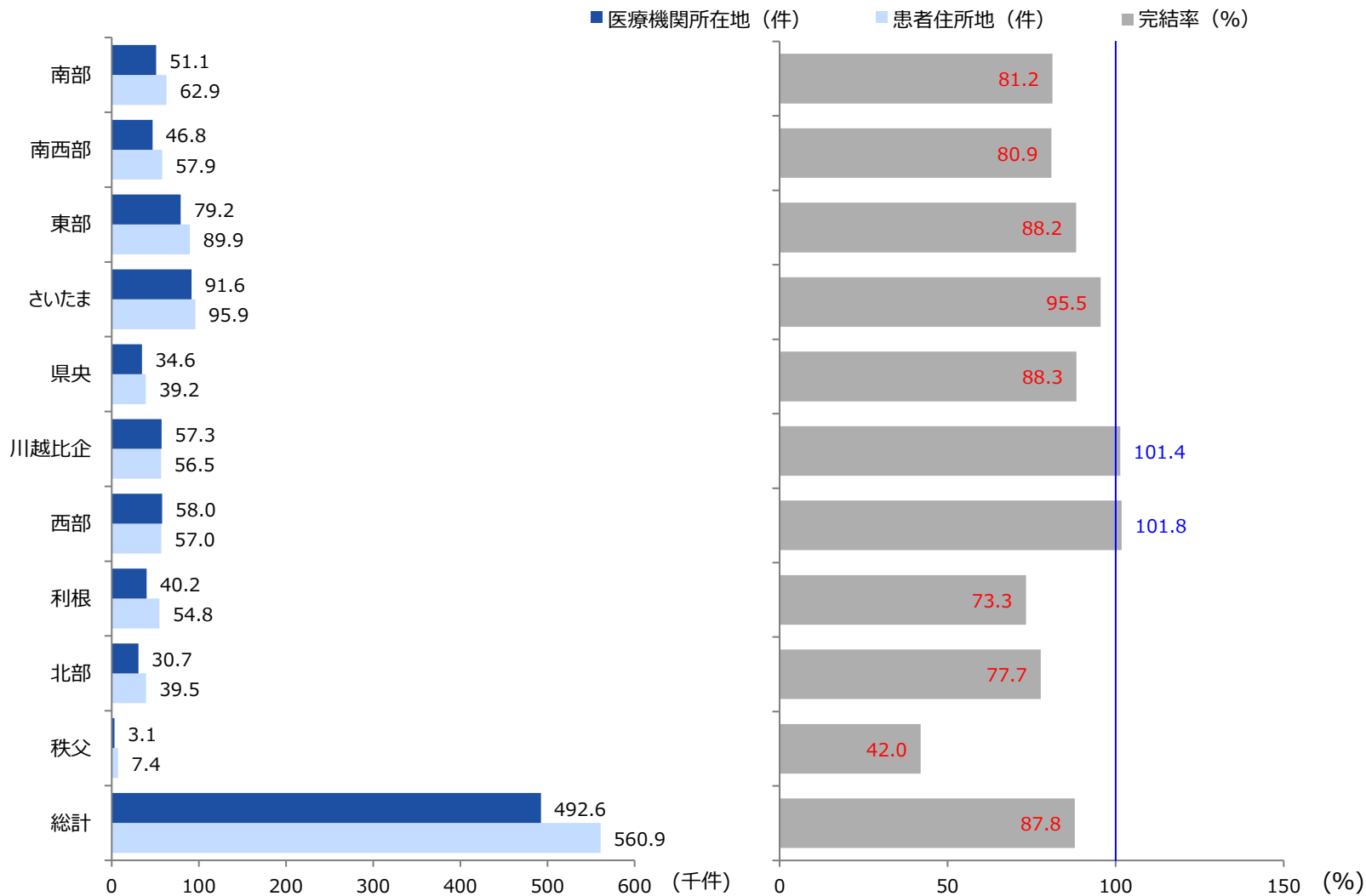
埼玉県 | 二次医療圏別の1日平均入院患者数

左図は、都道府県内の二次医療圏における1日平均入院患者数の流出入の状況を示しています。
右表では、当該医療圏におけるICD大分類別の1日平均入院患者数の流出入を示しています。



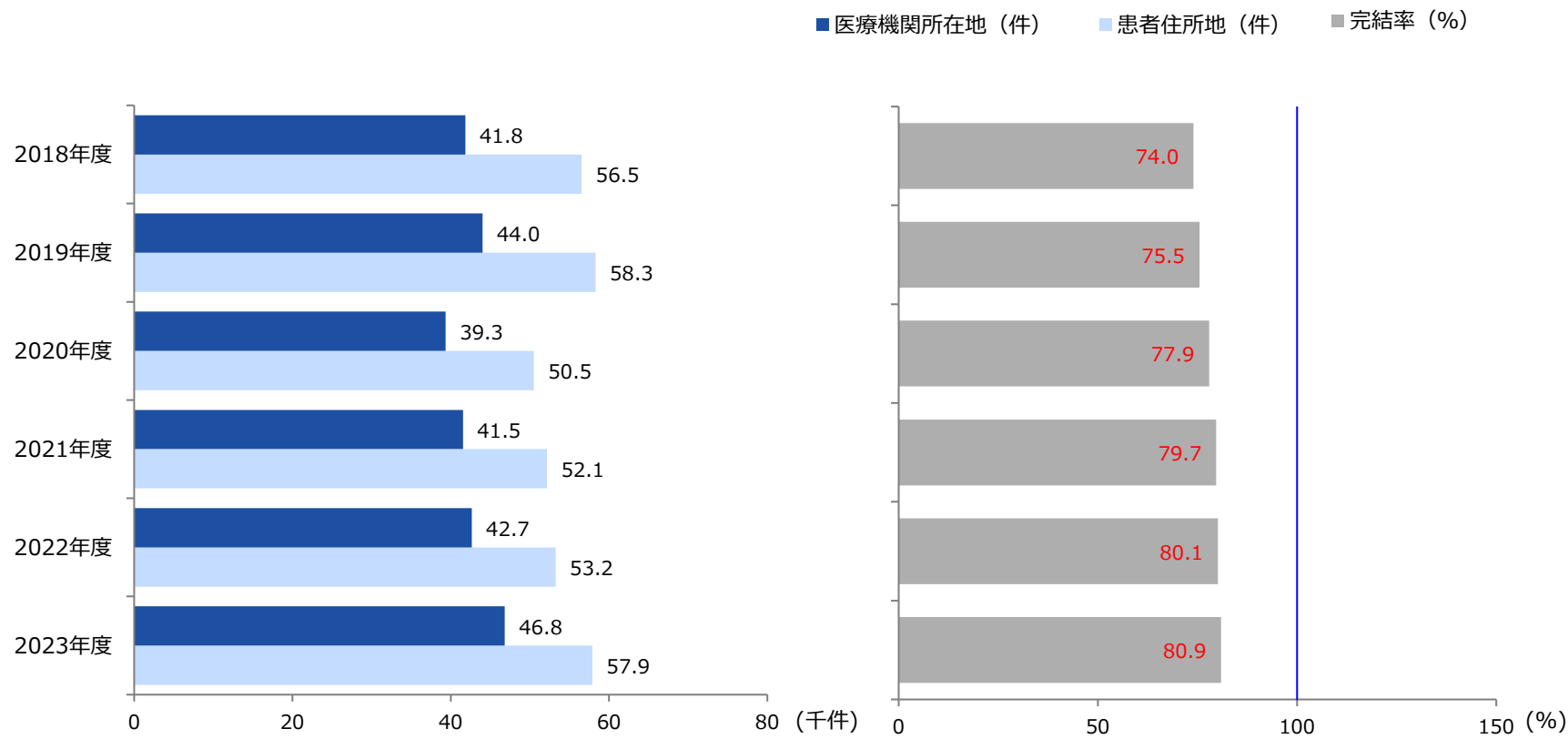
傷病分類	入院患者数(単位：千人/日)		流出入
	施設所在地	患者住所地	
I 感染症	0	0.1	▲0.1
II 新生物	0.4	0.5	▲0.1
III 血液	0	0	0
IV 内分泌	0.1	0.2	▲0.1
V 精神	0.4	0.6	▲0.2
VI 神経系	0.8	0.6	0.2
VII 眼	0	0	0
VIII 耳	0	0	0
IX 循環器	0.8	1.0	▲0.2
X 呼吸器	0.3	0.3	0
X I 消化器	0.2	0.3	▲0.1
X II 皮膚	0	0.1	▲0.1
X III 筋骨格	0.2	0.3	▲0.1
X IV 腎尿路	0.3	0.2	0.1
X V 妊娠，分娩	0.1	0.1	0
X VI 周産期	0	0	0
X VII 先天奇形	0	0	0
X VIII 症状，徴候	0.1	0.1	0
X IX 損傷，中毒	0.4	0.5	▲0.1
X X I 保健サービス	0	0	0
X X II 特殊目的用	0.1	0.1	0
総数	4.2	5.0	▲0.8

埼玉県 | 二次医療圏別の流出入状況（DPC症例数）



南西部医療圏 | 患者流出入状況の年度推移（DPC症例数）

都道府県内の二次医療圏におけるDPC症例数の流出入の状況を示しています。



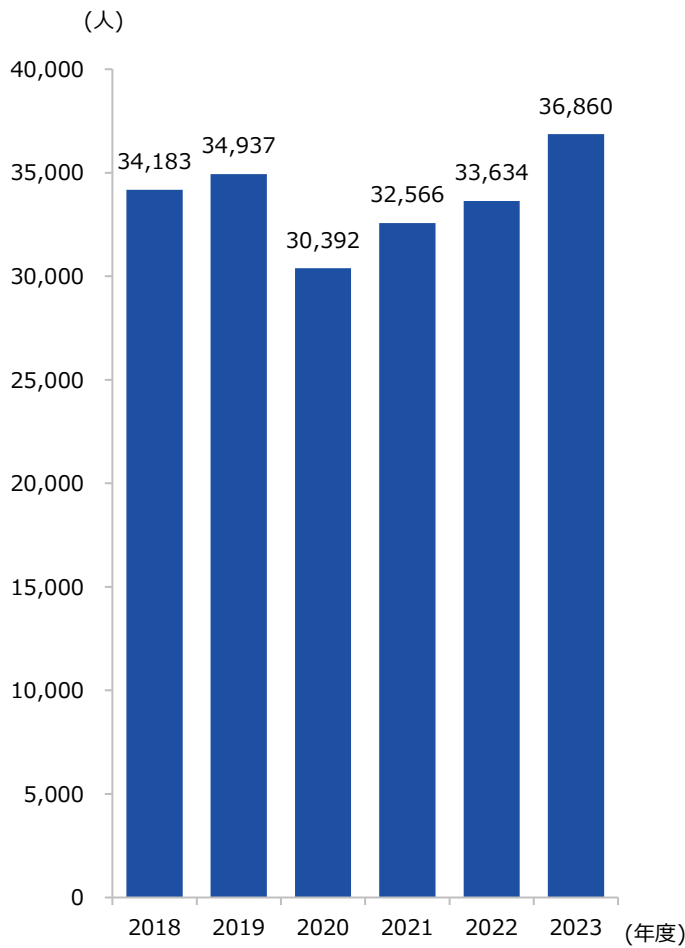
出典：「DPC導入の影響評価に係る調査「退院患者調査」（厚生労働省）

南西部医療圏 | MDC別退院患者数の推移（DPC病院のみ）

左図は、当該医療圏のDPC対象病院における退院患者数の推移を示しています。

右表は、MDC別の退院患者数を示しています。

退院患者数：合計



退院患者数：MDC別

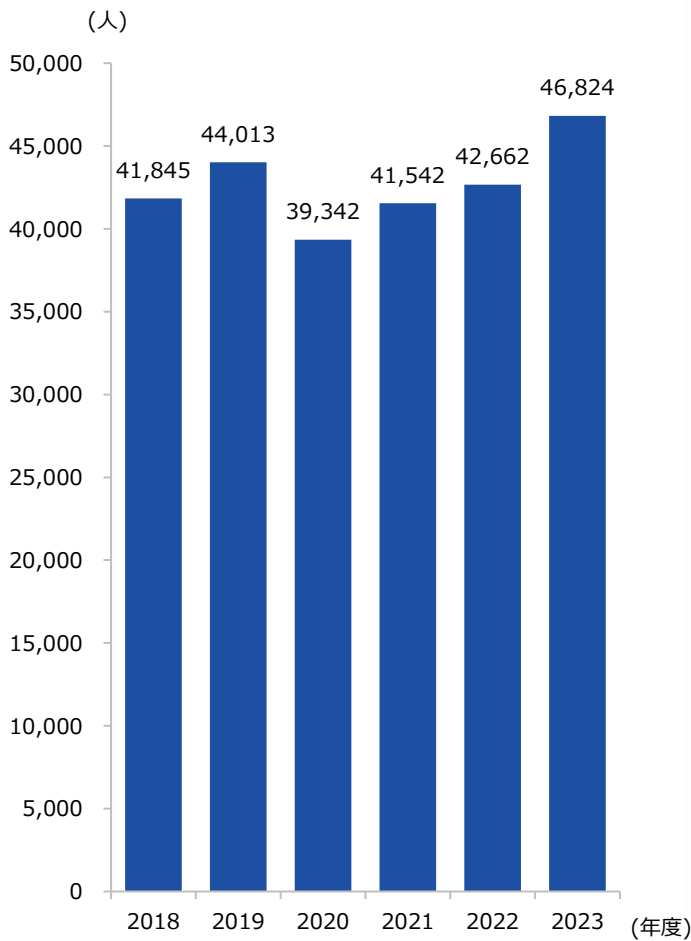
MDC名称	2018	2019	2020	2021	2022	2023	推移 2023- 2018	2023年 構成比
MDC01 神経系	2,779	2,709	2,425	2,502	2,531	2,671	▲3.9%	7.2%
MDC02 眼科系	2,000	2,260	1,768	2,082	2,519	2,686	34.3%	7.3%
MDC03 耳鼻咽喉科系	1,179	1,103	1,103	1,119	1,112	1,323	12.2%	3.6%
MDC04 呼吸器系	4,452	4,543	2,837	3,225	3,177	3,962	▲11.0%	10.7%
MDC05 循環器系	4,241	3,959	3,566	3,903	4,188	4,365	2.9%	11.8%
MDC06 消化器系, 肝臓・胆道・膵臓	7,012	7,594	7,177	7,233	6,739	7,043	0.4%	19.1%
MDC07 筋骨格系	1,975	1,959	1,647	1,728	1,790	2,062	4.4%	5.6%
MDC08 皮膚・皮下組織	782	728	549	601	527	654	▲16.4%	1.8%
MDC09 乳房	355	413	384	395	400	423	19.2%	1.1%
MDC10 内分泌・栄養・代謝	869	984	840	767	722	909	4.6%	2.5%
MDC11 腎・泌尿系及び男性生殖器系	2,827	2,709	2,501	2,740	2,802	3,047	7.8%	8.3%
MDC12 女性生殖器系及び産褥期・異常妊娠分娩	1,495	1,684	1,764	2,053	2,258	2,318	55.1%	6.3%
MDC13 血液・造血管・免疫機構	508	434	442	604	630	784	54.3%	2.1%
MDC14 新生児、先天性奇形	369	452	476	511	597	565	53.1%	1.5%
MDC15 小児	236	260	137	187	254	290	22.9%	0.8%
MDC16 外傷・熱傷・中毒	2,603	2,672	2,227	2,345	2,799	3,087	18.6%	8.4%
MDC17 精神	25	29	33	34	44	49	96.0%	0.1%
MDC18 その他	476	445	516	537	545	622	30.7%	1.7%
総計	34,183	34,937	30,392	32,566	33,634	36,860	7.8%	100.0%

南西部医療圏 | MDC別退院患者数の推移（出来高病院含む）

左図は、当該医療圏のDPC対象病院・出来高病院における退院患者数の推移を示しています。

右表は、MDC別の退院患者数を示しています。

退院患者数：合計



退院患者数：MDC別

MDC名称	2018	2019	2020	2021	2022	2023	推移 2023- 2018	2023年 構成比
MDC01 神経系	3,162	3,096	2,811	2,815	2,810	3,043	▲3.8%	6.5%
MDC02 眼科系	2,218	2,531	1,972	2,355	2,798	3,000	35.3%	6.4%
MDC03 耳鼻咽喉科系	1,405	1,298	1,251	1,273	1,309	1,561	11.1%	3.3%
MDC04 呼吸器系	5,497	5,711	3,484	3,850	3,742	4,791	▲12.8%	10.2%
MDC05 循環器系	4,581	4,287	3,883	4,197	4,501	4,714	2.9%	10.1%
MDC06 消化器系, 肝臓・胆道・膵臓	9,997	10,647	9,676	9,885	9,475	9,956	▲0.4%	21.3%
MDC07 筋骨格系	2,208	2,355	2,065	2,112	2,142	2,511	13.7%	5.4%
MDC08 皮膚・皮下組織	923	879	645	738	658	811	▲12.1%	1.7%
MDC09 乳房	439	471	447	485	471	480	9.3%	1.0%
MDC10 内分泌・栄養・代謝	1,185	1,399	1,170	1,099	1,034	1,239	4.6%	2.6%
MDC11 腎・泌尿系及び男性生殖器系	3,434	3,388	3,119	3,427	3,458	3,745	9.1%	8.0%
MDC12 女性生殖器系及び産褥期・異常妊娠分娩	1,594	2,036	3,067	3,319	3,453	3,579	124.5%	7.6%
MDC13 血液・造血管・免疫機構	631	580	553	724	772	908	43.9%	1.9%
MDC14 新生児、先天性奇形	386	556	940	827	985	895	131.9%	1.9%
MDC15 小児	238	268	138	190	255	293	23.1%	0.6%
MDC16 外傷・熱傷・中毒	3,328	3,910	3,441	3,509	4,053	4,465	34.2%	9.5%
MDC17 精神	62	80	88	105	109	111	79.0%	0.2%
MDC18 その他	557	521	592	632	637	722	29.6%	1.5%
総計	41,845	44,013	39,342	41,542	42,662	46,824	11.9%	100.0%

3/ 医療需要の将来推計

人口推計と受療率をもとに、将来の医療・介護需要を整理する。

疾患領域別の患者数推計

入院・外来・在宅の需要構造

2040年以降の需要変化

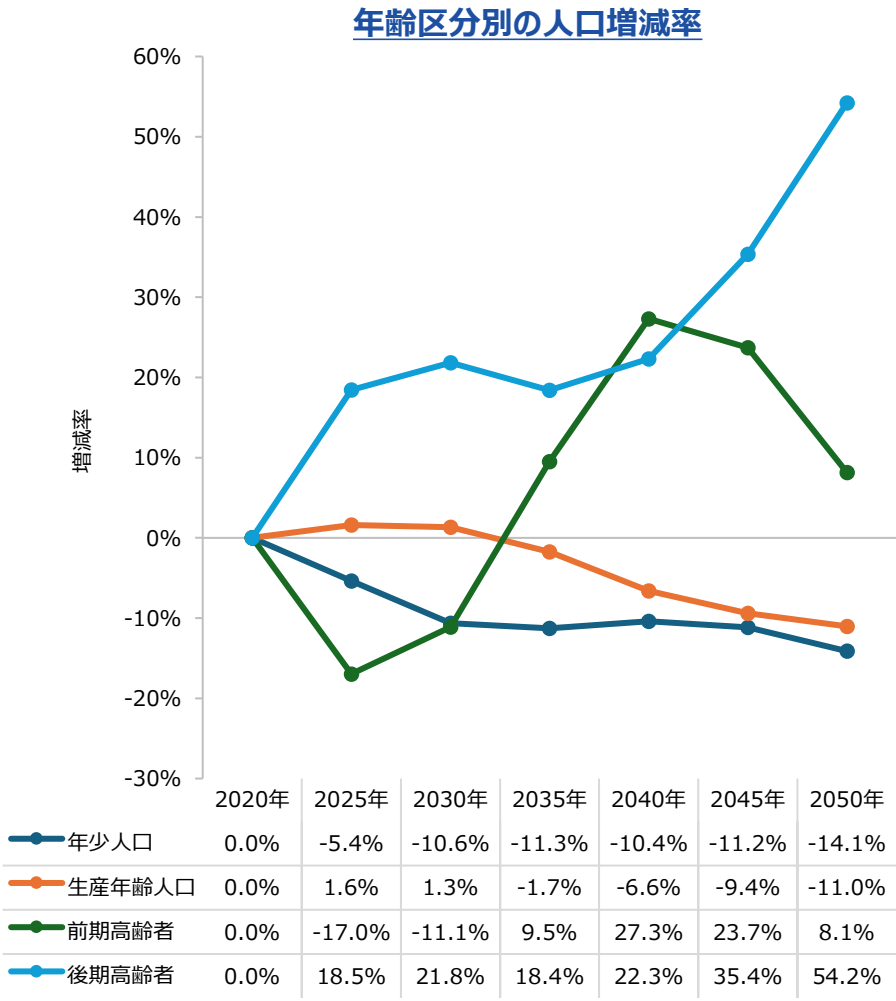
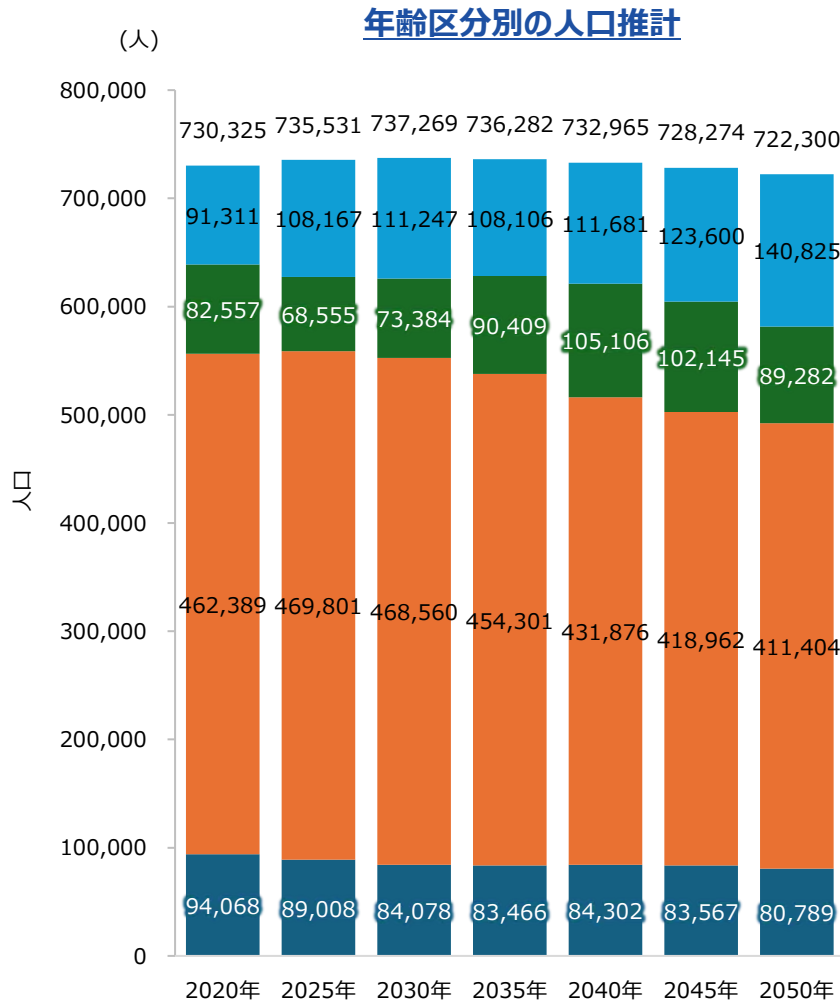
将来の患者数の増減や需要構造の変化を把握し、地域医療における課題を整理する。
需要の時間的な変化を踏まえ、機能転換や医療資源配分を検討するための基礎資料とする。

南西部医療圏 | 人口推計

2050年までの人口の将来推計を示しています。

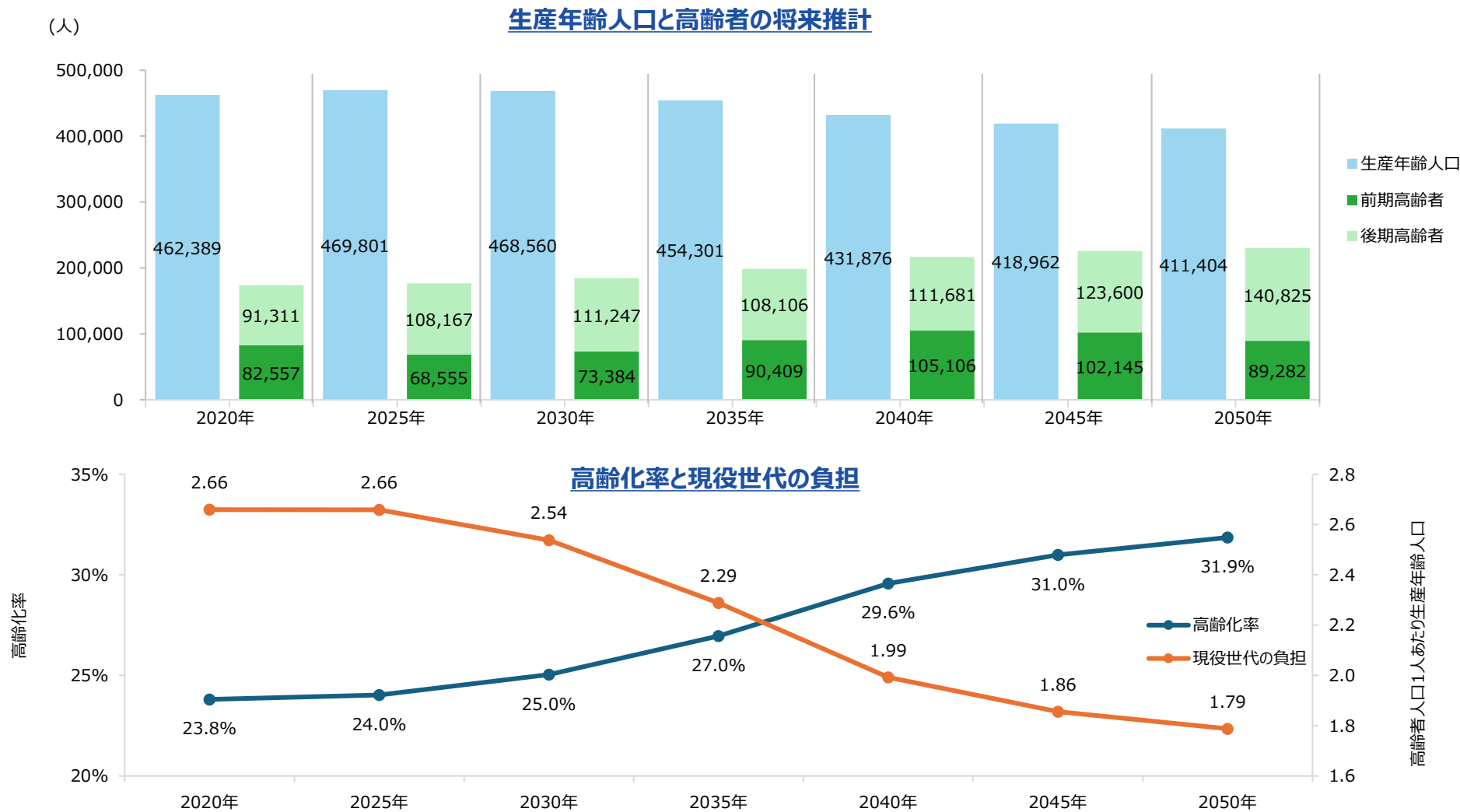
多くの地域において、総人口は減少しますが、高齢者人口は増加傾向にあります。

特に、医療介護の複合的なニーズを持つ後期高齢者の増加幅と、支え手となる生産年齢人口の減少幅について確認が必要です。



南西部医療圏 | 高齢化の状況

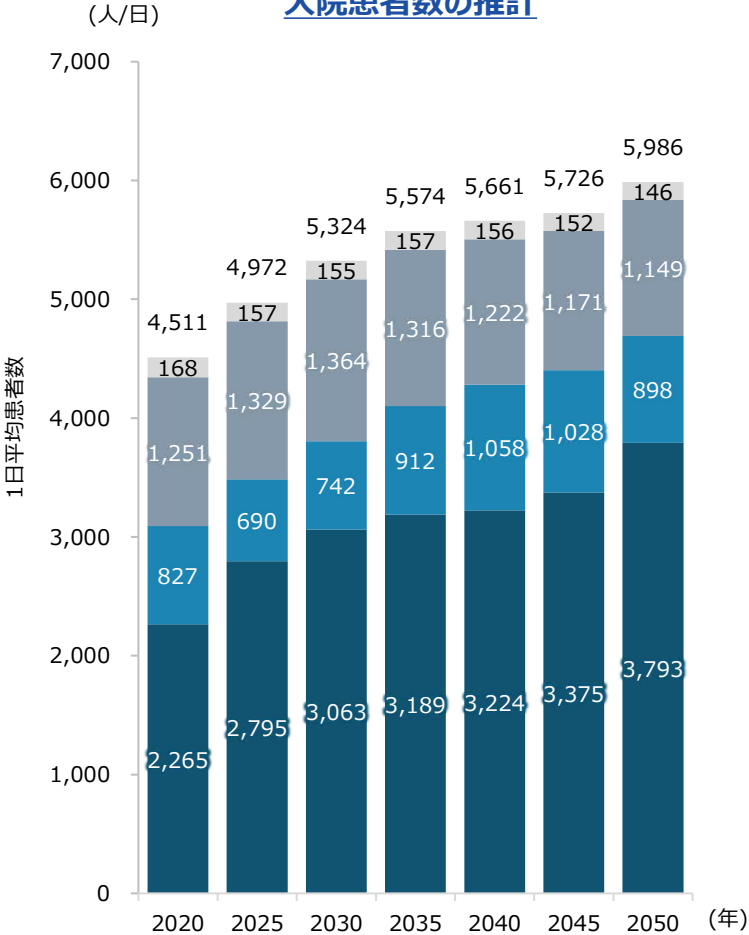
高齢化率と現役世代の負担（高齢者1人あたり生産年齢人口）を示しています。
全国の2020年時点の高齢化率は28.6%、現役世代の負担は2.1となっています。



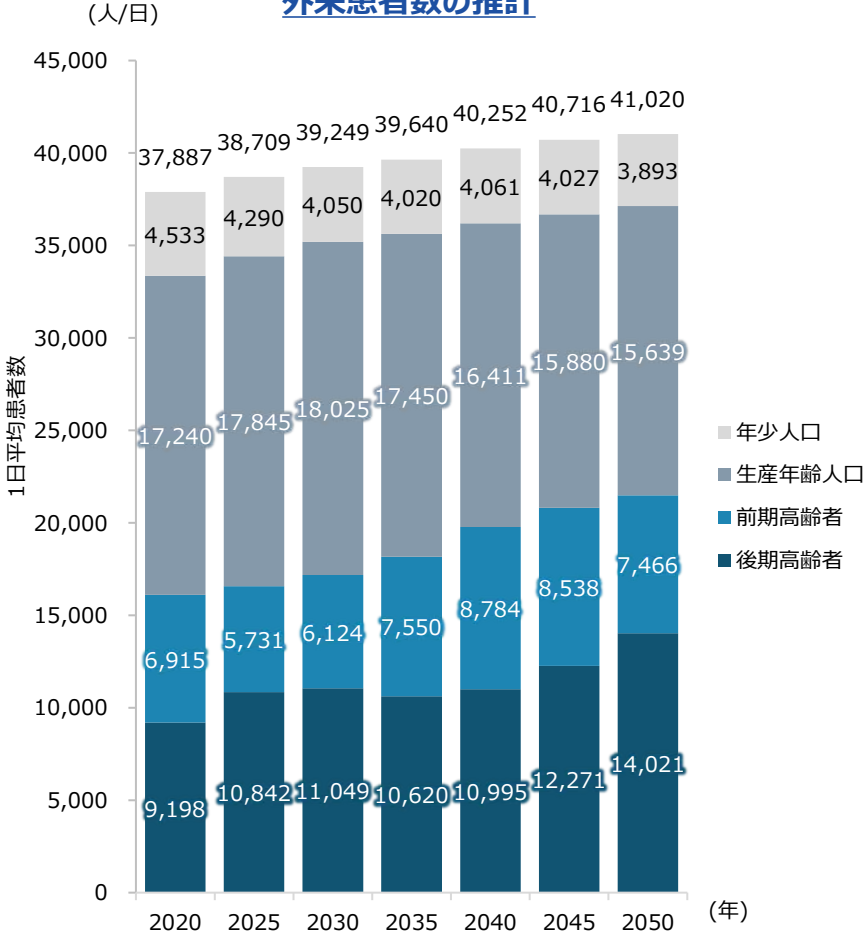
南西部医療圏 | 1日平均患者数

都道府県受療率に基づく、2050年までの入院患者数および外来患者数の需要予測を示しています。
多くの地域では入院需要が増加、外来需要が減少傾向にあり、需要の変化に合わせた医療提供体制の構築が求められます。

入院患者数の推計



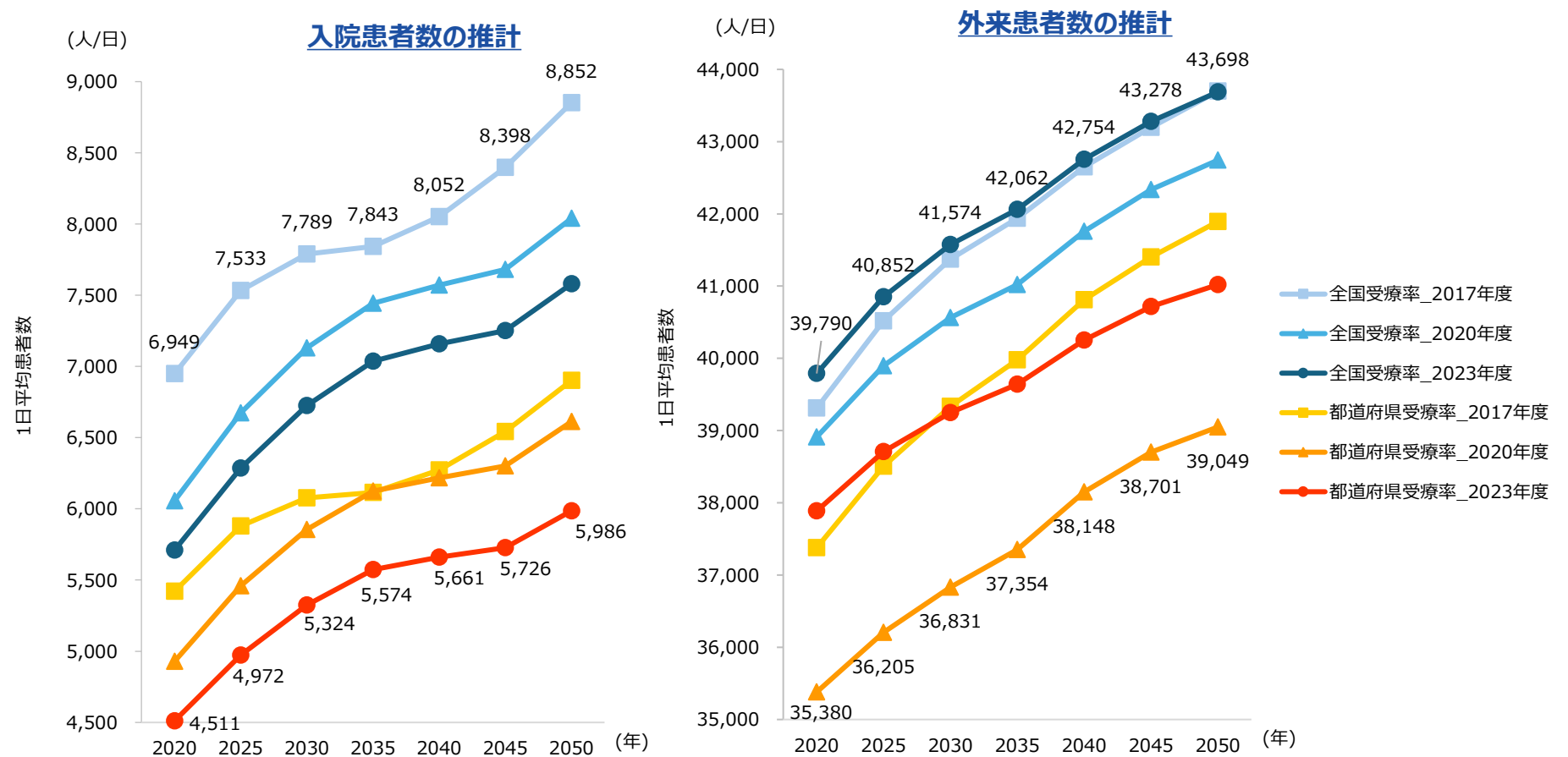
外来患者数の推計



南西部医療圏 | 受療率の比較

3つの調査年（2017年、2020年、2023年）における、全国および都道府県の受療率を対象医療圏の人口に乗じて算出した患者数の将来推計を示しています。

全国の受療率よりも受療率が高い場合は、入院需要の縮小のリスクが想定されます。



南西部医療圏 | ICD別の入院患者数推計

疾患別の入院患者数の将来推計を示しています。

ICD分類	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年
I 感染症及び寄生虫症	61	68	73	76	77	78	82
II 新生物＜腫瘍＞	503	528	548	564	585	601	615
III 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	23	25	27	27	28	29	31
IV 内分泌，栄養及び代謝疾患	103	119	132	142	143	143	151
V 精神及び行動の障害	752	783	812	828	834	834	837
VI 神経系の疾患	441	502	544	572	580	590	629
VII 眼及び付属器の疾患	32	34	35	35	36	37	38
VIII 耳及び乳様突起の疾患	7	7	7	7	7	7	7
IX 循環器系の疾患	732	836	916	975	992	1,004	1,065
X 呼吸器系の疾患	321	375	415	448	453	458	494
X I 消化器系の疾患	264	290	310	324	328	332	346
X II 皮膚及び皮下組織の疾患	56	63	67	70	71	72	76
X III 筋骨格系及び結合組織の疾患	247	270	286	296	305	313	327
X IV 腎尿路生殖器系の疾患	203	226	242	253	259	266	281
X V 妊娠，分娩及び産じょく	90	91	90	90	89	86	82
X VI 周産期に発生した病態	46	43	43	45	44	42	40
X VII 先天奇形，変形及び染色体異常	33	32	31	31	31	31	30
X VIII 症状，徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	51	59	65	69	70	70	76
X IX 損傷，中毒及びその他の外因の影響	462	528	577	611	618	623	662
X X I 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	29	29	30	30	29	29	28
X X II 特殊目的用コード	56	67	76	82	83	83	90
総数	4,513	4,974	5,327	5,577	5,663	5,729	5,988

南西部医療圏 | ICD別の入院患者数増減率

疾患別の入院患者数の将来推計の増減率を示しています。

ICD分類	1日平均患者数 2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年
I 感染症及び寄生虫症	61	11.4%	19.4%	23.8%	25.5%	27.8%	34.6%
II 新生物＜腫瘍＞	503	4.9%	9.0%	12.1%	16.3%	19.5%	22.1%
III 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	23	10.9%	17.0%	20.6%	22.6%	26.3%	34.6%
IV 内分泌、栄養及び代謝疾患	103	15.4%	28.2%	37.6%	38.7%	38.5%	46.5%
V 精神及び行動の障害	752	4.1%	7.9%	10.1%	10.9%	10.9%	11.2%
VI 神経系の疾患	441	14.0%	23.6%	29.9%	31.6%	33.9%	42.8%
VII 眼及び付属器の疾患	32	5.2%	7.6%	7.9%	11.4%	15.5%	18.7%
VIII 耳及び乳様突起の疾患	7	3.1%	5.3%	7.9%	7.2%	5.0%	3.9%
IX 循環器系の疾患	732	14.2%	25.2%	33.2%	35.5%	37.1%	45.5%
X 呼吸器系の疾患	321	16.8%	29.4%	39.5%	41.2%	42.7%	54.1%
X I 消化器系の疾患	264	9.7%	17.1%	22.4%	24.2%	25.5%	30.8%
X II 皮膚及び皮下組織の疾患	56	11.7%	19.5%	23.7%	25.1%	27.4%	34.8%
X III 筋骨格系及び結合組織の疾患	247	9.1%	15.7%	19.9%	23.4%	26.6%	32.3%
X IV 腎尿路生殖器系の疾患	203	11.5%	19.2%	24.8%	27.8%	30.8%	38.5%
X V 妊娠、分娩及び産じょく	90	0.2%	-0.1%	-0.5%	-1.4%	-4.7%	-8.9%
X VI 周産期に発生した病態	46	-6.7%	-5.2%	-2.2%	-4.1%	-7.5%	-11.6%
X VII 先天奇形、変形及び染色体異常	33	-3.1%	-4.3%	-3.8%	-4.6%	-6.1%	-8.1%
X VIII 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	51	16.1%	27.9%	36.9%	38.2%	39.3%	49.6%
X IX 損傷、中毒及びその他の外因の影響	462	14.2%	24.7%	32.1%	33.6%	34.8%	43.1%
X X I 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	29	-1.1%	0.7%	0.7%	-0.8%	-2.0%	-3.7%
X X II 特殊目的用コード	56	19.7%	35.1%	47.2%	48.4%	49.0%	61.3%
総数	4,513	10.2%	18.0%	23.6%	25.5%	26.9%	32.7%

南西部医療圏 | ICD別の外来患者数推計

疾患別の外来患者数の将来推計を示しています。

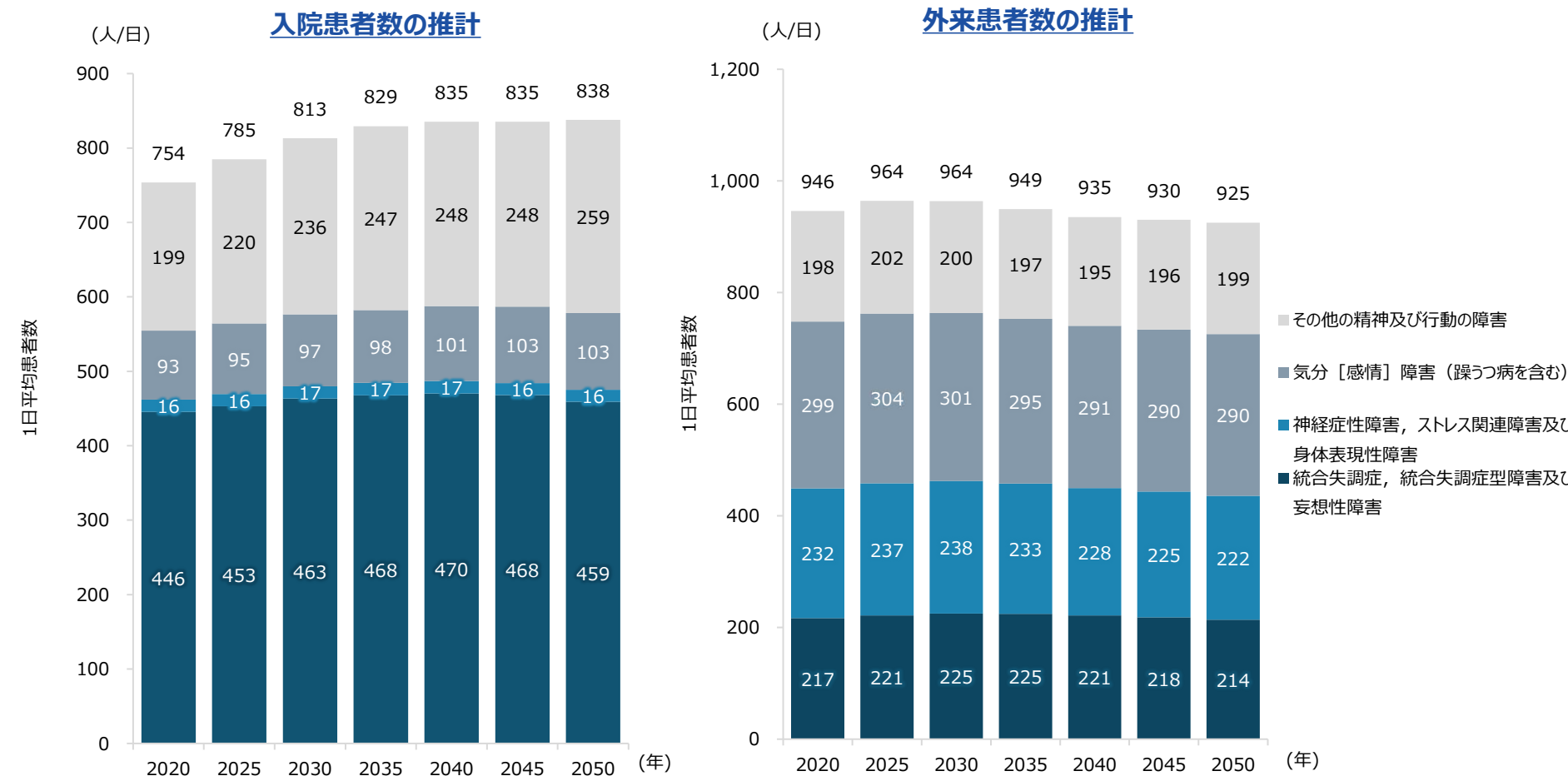
ICD分類	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年
I 感染症及び寄生虫症	811	809	807	814	824	827	825
II 新生物＜腫瘍＞	1,268	1,295	1,310	1,323	1,361	1,395	1,410
III 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	131	132	133	133	131	130	131
IV 内分泌，栄養及び代謝疾患	1,715	1,770	1,827	1,868	1,925	1,959	1,971
V 精神及び行動の障害	946	965	964	950	936	931	926
VI 神経系の疾患	715	758	789	811	823	832	855
VII 眼及び付属器の疾患	1,855	1,910	1,944	1,975	2,027	2,071	2,110
VIII 耳及び乳様突起の疾患	288	296	297	296	302	311	318
IX 循環器系の疾患	3,487	3,725	3,888	3,985	4,121	4,254	4,407
X 呼吸器系の疾患	4,320	4,228	4,143	4,115	4,090	4,056	3,995
X I 消化器系の疾患	7,126	7,239	7,307	7,353	7,398	7,420	7,422
X II 皮膚及び皮下組織の疾患	1,803	1,794	1,782	1,774	1,766	1,753	1,730
X III 筋骨格系及び結合組織の疾患	4,397	4,605	4,734	4,785	4,924	5,068	5,183
X IV 腎尿路生殖器系の疾患	1,589	1,633	1,651	1,672	1,712	1,749	1,780
X V 妊娠，分娩及び産じょく	41	41	40	40	40	39	37
X VI 周産期に発生した病態	14	13	14	14	14	13	13
X VII 先天奇形，変形及び染色体異常	142	138	137	138	140	137	131
X VIII 症状，徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	538	567	585	594	597	601	613
X IX 損傷，中毒及びその他の外因の影響	1,791	1,822	1,830	1,829	1,826	1,830	1,840
X X I 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	4,786	4,844	4,939	5,042	5,174	5,220	5,203
X X II 特殊目的用コード	123	128	129	127	123	120	120
総数	37,887	38,709	39,249	39,641	40,252	40,716	41,021

南西部医療圏 | ICD別の外来患者数増減率

疾患別の外来患者数の将来推計の増減率を示しています。

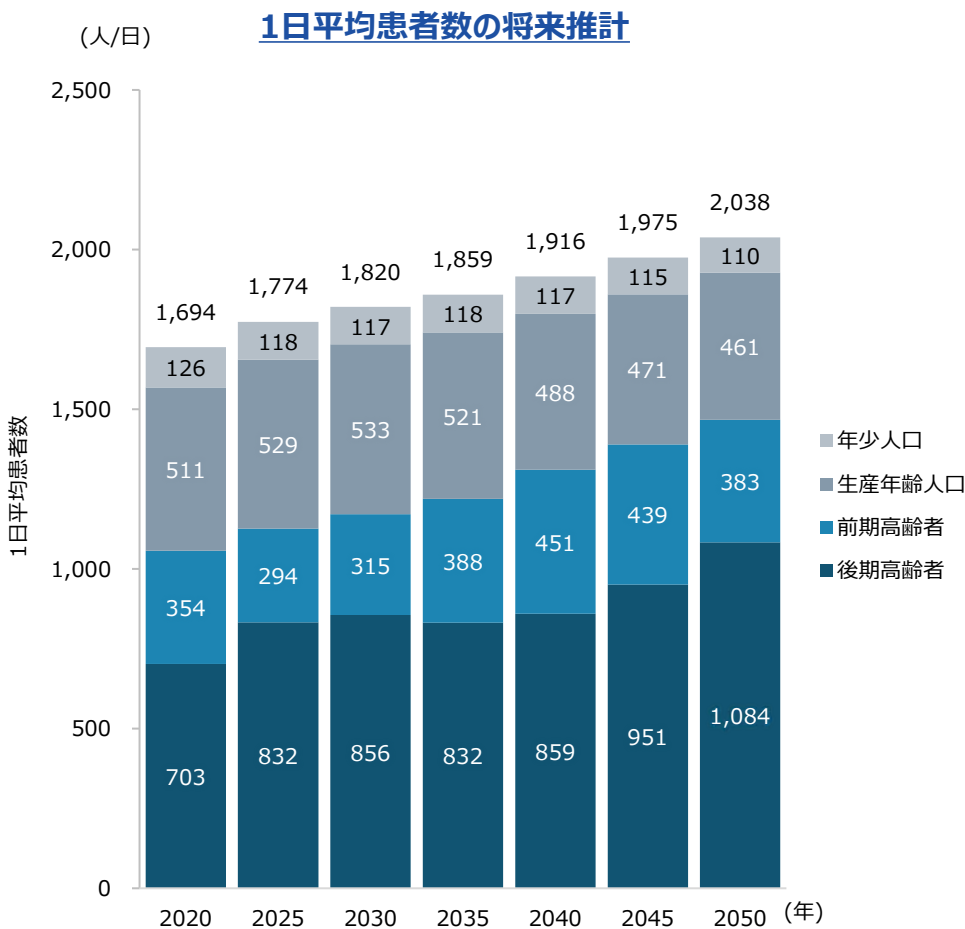
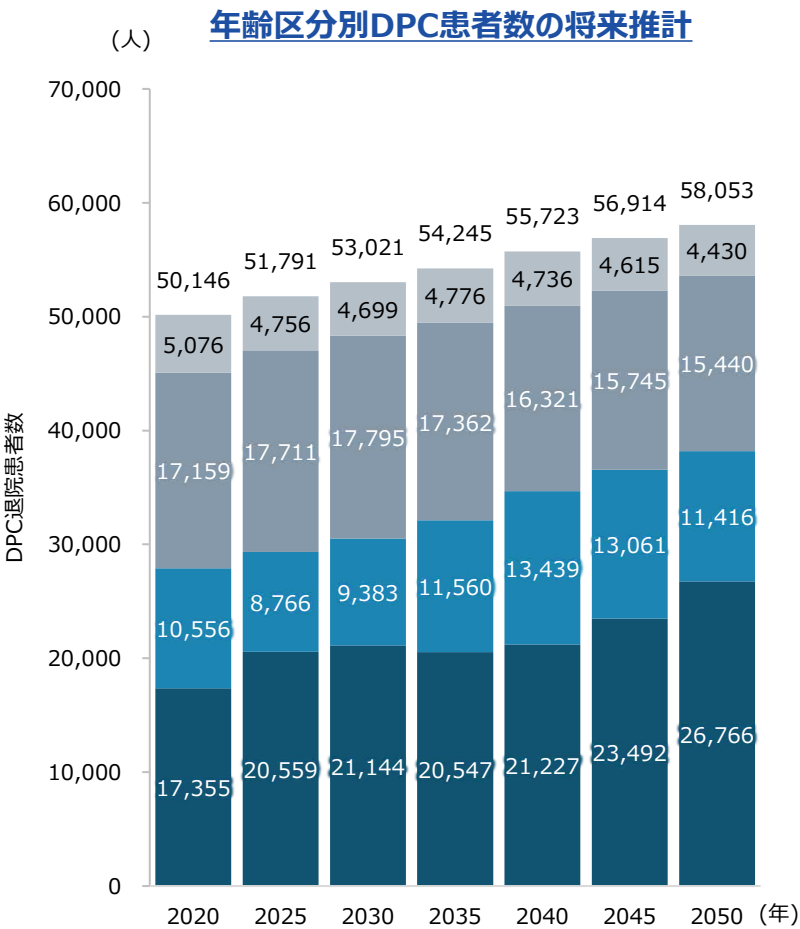
ICD分類	1日平均患者数 2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年
I 感染症及び寄生虫症	811	-0.3%	-0.5%	0.3%	1.6%	2.0%	1.7%
II 新生物＜腫瘍＞	1,268	2.2%	3.4%	4.4%	7.3%	10.0%	11.2%
III 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	131	0.7%	1.7%	1.8%	0.2%	-0.7%	-0.2%
IV 内分泌、栄養及び代謝疾患	1,715	3.2%	6.5%	8.9%	12.3%	14.3%	14.9%
V 精神及び行動の障害	946	1.9%	1.9%	0.4%	-1.1%	-1.7%	-2.2%
VI 神経系の疾患	715	6.1%	10.4%	13.5%	15.2%	16.4%	19.6%
VII 眼及び付属器の疾患	1,855	2.9%	4.7%	6.4%	9.3%	11.6%	13.7%
VIII 耳及び乳様突起の疾患	288	2.7%	3.1%	2.8%	4.9%	7.9%	10.4%
IX 循環器系の疾患	3,487	6.8%	11.5%	14.3%	18.2%	22.0%	26.4%
X 呼吸器系の疾患	4,320	-2.1%	-4.1%	-4.8%	-5.3%	-6.1%	-7.5%
X I 消化器系の疾患	7,126	1.6%	2.6%	3.2%	3.8%	4.1%	4.2%
X II 皮膚及び皮下組織の疾患	1,803	-0.5%	-1.1%	-1.6%	-2.1%	-2.8%	-4.0%
X III 筋骨格系及び結合組織の疾患	4,397	4.7%	7.7%	8.8%	12.0%	15.2%	17.9%
X IV 腎尿路生殖器系の疾患	1,589	2.8%	3.9%	5.2%	7.8%	10.1%	12.0%
X V 妊娠、分娩及び産じょく	41	-1.7%	-2.2%	-1.8%	-3.0%	-6.3%	-9.4%
X VI 周産期に発生した病態	14	-6.6%	-5.5%	-2.8%	-4.5%	-7.7%	-11.7%
X VII 先天奇形、変形及び染色体異常	142	-3.3%	-4.0%	-2.7%	-1.7%	-3.6%	-7.9%
X VIII 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	538	5.4%	8.8%	10.5%	10.9%	11.8%	14.0%
X IX 損傷、中毒及びその他の外因の影響	1,791	1.7%	2.2%	2.1%	1.9%	2.2%	2.7%
X X I 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	4,786	1.2%	3.2%	5.3%	8.1%	9.1%	8.7%
X X II 特殊目的用コード	123	3.3%	4.2%	2.6%	-0.6%	-2.5%	-3.0%
総数	37,887	2.2%	3.6%	4.6%	6.2%	7.5%	8.3%

南西部医療圏 | 精神病床の1日平均患者数



南西部医療圏 | DPC患者数の推計

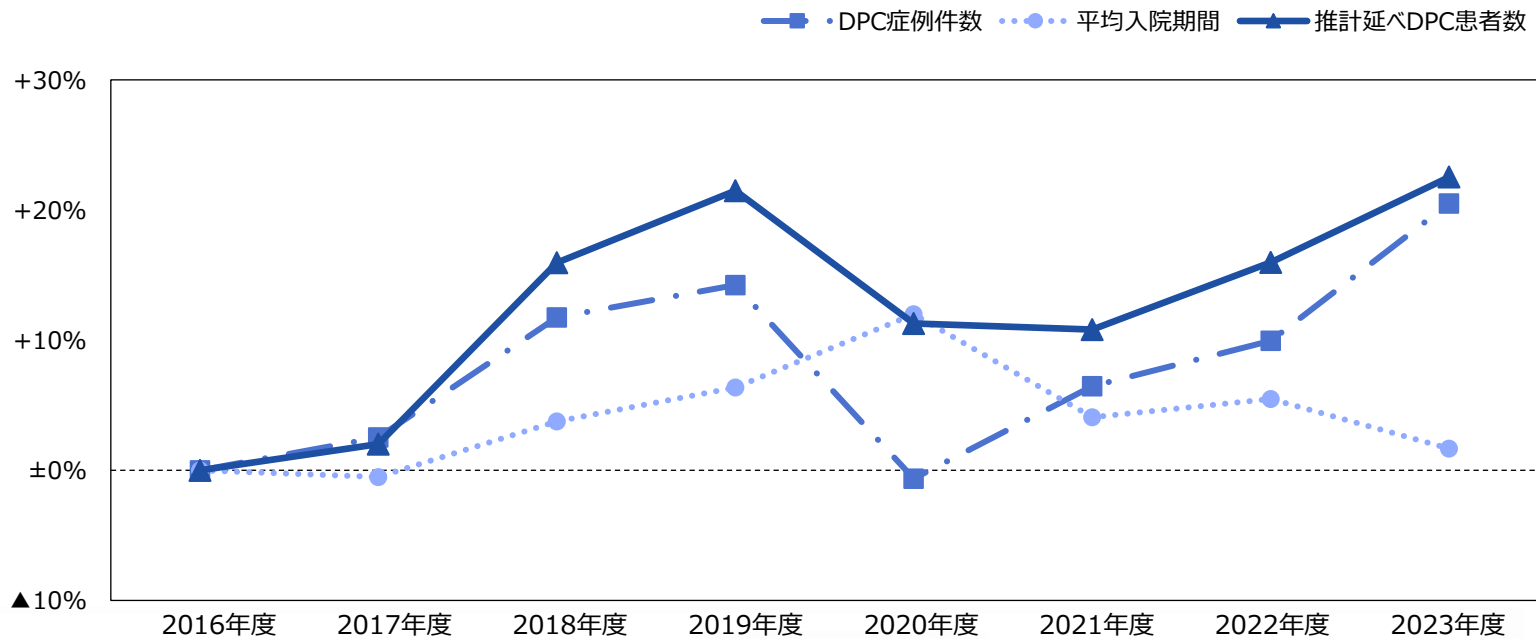
年齢層別のDPC患者数の将来推計を示しています。
多くの地域は後期高齢者のDPC患者数および1日平均患者数が増加傾向にありますが、その他の人口において減少が見られ、従来の手術を中心とした急性期医療は減少する見込みです。



出典：「人口推計（2023年10月1日現在）」（総務省統計局）および「令和5年度DPC導入の影響評価に係る調査「退院患者調査」」（厚生労働省）を用いてDPCコード、年齢別の発生率を計算。
その発生率と「日本の地域別将来推計人口（令和5年推計）」（国立社会保障・人口問題研究所）を用いて推計。
1日平均患者数は各DPCコードのDPC別平均入院日数をかけた後に365日で除して試算。

参考：南西部医療圏 | DPC症例数と平均入院期間の推移 (2016～2023年度にDPCに参加した病院)

当該医療圏内のDPC参加病院におけるDPC症例数と入院期間の推移を示しています。
DPCの延べ患者数の減少が症例数の減少によるものか、平均入院期間の短縮によるものか確認をします。

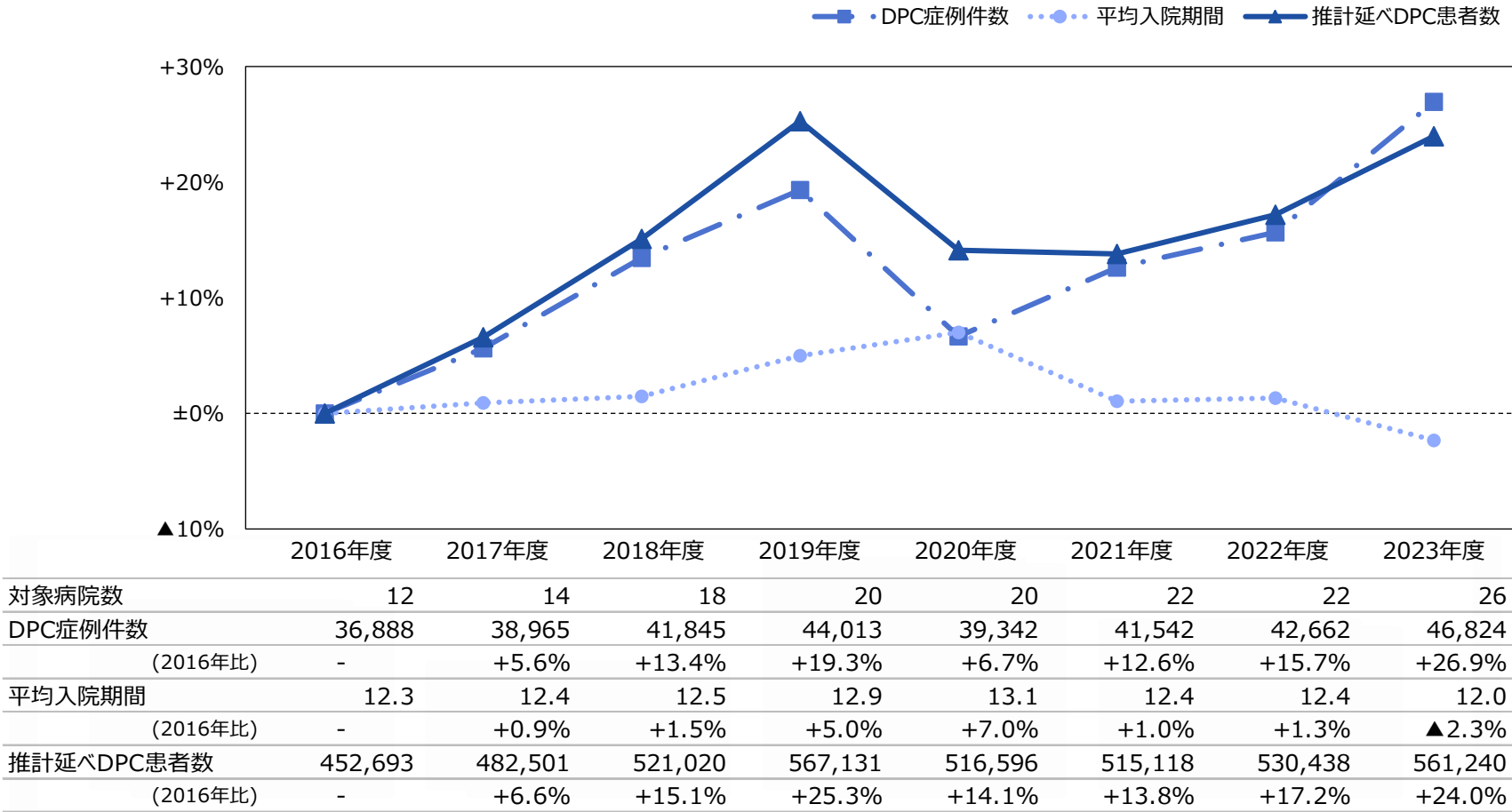


対象病院数	5	5	5	5	5	5	5	5
DPC症例件数	30,587	31,361	34,183	34,937	30,392	32,566	33,634	36,860
(2016年比)	-	+2.5%	+11.8%	+14.2%	▲0.6%	+6.5%	+10.0%	+20.5%
平均入院期間	11.4	11.3	11.8	12.1	12.8	11.9	12.0	11.6
(2016年比)	-	▲0.5%	+3.7%	+6.4%	+12.0%	+4.1%	+5.5%	+1.7%
推計延べDPC患者数	348,613	355,607	404,195	423,544	387,923	386,304	404,330	427,162
(2016年比)	-	+2.0%	+15.9%	+21.5%	+11.3%	+10.8%	+16.0%	+22.5%

参考：南西部医療圏 | DPC症例数と平均入院期間の推移

(全病院：出来高病院を含む)

出来高病院を含むDPC症例数と入院期間の推移を示しています。
DPCの延べ患者数の減少が症例数の減少によるものか、平均入院期間の短縮によるものか確認をします。



参考：都道府県別DPC参加病院の平均入院日数の推移（2016～2023年度）

全国および都道府県の平均入院日数の推移を示しています。

全ての都道府県で在院日数が短縮されており、今後も政策効果等の影響で短縮していくことが見込まれます。

No.	都道府県	2016年度	2018年度	2023年度	変化率	
					2018対2016	2023対2016
-	全国計	12.43	12.05	11.72	▲3.0%	▲5.7%
1	北海道	12.49	12.10	11.67	▲3.1%	▲6.5%
2	青森県	13.82	13.23	13.26	▲4.3%	▲4.0%
3	岩手県	12.87	12.48	12.25	▲3.0%	▲4.8%
4	宮城県	12.42	11.72	11.41	▲5.6%	▲8.2%
5	秋田県	12.89	12.53	12.15	▲2.8%	▲5.7%
6	山形県	13.03	12.84	12.74	▲1.5%	▲2.2%
7	福島県	13.40	13.13	12.53	▲2.0%	▲6.5%
8	茨城県	12.45	12.21	11.78	▲2.0%	▲5.4%
9	栃木県	12.90	12.79	12.48	▲0.9%	▲3.3%
10	群馬県	12.16	11.69	11.68	▲3.9%	▲3.9%
11	埼玉県	12.49	12.19	11.98	▲2.4%	▲4.1%
12	千葉県	12.19	12.01	12.07	▲1.5%	▲1.0%
13	東京都	11.94	11.58	11.16	▲3.0%	▲6.5%
14	神奈川県	11.70	11.25	11.25	▲3.8%	▲3.9%
15	新潟県	13.08	12.83	12.45	▲1.9%	▲4.8%
16	富山県	12.31	12.03	11.70	▲2.3%	▲4.9%
17	石川県	12.91	12.50	11.65	▲3.2%	▲9.8%
18	福井県	12.43	11.82	11.53	▲4.9%	▲7.2%
19	山梨県	11.88	11.61	11.76	▲2.3%	▲1.0%
20	長野県	12.22	11.97	11.67	▲2.1%	▲4.5%
21	岐阜県	12.25	12.09	11.74	▲1.3%	▲4.2%
22	静岡県	12.58	12.32	11.96	▲2.0%	▲4.9%
23	愛知県	12.21	11.74	11.39	▲3.8%	▲6.7%
24	三重県	12.58	12.10	11.78	▲3.8%	▲6.3%
25	滋賀県	12.51	12.01	11.53	▲4.0%	▲7.8%
26	京都府	12.16	11.71	11.22	▲3.7%	▲7.8%
27	大阪府	12.22	11.77	11.41	▲3.7%	▲6.7%
28	兵庫県	11.95	11.54	11.47	▲3.4%	▲4.0%
29	奈良県	12.50	12.36	11.99	▲1.1%	▲4.1%
30	和歌山県	13.33	12.60	12.53	▲5.5%	▲6.0%
31	鳥取県	13.01	12.35	12.29	▲5.1%	▲5.5%
32	島根県	12.67	12.00	11.66	▲5.3%	▲8.0%
33	岡山県	12.15	12.03	11.50	▲1.0%	▲5.3%
34	広島県	12.36	12.15	11.36	▲1.7%	▲8.1%
35	山口県	13.50	12.99	12.73	▲3.8%	▲5.7%
36	徳島県	12.08	11.76	11.77	▲2.6%	▲2.6%
37	香川県	12.79	12.41	12.06	▲2.9%	▲5.7%
38	愛媛県	13.01	12.69	12.03	▲2.5%	▲7.6%
39	高知県	13.38	13.17	11.99	▲1.6%	▲10.4%
40	福岡県	12.79	12.52	12.13	▲2.1%	▲5.2%
41	佐賀県	13.61	13.12	12.71	▲3.6%	▲6.6%
42	長崎県	13.19	12.47	12.07	▲5.5%	▲8.5%
43	熊本県	12.82	12.33	12.05	▲3.8%	▲6.0%
44	大分県	13.58	13.00	12.12	▲4.2%	▲10.7%
45	宮崎県	13.43	12.74	11.93	▲5.1%	▲11.2%
46	鹿児島県	13.17	12.92	12.13	▲1.8%	▲7.9%
47	沖縄県	12.35	12.07	11.90	▲2.3%	▲3.6%

参考：南西部医療圏 | DPC参加病院の平均入院日数の推移

当該医療圏のMDC別の平均入院期間の推移を示しています。

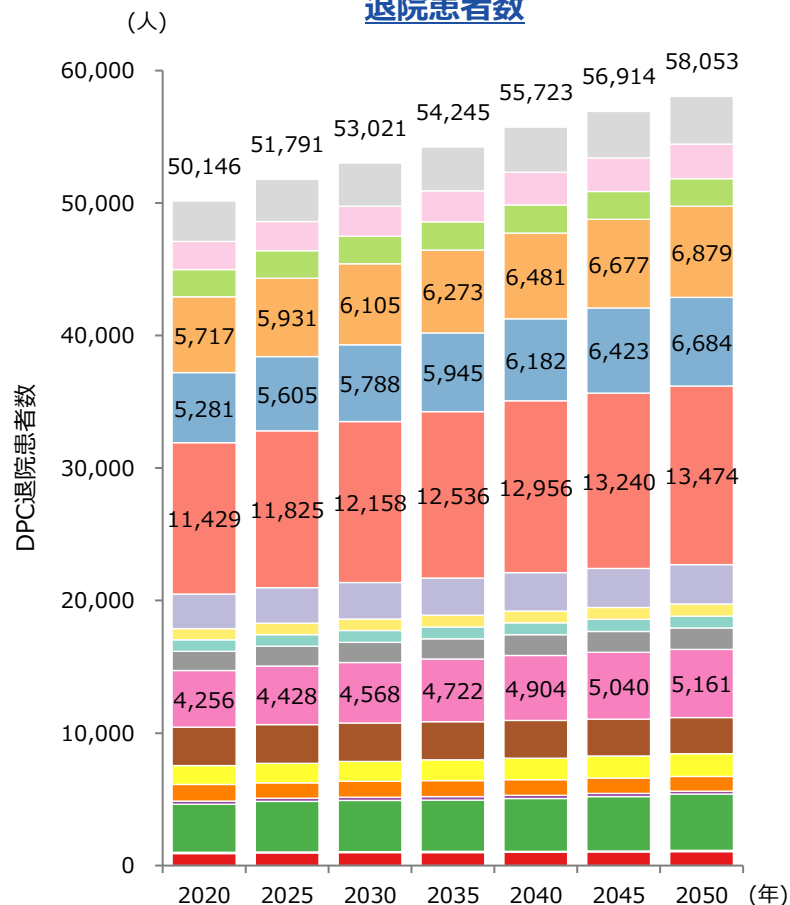
MDC名称	2016年度	2018年度	2023年度	変化率	
				2018対2016	2023対2016
01_神経系	18.10	18.85	18.84	4.2%	4.1%
02_眼科系	2.88	2.95	2.73	2.7%	▲5.0%
03_耳鼻咽喉系	5.93	6.17	6.00	4.1%	1.3%
04_呼吸器系	12.25	13.33	14.29	8.8%	16.7%
05_循環器系	10.28	11.48	12.09	11.6%	17.5%
06_消化器系	10.50	10.47	9.28	▲0.3%	▲11.7%
07_筋骨格系	16.33	16.44	16.48	0.7%	0.9%
08_皮膚・皮下組織	6.83	7.41	8.43	8.5%	23.5%
09_乳房	10.70	9.97	9.27	▲6.8%	▲13.3%
10_内分泌・栄養・代謝	11.55	13.10	11.42	13.4%	▲1.2%
11_腎・尿路系	9.10	9.81	9.42	7.8%	3.6%
12_女性疾患	9.32	7.84	7.02	▲15.9%	▲24.7%
13_血液系	18.12	18.16	21.05	0.2%	16.2%
14_新生児	8.57	9.20	13.21	7.3%	54.1%
15_小児疾患	6.21	8.91	7.81	43.5%	25.8%
16_外傷・熱傷・中毒	15.60	15.78	15.79	1.2%	1.3%
17_精神疾患	0.00	3.30	6.86	100.0%	100.0%
18_その他	20.59	18.19	20.50	▲11.7%	▲0.5%
全体	11.40	11.83	11.59	3.7%	1.7%

南西部医療圏 | MDC別DPCの退院患者数の推計

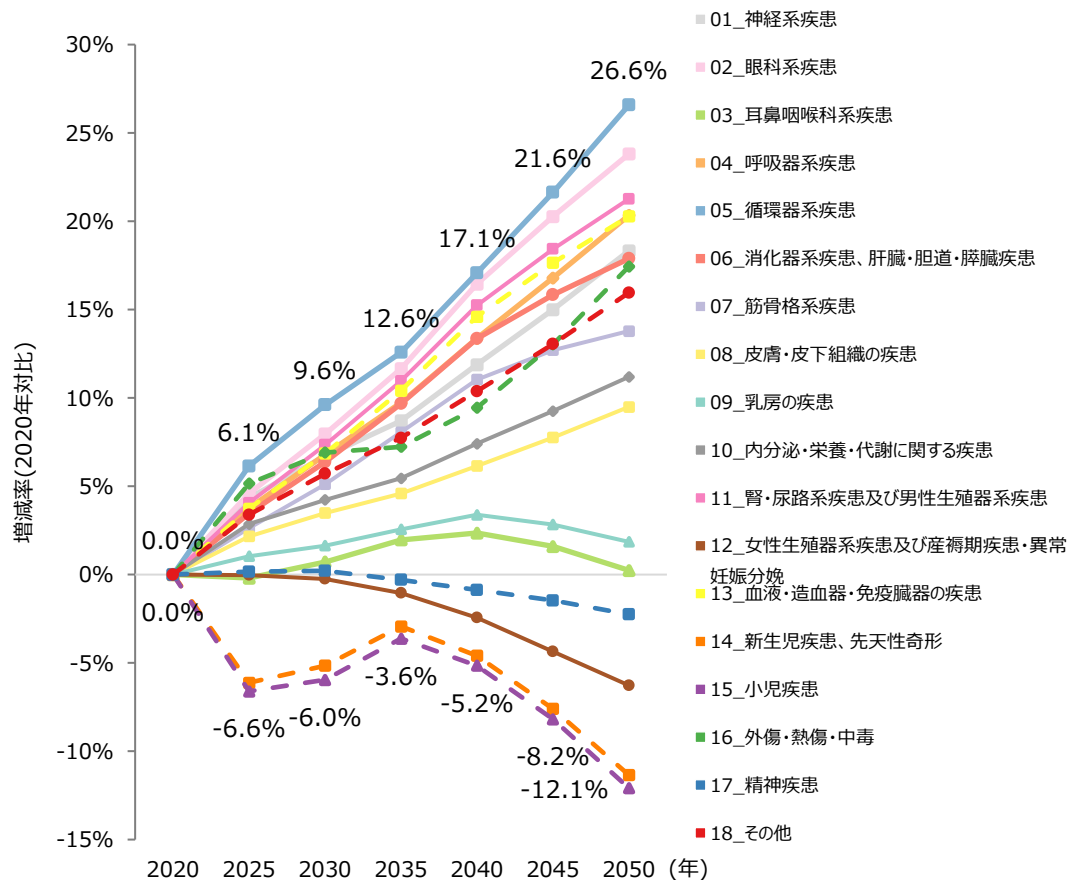
疾患別のDPC退院患者数の将来推計を示しています。

多くの地域では高齢者に多い疾患は増加傾向にあり、女性疾患や小児周産期にかかる疾患は大幅に減少する傾向にあります。

退院患者数



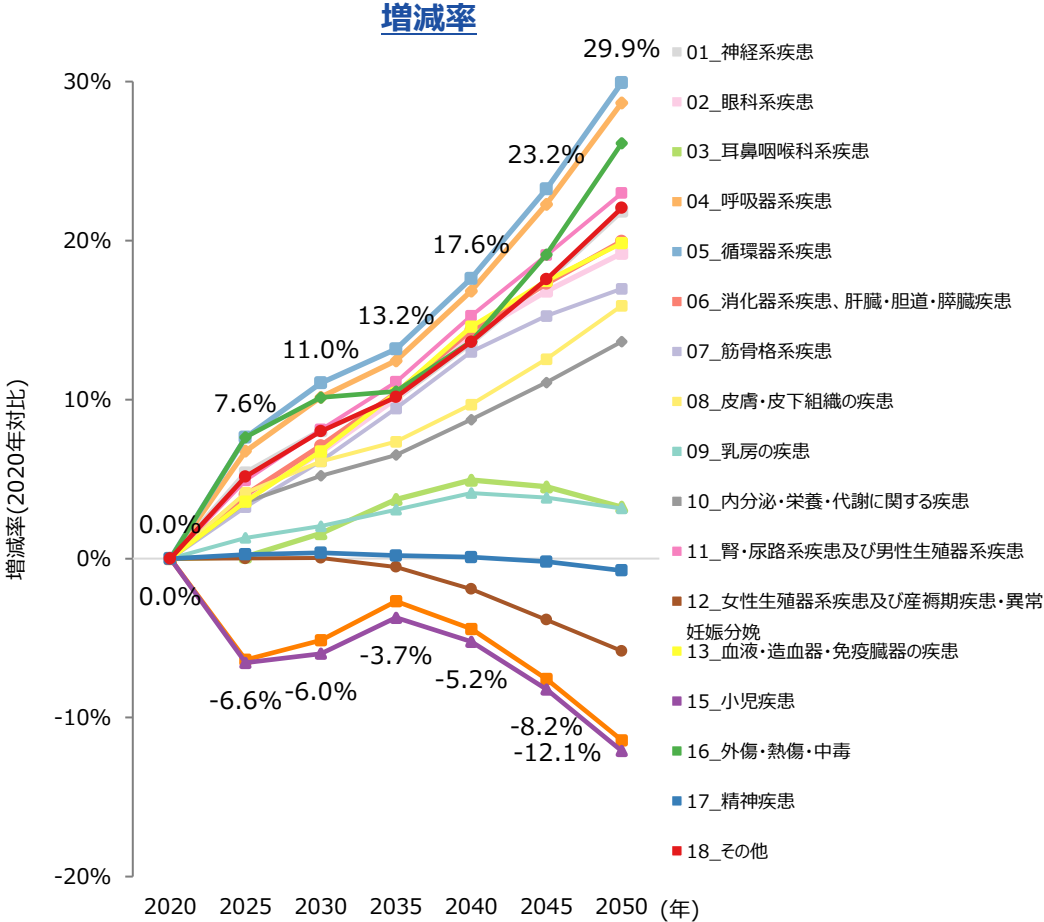
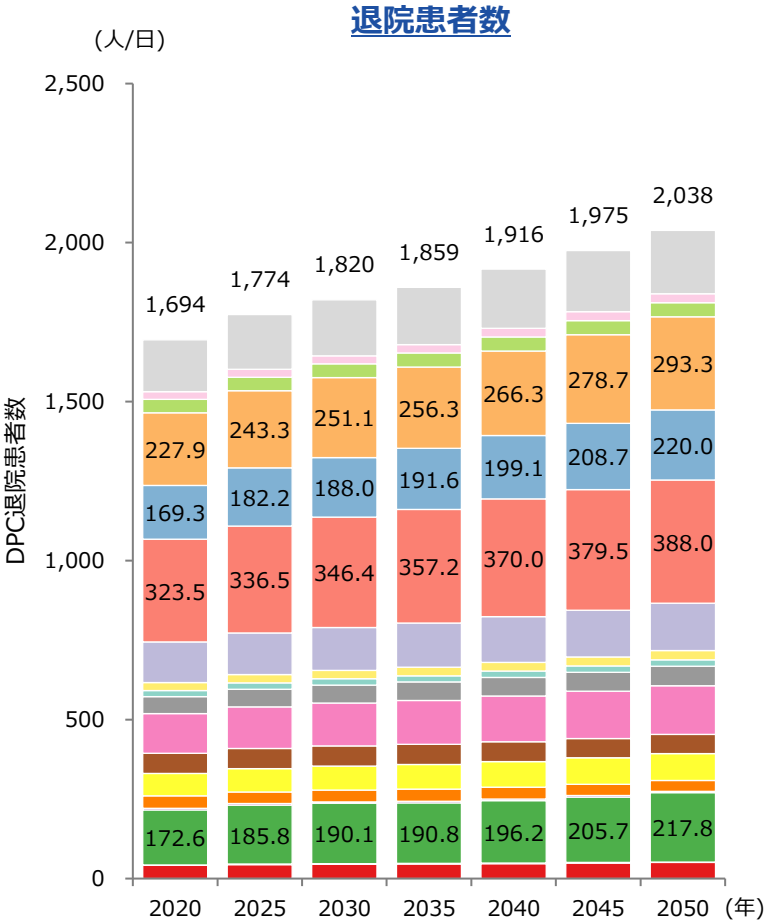
増減率



出典：「人口推計（2023年10月1日現在）」（総務省統計局）および「令和5年度DPC導入の影響評価に係る調査「退院患者調査」（厚生労働省）を用いてDPCコード、年齢別の発生率を計算。
その発生率と「日本の地域別将来推計人口 令和5(2023)年推計」（国立社会保障・人口問題研究所）を用いて推計。

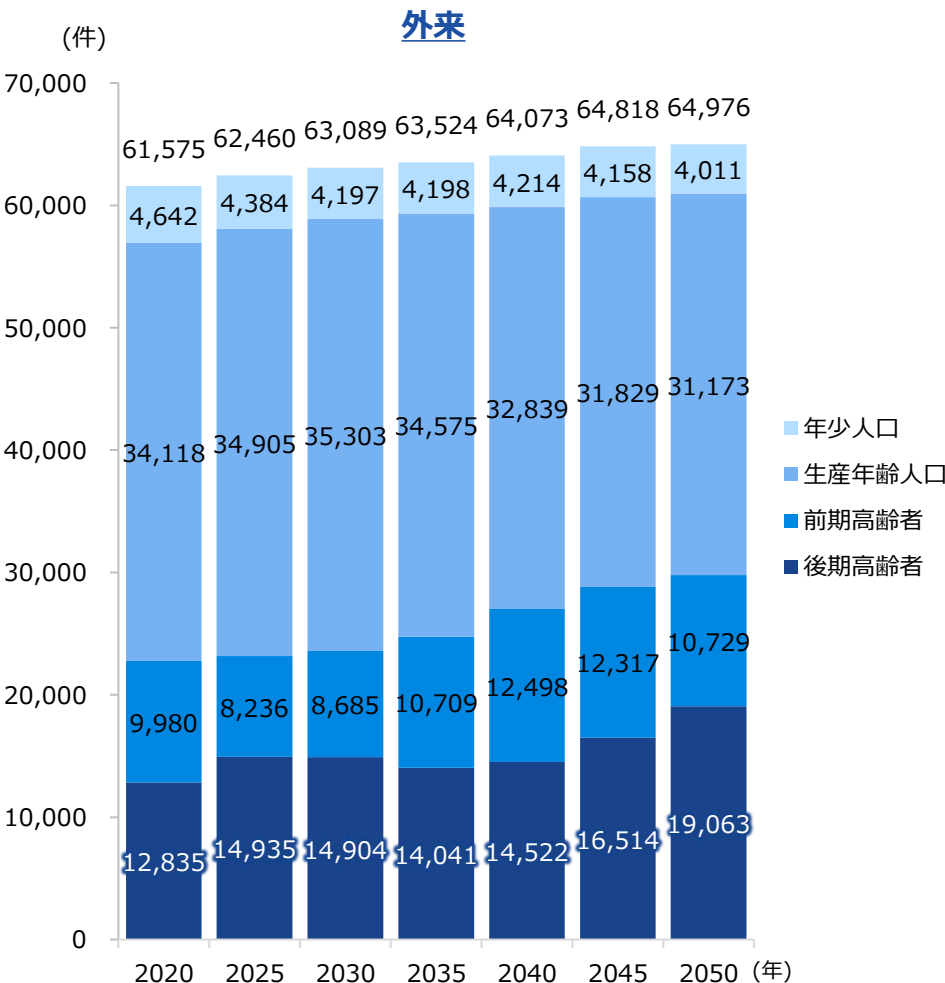
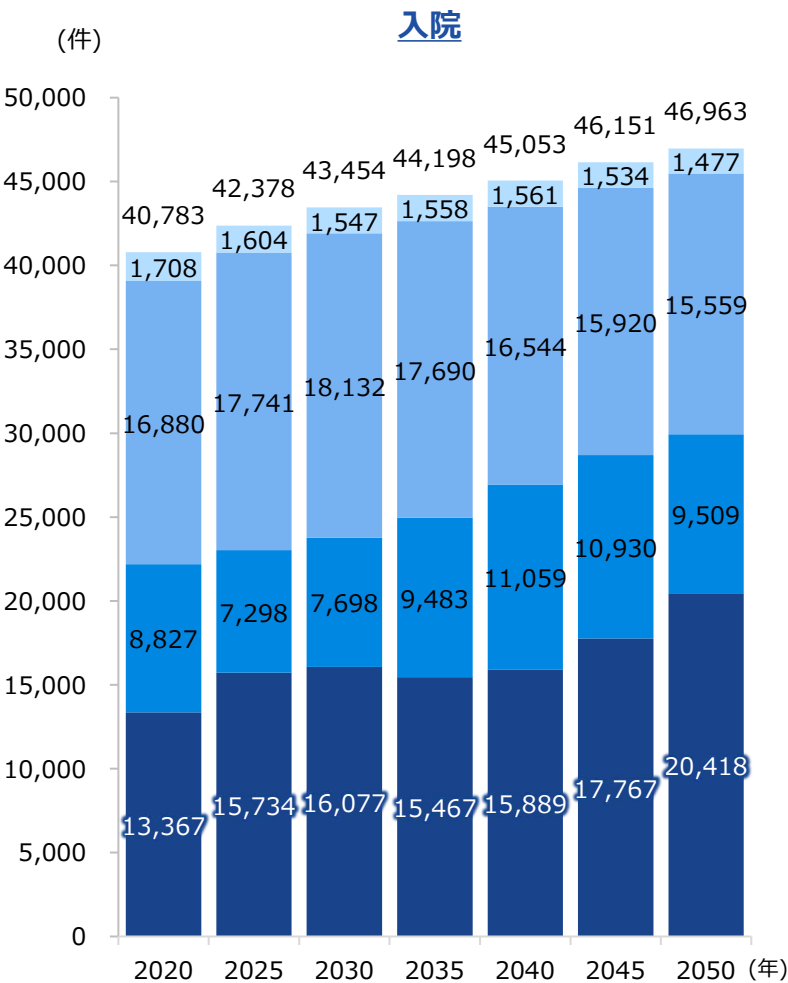
南西部医療圏 | MDC別DPCの1日平均患者数の推計

疾患別のDPCの1日平均患者数の将来推計を示しています。



南西部医療圏 | 手術件数の推計

年齢区分別の入院・外来の手術件数の将来推計を示しています。

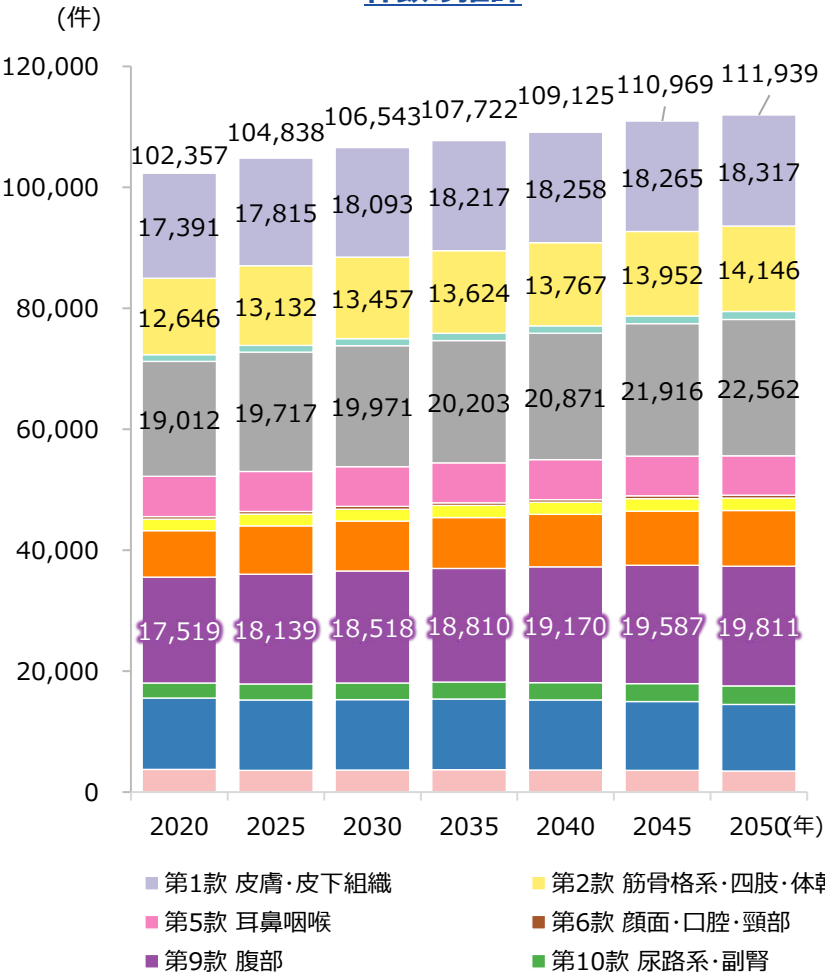


出典：「人口推計（2023年10月1日現在）」（総務省統計局）および第10回NDBオープンデータ（厚生労働省）
 ：2023年4月～2024年3月診療分のレセプトデータを用いて全国の性年齢別の発生率を計算。
 その発生率と「日本の地域別将来推計人口 令和5(2023)年推計」（国立社会保障・人口問題研究所）を用いて推計

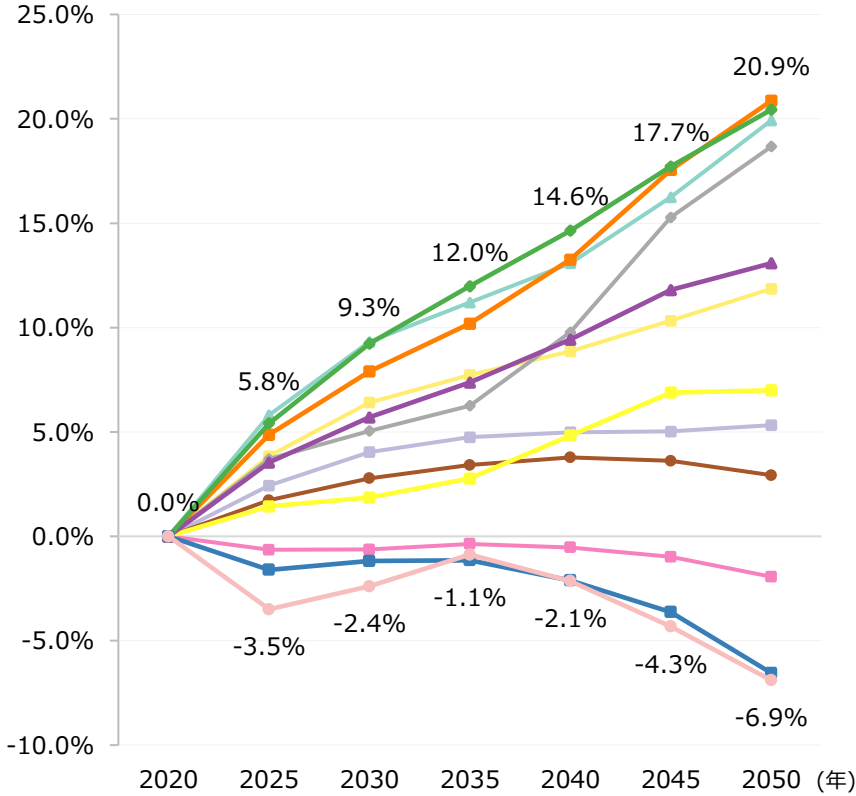
南西部医療圏 | 部位別の手術件数

部位別の手術件数の将来推計を示しています。

件数の推計



増減率

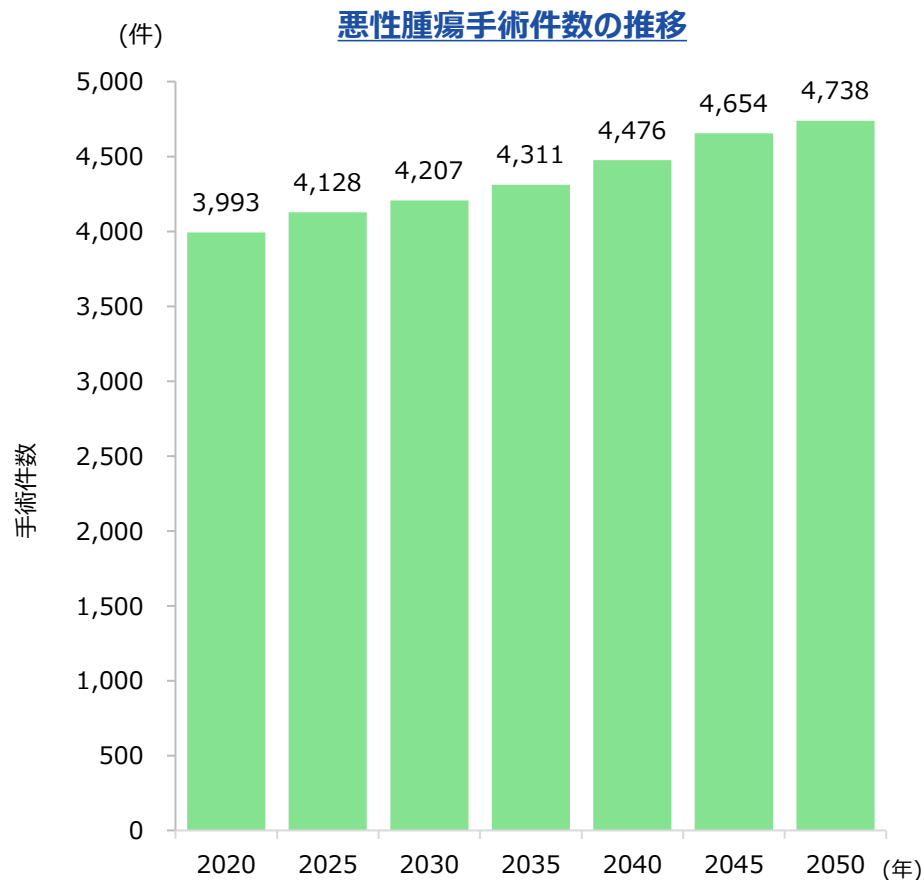
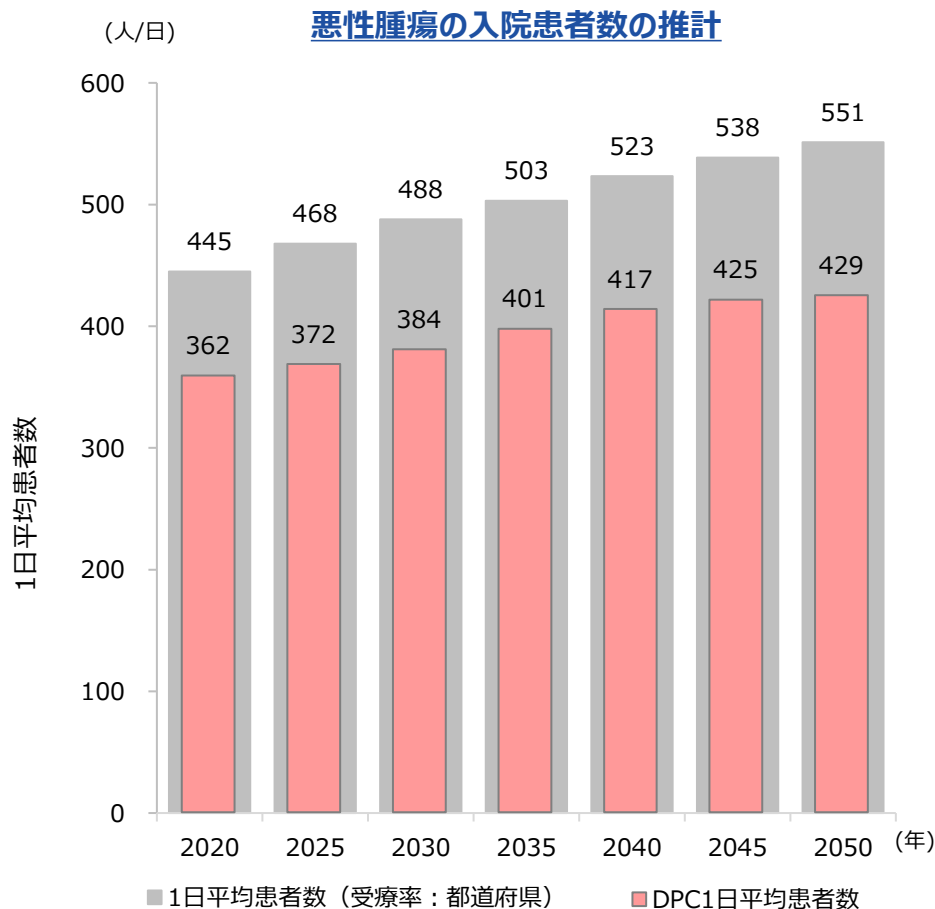


出典：「人口推計（2023年10月1日現在）」（総務省統計局）および第10回NDBオープンデータ（厚生労働省）
：2023年4月～2024年3月診療分のレセプトデータを用いて全国の性年齢別の発生率を計算。
その発生率と「日本の地域別将来推計人口 令和5(2023)年推計」（国立社会保障・人口問題研究所）を用いて推計

南西部医療圏 | 疾患別患者数の推計：悪性腫瘍

悪性腫瘍の1日平均患者数、DPCの1日平均患者数および手術件数の将来推計を示しています。

悪性腫瘍は手術療法中心の医療から放射線療法・化学療法を含めた集学的治療へシフトしていることや、低侵襲治療の発展から、推計よりも減少する可能性があります。

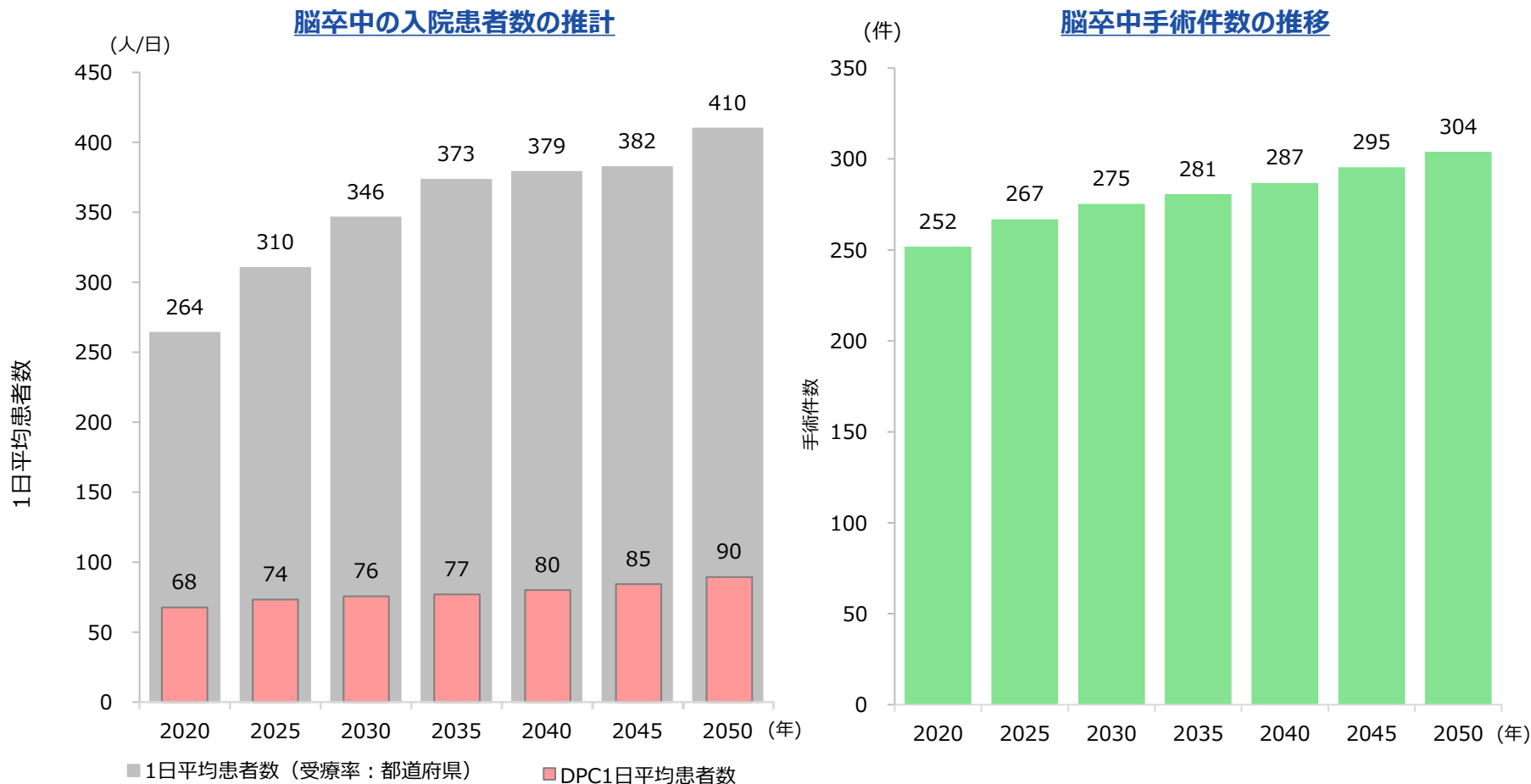


出典：「日本の地域別将来推計人口 令和5(2023)年推計」（国立社会保障・人口問題研究所）と以下の発生率を用いて推計
1日平均患者数：「令和5年患者調査」（厚生労働省）
DPC1日平均患者数：「人口推計（2023年10月1日現在）」（総務省統計局）および「令和5年度DPC導入の影響評価に係る調査「退院患者調査」」（厚生労働省）
手術件数：「人口推計（2023年10月1日現在）」（総務省統計局）および第10回NDBオープンデータ（厚生労働省）

2026 © NIHONKEIEI Co.,Ltd.

南西部医療圏 | 疾患別患者数の推計：脳卒中

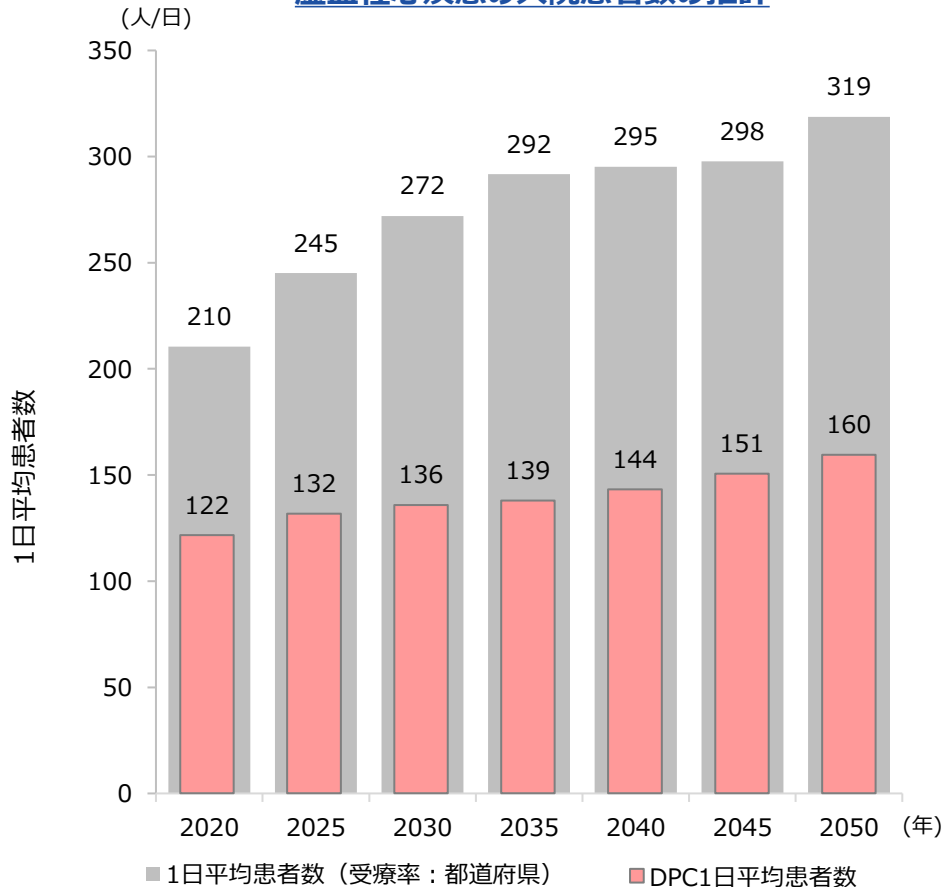
脳卒中の1日平均患者数、DPCの1日平均患者数および手術件数の将来推計を示しています。
脳卒中は急性期を脱した回復期および慢性期の患者が多く、多くの地域では患者数が増加傾向にありますが、
DPC1日平均患者数および手術件数の伸びは限定的となっています。



南西部医療圏 | 疾患別患者数の推計：虚血性心疾患等

虚血性心疾患の1日平均患者数、DPCの1日平均患者数および手術件数の将来推計を示しています。
虚血性心疾患は急性期を脱した回復期および慢性期の患者が多く、多くの地域では患者数が増加傾向にあります、
DPC1日平均患者数および手術件数の伸びは限定的となっています。

虚血性心疾患の入院患者数の推計

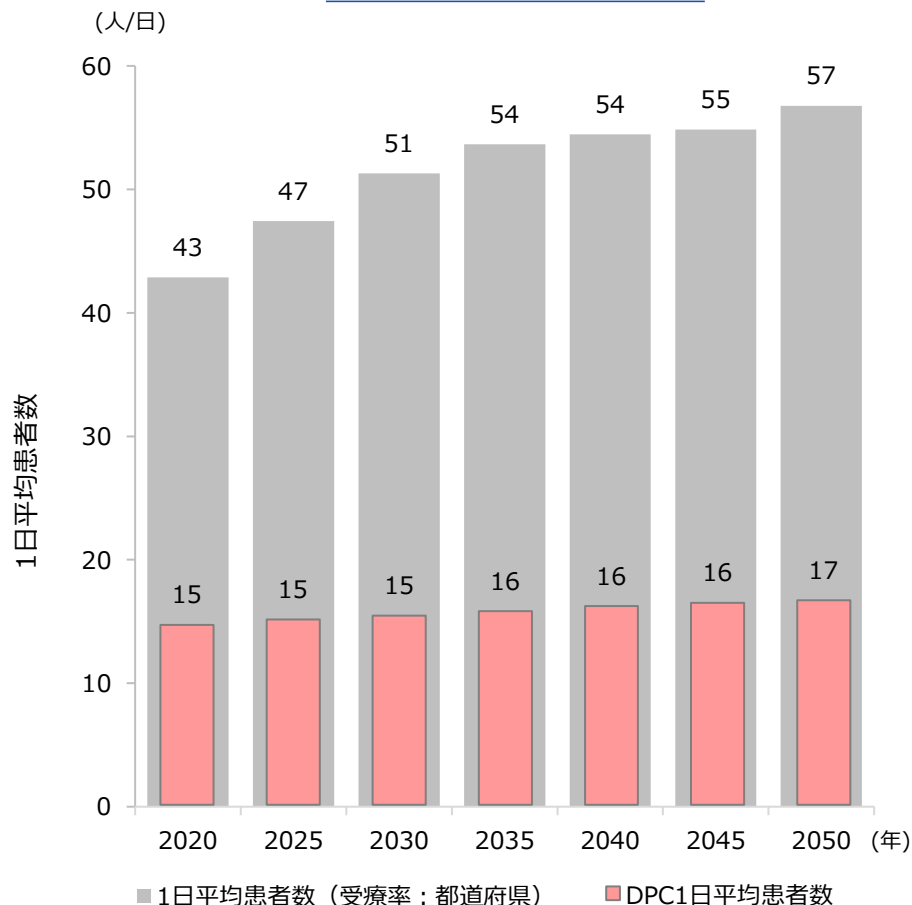


心臓カテーテル手術等の手術件数の推移

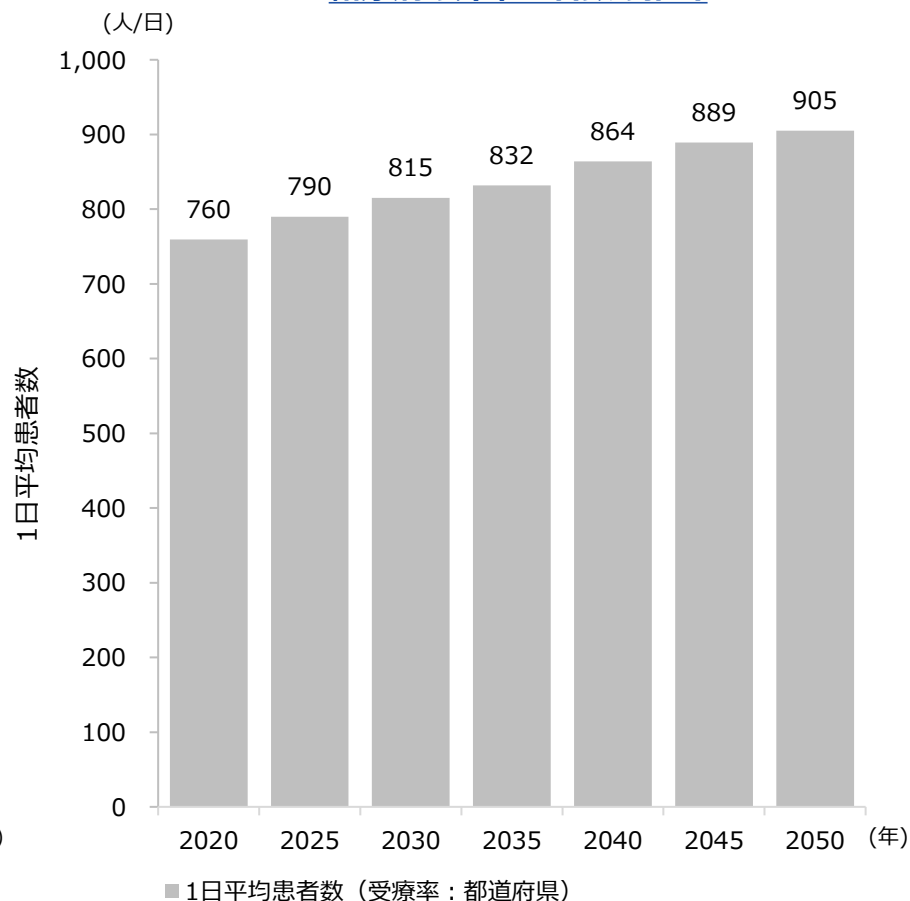


南西部医療圏 | 疾患別患者数の推計：糖尿病

糖尿病の入院患者数の推計



糖尿病の外来患者数の推計



出典：「日本の地域別将来推計人口 令和5(2023)年推計」(国立社会保障・人口問題研究所) と以下の発生率を用いて推計

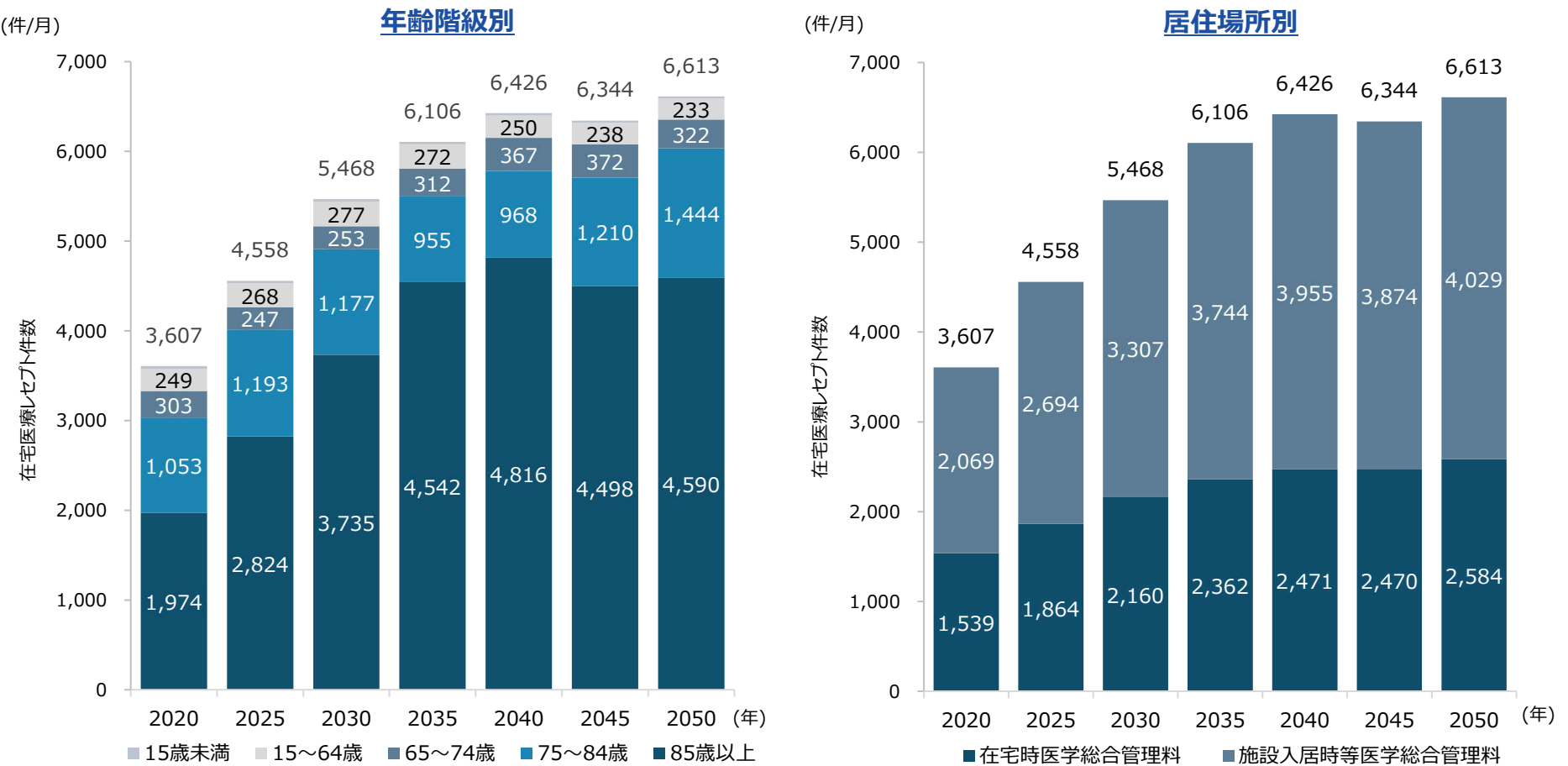
1日平均患者数：「令和5年患者調査」(厚生労働省)

DPC1日平均患者数：「人口推計(2023年10月1日現在)」(総務省統計局) および「令和5年度DPC導入の影響評価に係る調査「退院患者調査」」(厚生労働省)

2026 © NIHONKEIEI Co.,Ltd.

南西部医療圏 | 在宅医療患者数の推計

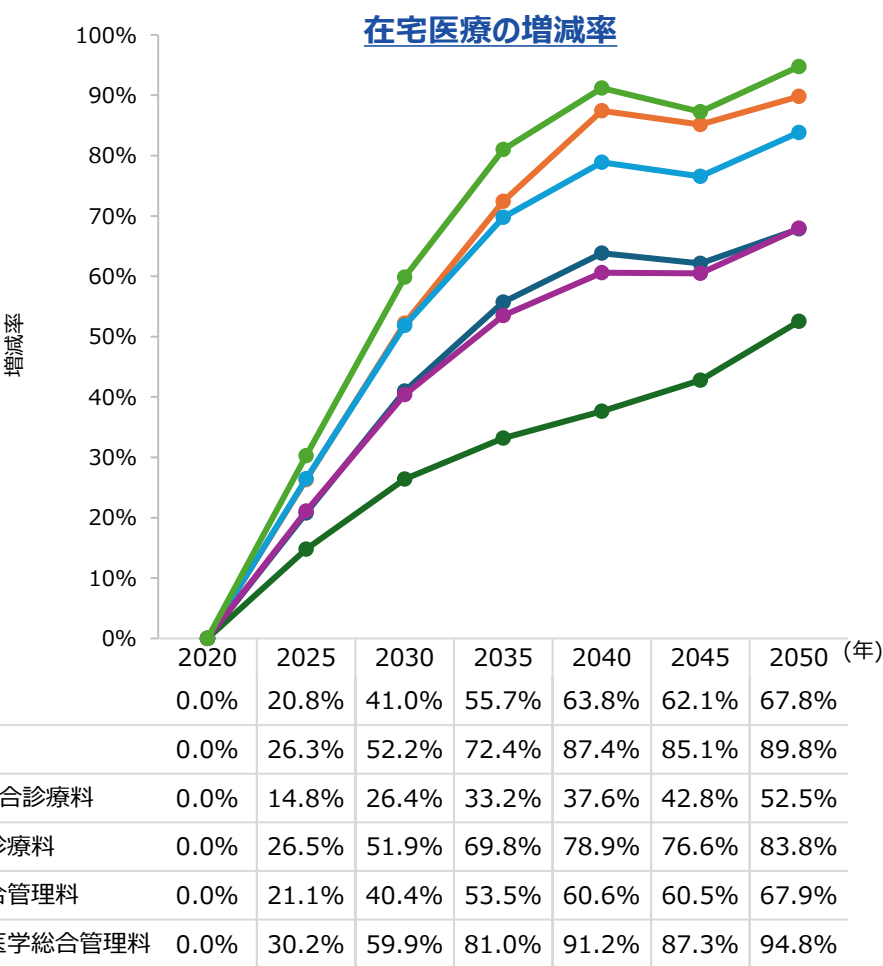
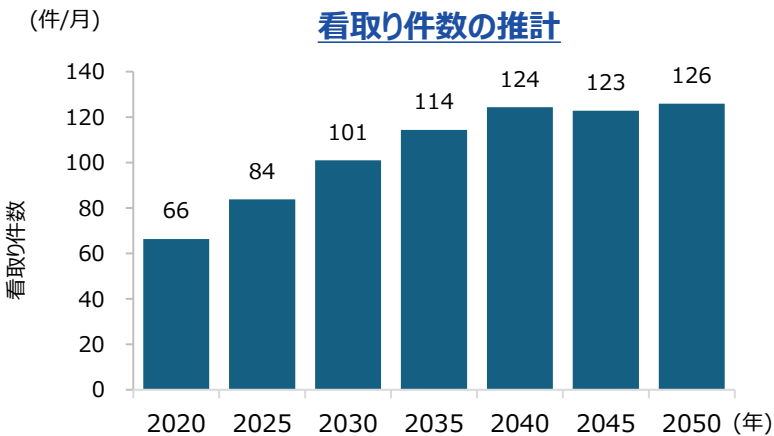
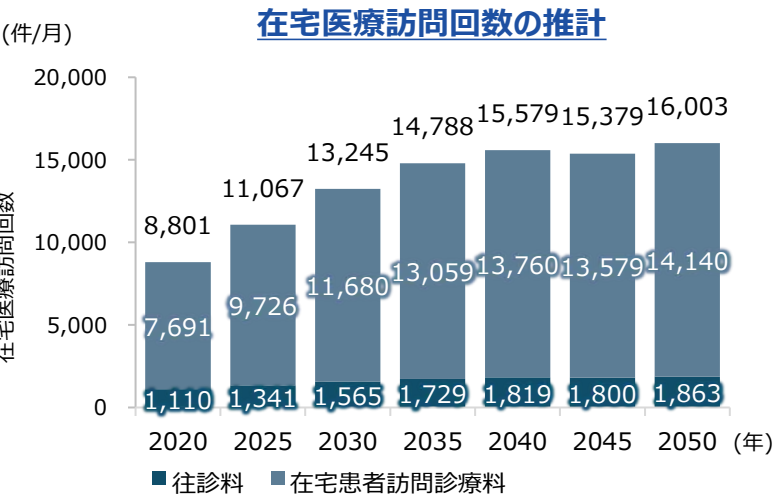
全国の在宅時医学総合管理料および施設入居時医学総合管理料の発生率を用いた将来推計を示しています。
月に1回算定可能な管理料であり、月当たりの患者数の増減傾向が確認できます。



出典：「人口推計（2023年10月1日現在）」（総務省統計局）および第10回NDBオープンデータ（厚生労働省）
：2023年4月～2024年3月診療分のレセプトデータを用いて全国の性年齢別の発生率を計算。
その発生率と「日本の地域別将来推計人口 令和5(2023)年推計」（国立社会保障・人口問題研究所）を用いて推計

南西部医療圏 | 在宅医療訪問回数および増減率

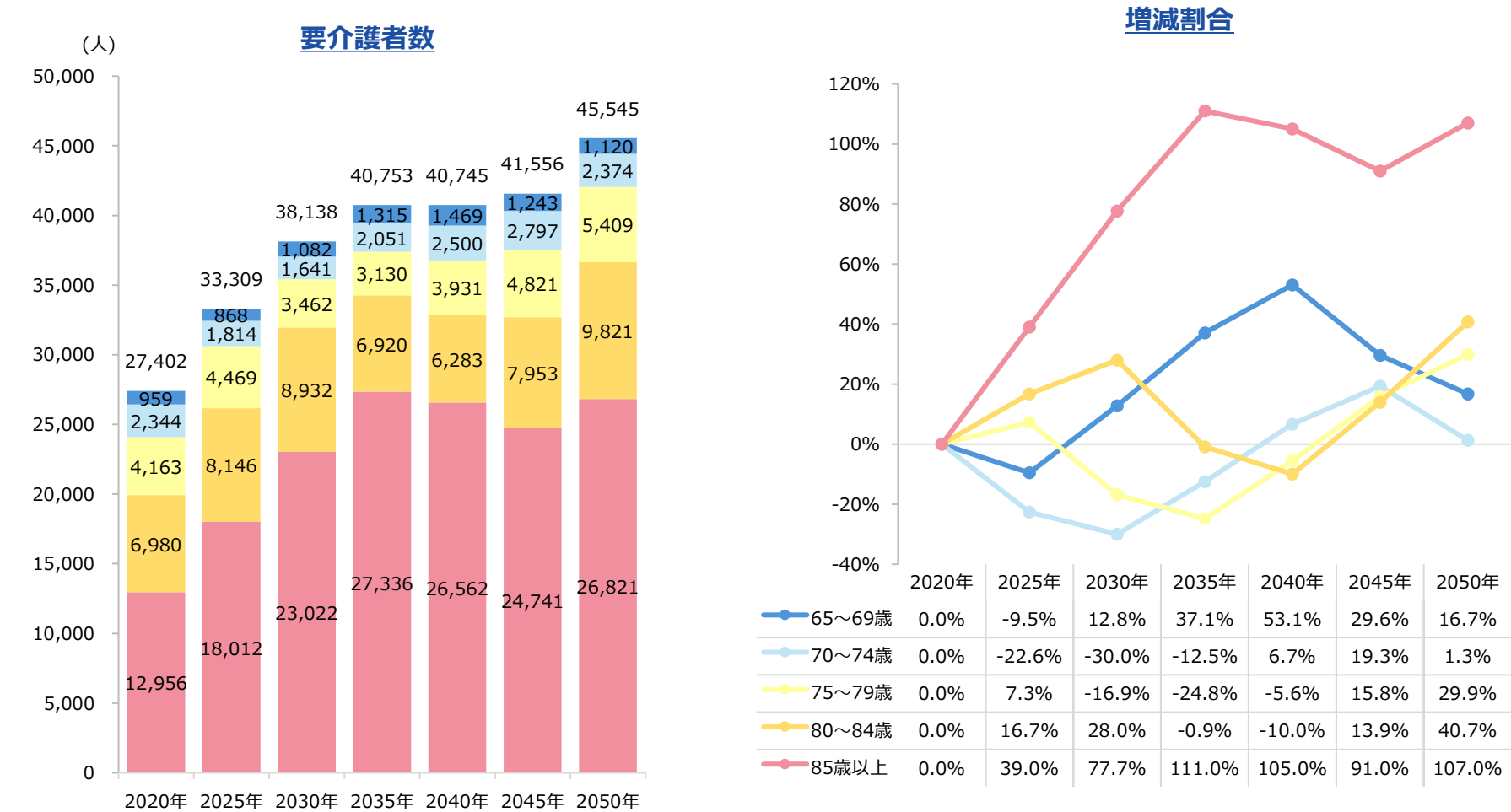
全国の発生率を用いた在宅医療の主な診療行為の算定回数の将来推計を示しています。
多くの地域では2040年以降まで大幅な増加が見込まれており、在宅医療の体制整備が求められます。



出典：「人口推計（2023年10月1日現在）」（総務省統計局）および第10回NDBオープンデータ（厚生労働省）
：2023年4月～2024年3月診療分のレセプトデータを用いて全国の性年齢別の発生率を計算。
その発生率と「日本の地域別将来推計人口 令和5(2023)年推計」（国立社会保障・人口問題研究所）を用いて推計

南西部医療圏 | 年齢別の要介護者の推計

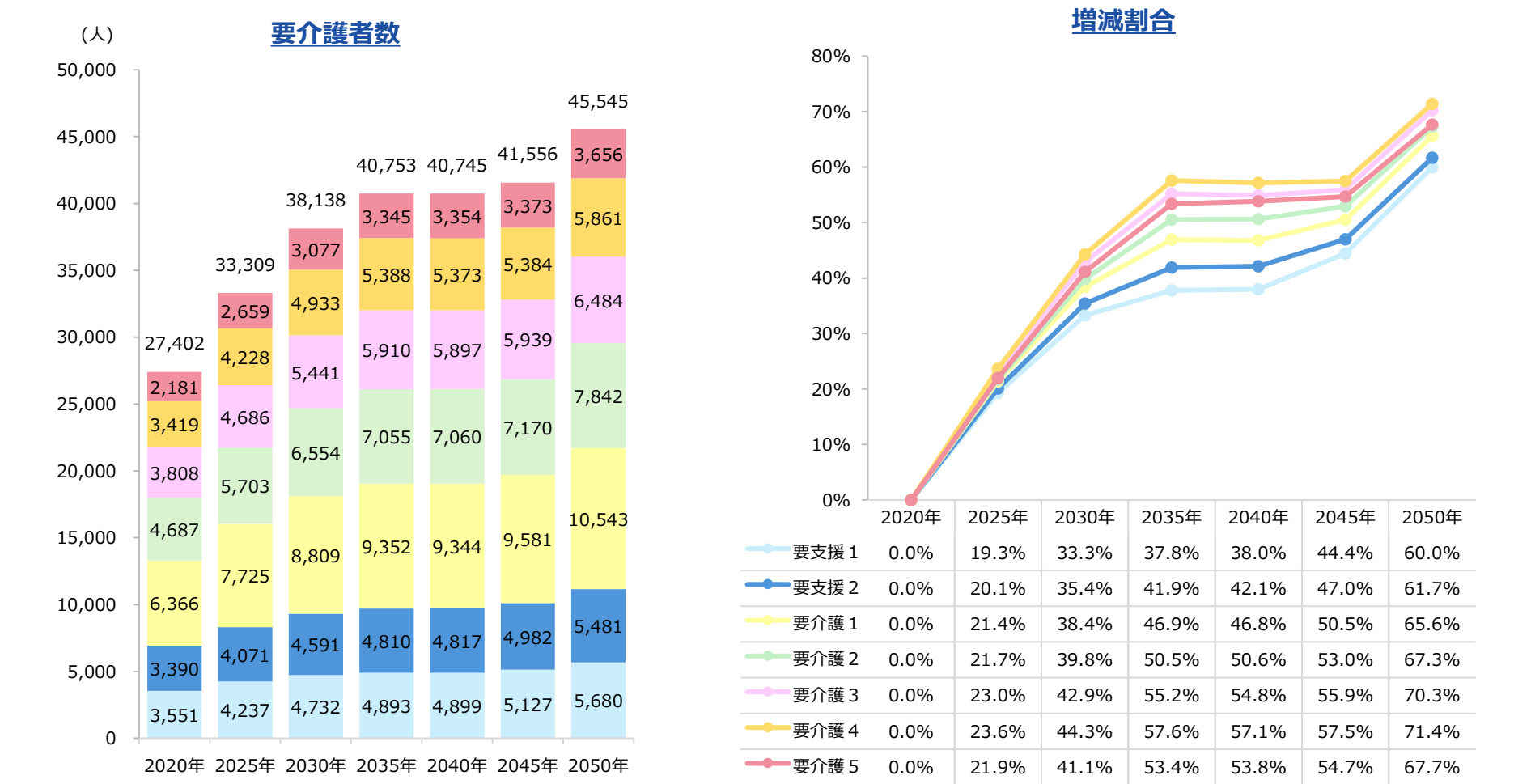
都道府県の発生率を用いた要介護認定者数の将来推計を示しています。（介護保険事業計画の推計とは計算方法が異なります）
 多くの地域では85歳以上の人口増加に伴い、要介護者数の増加が見込まれています。



出典：「人口推計（2023年10月1日現在）」（総務省統計局）および
 「令和5年度介護保険事業状況報告（年報） 表04-1＜都道府県別＞要介護（要支援）認定者数」（厚労省）を用いて発生率を計算。
 その発生率と「日本の地域別将来推計人口 令和5(2023)年推計」（国立社会保障・人口問題研究所）を用いて推計

南西部医療圏 | 要介護度別の要介護者の推計

都道府県の発生率を用いた要介護度別の要介護認定者数の将来推計を示しています。（介護保険事業計画の推計とは計算方法が異なります）
要介護度3以上の増加は、介護者および介護事業所の従業員への負担や人材確保の難化を招く可能性があります。



出典：「人口推計（2023年10月1日現在）」（総務省統計局）および
「令和5年度介護保険事業状況報告（年報） 表04-1＜都道府県別＞要介護（要支援）認定者数」（厚労省）を用いて発生率を計算。
その発生率と「日本の地域別将来推計人口 令和5(2023)年推計」（国立社会保障・人口問題研究所）を用いて推計

4/ 医療機関のパフォーマンスおよび連携状況

診療実績と役割分担の状況から、地域の医療機関のポジショニングを整理する。

救急車受入数

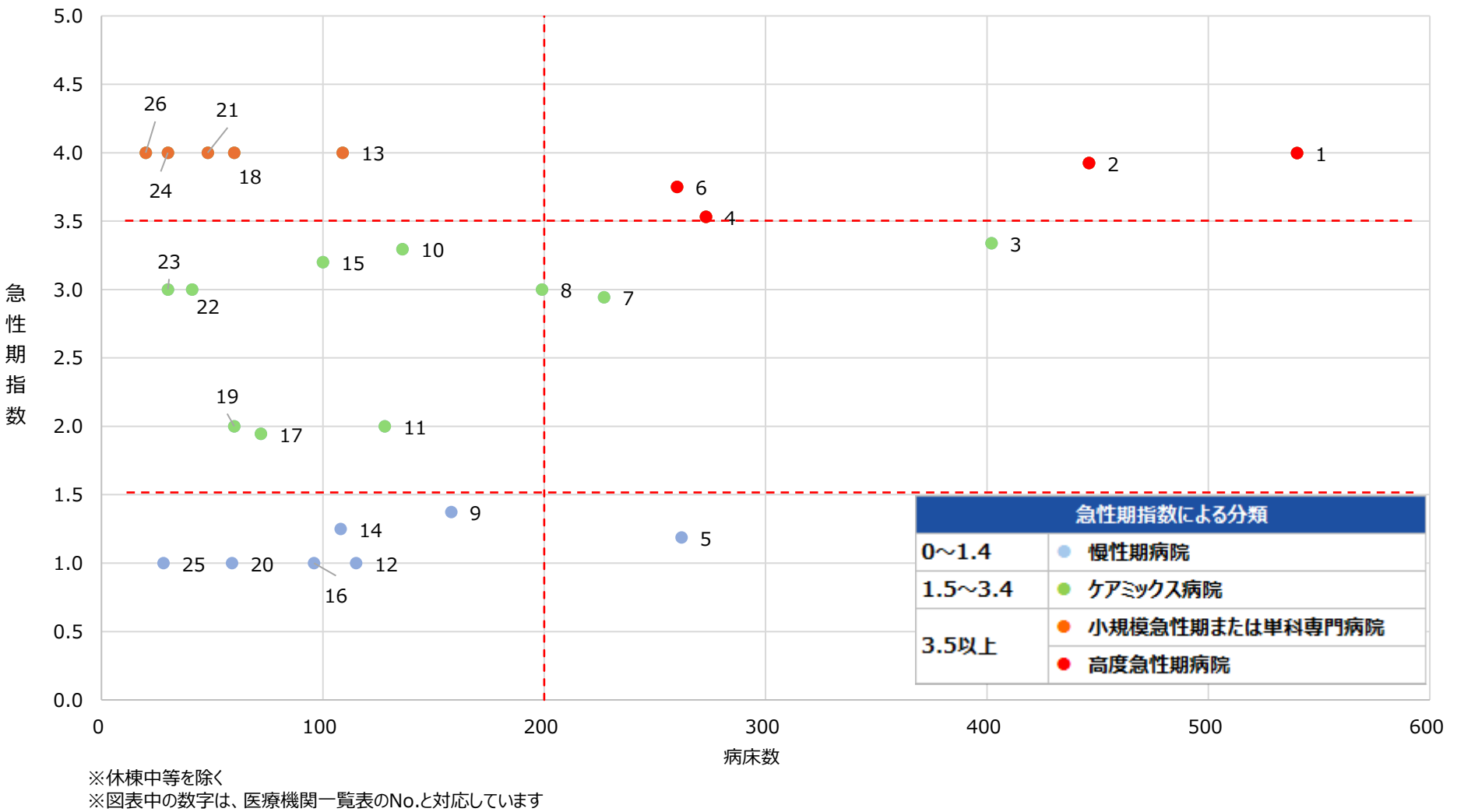
手術件数

DPC症例数

各医療機関の診療実績をもとに、地域の医療機能がどこに集中しているかを把握する。
機能分化や医療機関間の連携状況を可視化し、地域全体で質の高い医療を提供するための課題を整理する。

南西部医療圏 | ポジショニングマップ

下図は各病院の稼働病床数と急性期指数をプロットし、類型を行っています。（新たな地域医療構想における医療機関機能とは異なります）
地域内の急性期病院の競争状況を踏まえて、各医療機関の役割を検討する必要があります。

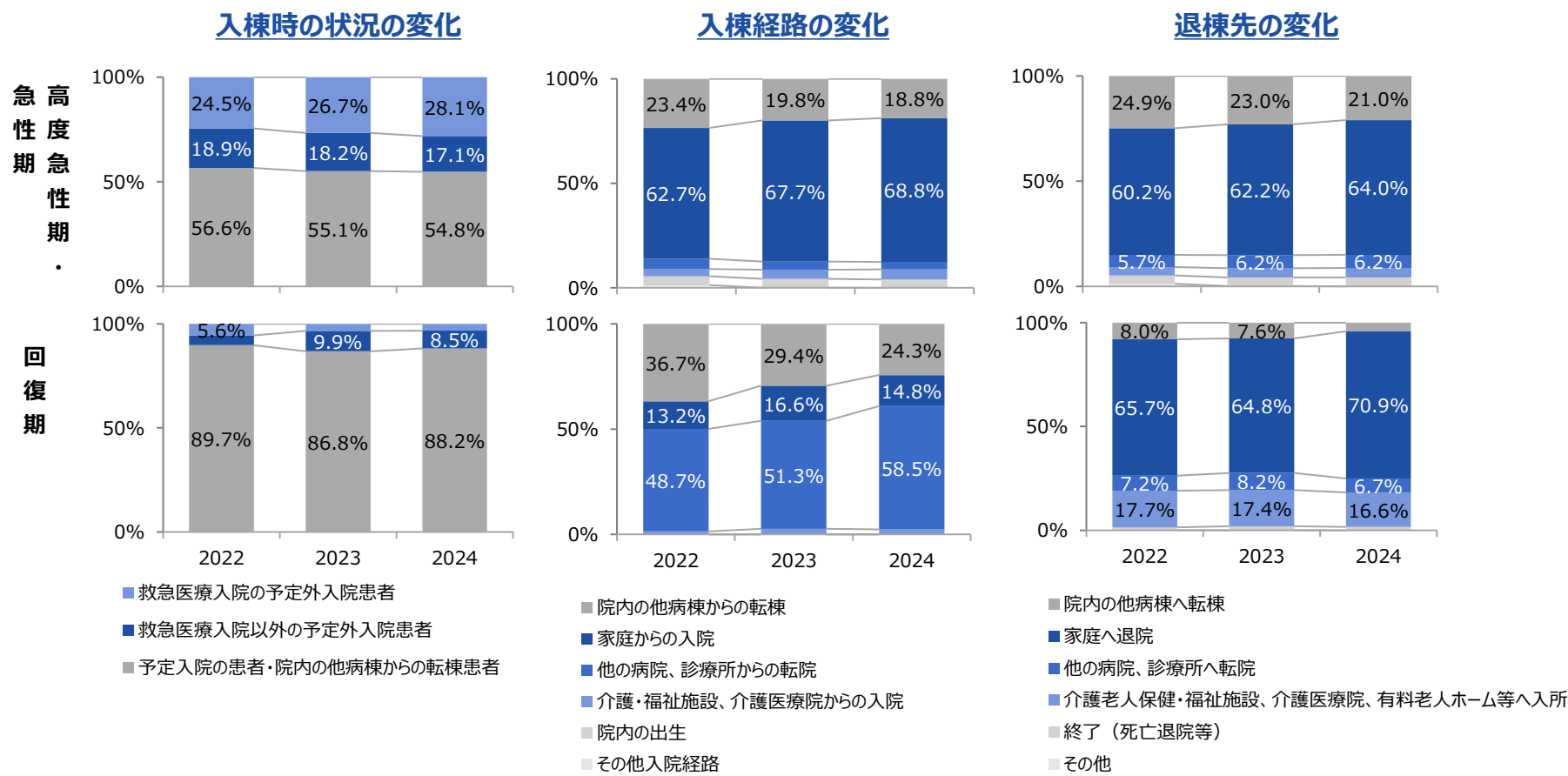


No.	医療機関略称	稼働 病床数	急性期 指数
1	N H O 埼玉病院	540	4.0
2	T M G あさか医療センター	446	3.9
3	新座志木中央総合病院	402	3.3
4	イムス三芳総合病院	273	3.5
5	埼玉セントラル病院	262	1.2
6	イムス富士見総合病院	260	3.8
7	上福岡総合病院	227	2.9
8	堀ノ内病院	199	3.0
9	富家病院	158	1.4
10	さくら記念病院	136	3.3
11	新座病院	128	2.0
12	静風荘病院	115	1.0
13	三芳野病院	109	4.0
14	寿鶴会 菅野病院	108	1.3
15	T M G 宗岡中央病院	100	3.2
16	浅野病院	96	1.0
17	朝霞厚生病院	72	1.9
18	恵愛病院	60	4.0
19	和光リハビリテーション病院	60	2.0
20	三浦病院	59	1.0
21	みずほ台病院	48	4.0
22	塩味病院	41	3.0
23	高田整形外科病院	30	3.0
24	三芳野第2病院	30	4.0
25	北野病院	28	1.0

No.	医療機関略称	稼働 病床数	急性期 指数
26	ふじみの救急病院	20	4.0

南西部医療圏 | 入退棟経路の傾向

当該医療圏の機能別の入院経路と退棟先の構成割合を示しています。
 「他の病院、診療所へ転院」の割合等から、地域の機能分化の状況を確認できます。



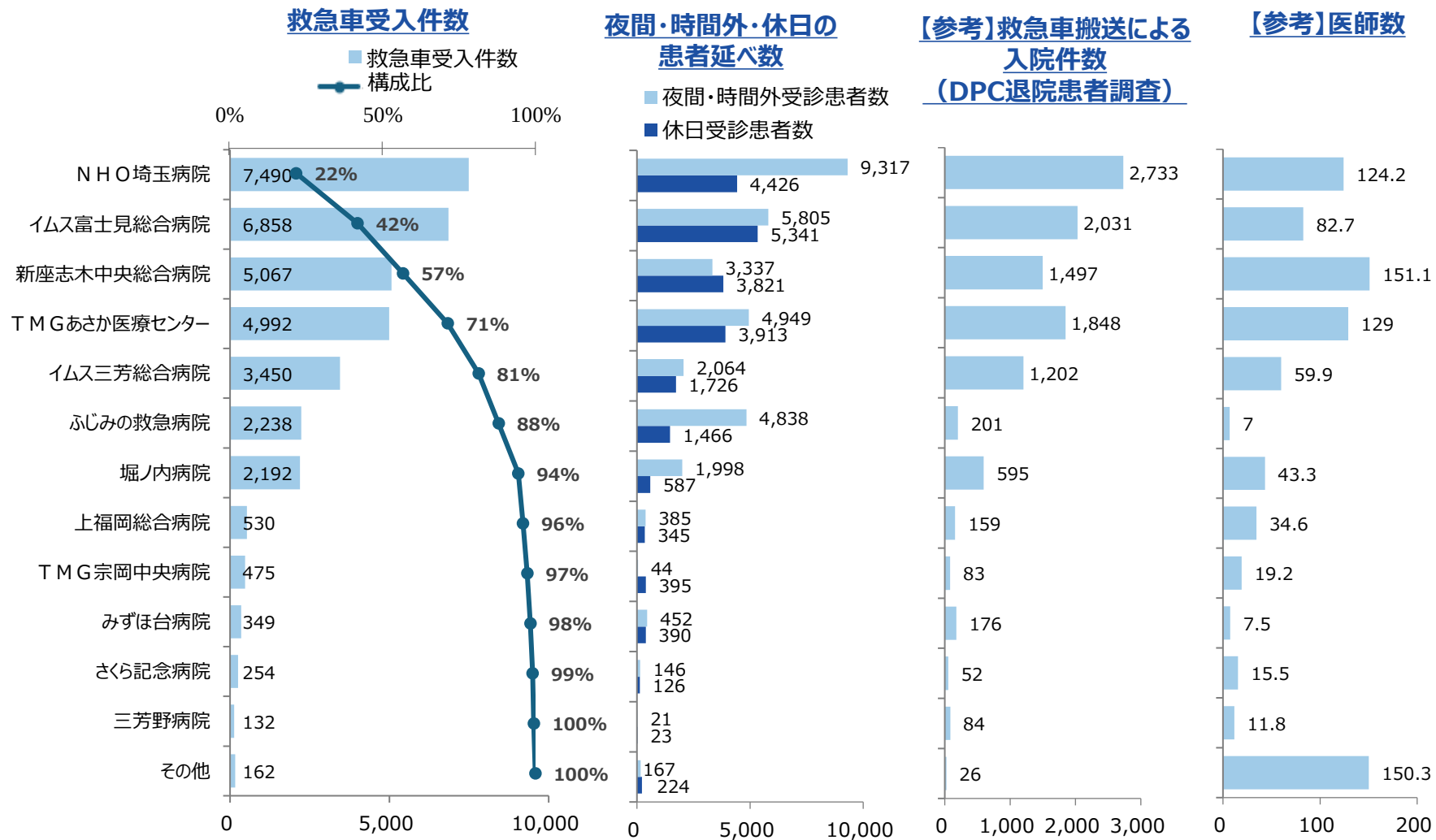
南西部医療圏 | 救急車受入を行う病院の概要①

救急を受け入れる病院の指定状況や職員数、医療機器の台数の比較を示しています。
救急搬送に対応できる職員数（特に医師・看護師）を確保できているか確認する必要があります。

No.	医療機関名	市区町村	設置主体	救急種別	医師・看護師数				医療機器の台数		
					医師数	うち、常勤	常勤割合	看護師数	CT	MRI	その他
1	新座志木中央総合病院	新座市	医療法人	二次救急	151.1	66	43.7%	309.1	1	1	3
2	T M Gあさか医療センター	朝霞市	医療法人	二次救急	129.0	100	77.5%	468.2	2	2	5
3	N H O埼玉病院	和光市	国立病院	三次救急	124.2	124	99.8%	657.1	4	2	6
4	イムス富士見総合病院	富士見市	医療法人	二次救急	82.7	67	81.0%	311.7	1	1	5
5	イムス三芳総合病院	三芳町	医療法人	二次救急	59.9	40	66.8%	248.5	1	1	4
6	堀ノ内病院	新座市	医療法人	二次救急	43.3	17	39.3%	171.1	1	1	1
7	上福岡総合病院	ふじみ野市	医療法人	二次救急	34.6	21	60.7%	163.7	1	1	1
8	T M G宗岡中央病院	志木市	医療法人	二次救急	19.2	14	72.9%	78.4	1	0	1
9	さくら記念病院	富士見市	医療法人	二次救急	15.5	11	71.0%	106.1	1	1	1
10	塩味病院	朝霞市	医療法人	二次救急	13.5	5	37.0%	30.3	1	1	1
11	三芳野病院	三芳町	医療法人	二次救急	11.8	2	16.9%	56.5	1	1	1
12	三芳野第2病院	ふじみ野市	医療法人	二次救急	9.6	1	10.4%	53.1	1	0	0
13	朝霞厚生病院	朝霞市	その他	二次救急	8.4	4	47.6%	30.9	1	1	0
14	三浦病院	富士見市	医療法人	二次救急	7.7	5	64.9%	41.9	1	0	1
15	みずほ台病院	富士見市	医療法人	二次救急	7.5	4	53.3%	37.8	1	1	0
16	ふじみの救急病院	三芳町	医療法人	二次救急	7.0	3	42.9%	28.6	3	2	0
17	坪田和光病院	和光市	医療法人	二次救急	6.1	4	65.6%	19.1	1	0	0
18	高田整形外科病院	新座市	医療法人	二次救急	5.5	3	54.5%	21.6	1	1	0

病院別の救急車受入件数および夜間・時間外・休日の患者延べ数

当該医療圏内における医療機関の救急車受入件数等の指標の比較を示しています。
医師不足や過度な負担となっていないか、持続可能性の観点で確認する必要があります。



出典：「令和6年度病床機能報告」（厚生労働省）
：「令和5年度DPC導入の影響評価に係る調査「退院患者調査」」（厚生労働省）

南西部区域と類似区域における救急医療の提供状況

人口、地域区分、大学病院の有無を条件とした類似区域を3つ抽出し、主要な指標を比較しています。
他区域と比較して、救急車受入の病院が分散していないか、また、職員1人あたりの患者数が大きくないか確認し、効率的、かつ、持続可能な救急医療が行えているか確認します。

区域名	区域の基礎情報				救急車受入を行う病院									主な診療実績 (区域合計)			一般病床 流出入率
	人口 (人)	面積 (km ²)	地域区分	大学 病院	病院数	救急車 件数	時間外 患者数	職員数		医師あたり		看護職員あたり		手術 総数	全麻 手術 件数	分娩 件数	
埼玉県 南西部	730,325	111	大都市型	無	16	34,189	56,306	836	3,595	40.9	67.3	9.5	15.7	24,017	11,618	3,342	▲9.7%
東京都 北多摩西部	658,632	90	大都市型	無	14	36,171	65,208	818	3,362	44.2	79.8	10.8	19.4	25,836	12,181	2,358	▲1.1%
神奈川県 川崎南部	667,767	64	大都市型	無	14	42,269	60,562	1,298	4,398	32.6	46.6	9.6	13.8	42,963	19,519	3,177	4.7%
兵庫県 東播磨	716,073	266	大都市型	無	25	38,073	49,374	1,050	4,703	36.3	47.0	8.1	10.5	35,567	15,326	2,424	▲3.3%

地域区分は人口と人口密度を用いた石川ベンジャミン光一氏の分類方法により作成
<https://public.tableau.com/app/profile/kbishikawa/viz/MeshBKH2022acuteNmd/map>

出典：「令和6年度病床機能報告」（厚生労働省）
：「地域医療構想 地域別の病床機能等の見える化（令和6年度）」（厚生労働省）
：「令和5年度DPC導入の影響評価に係る調査「退院患者調査」」（厚生労働省）
：「厚生労働省 令和7年告示第166号」
：「令和2年国勢調査」（総務省統計局）
：「都道府県・市区町村のすがた（社会・人口統計体系）」（総務省統計局）2020年度

地域区分類型

大都市型：人口が100万人以上（又は）人口密度が2,000人/km²以上

地方都市A型：人口が20万人以上

地方都市B型：人口が10～20万人（かつ）人口密度が200人/km²以上

過疎地域A型：人口が10～20万人（かつ）人口密度が200人/km²未満

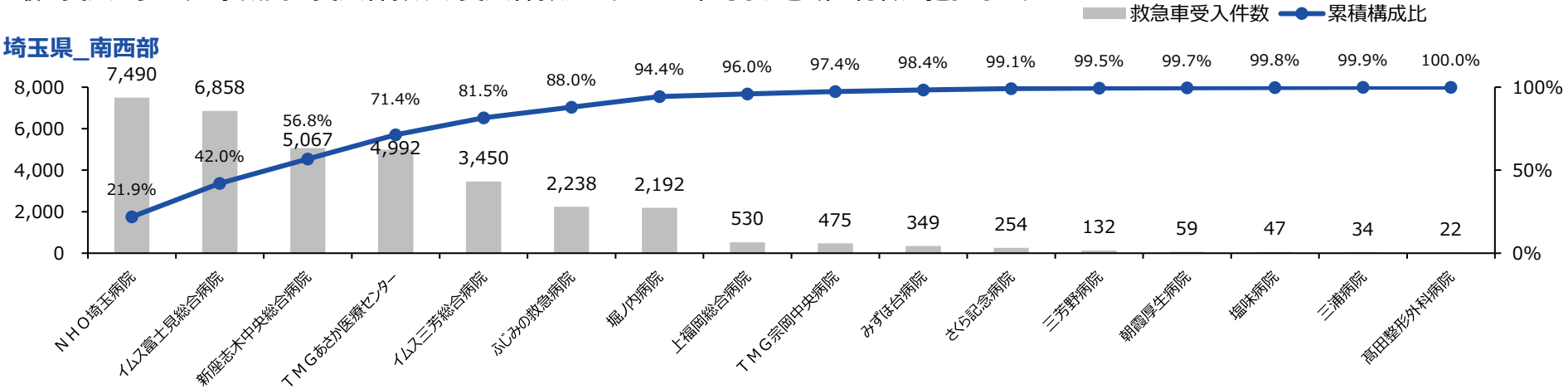
過疎地域B型：人口が5～10万人

過疎地域C型：人口が5万人未満

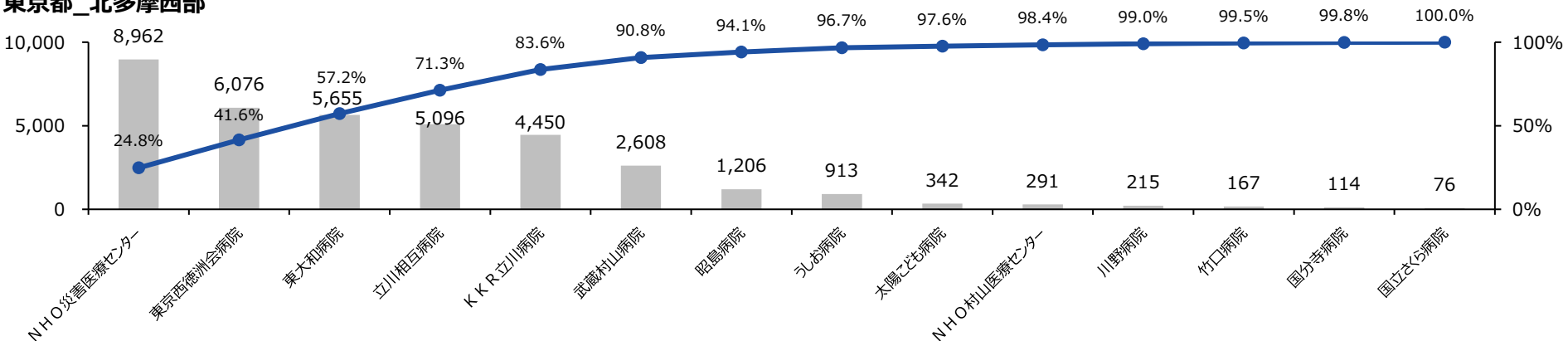
救急医療の提供状況の類似区域との比較【救急車受入件数①】

医療機関別の救急車受入件数の累積構成比を他の区域と比較しています。
最も受入の多い医療機関の受入件数や、受入件数のバラつきを確認し、地域の特徴を把握します。

埼玉県_南西部

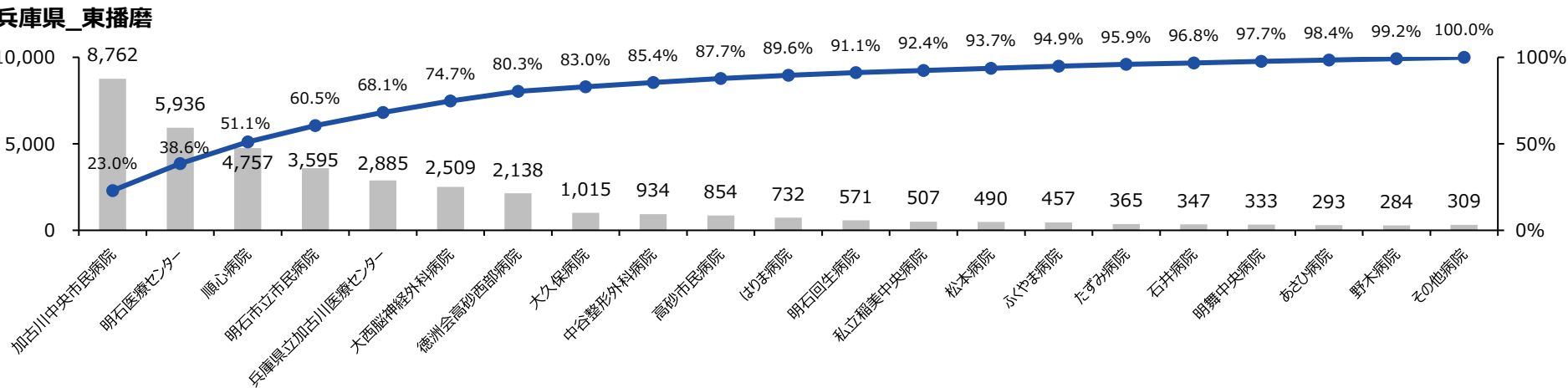
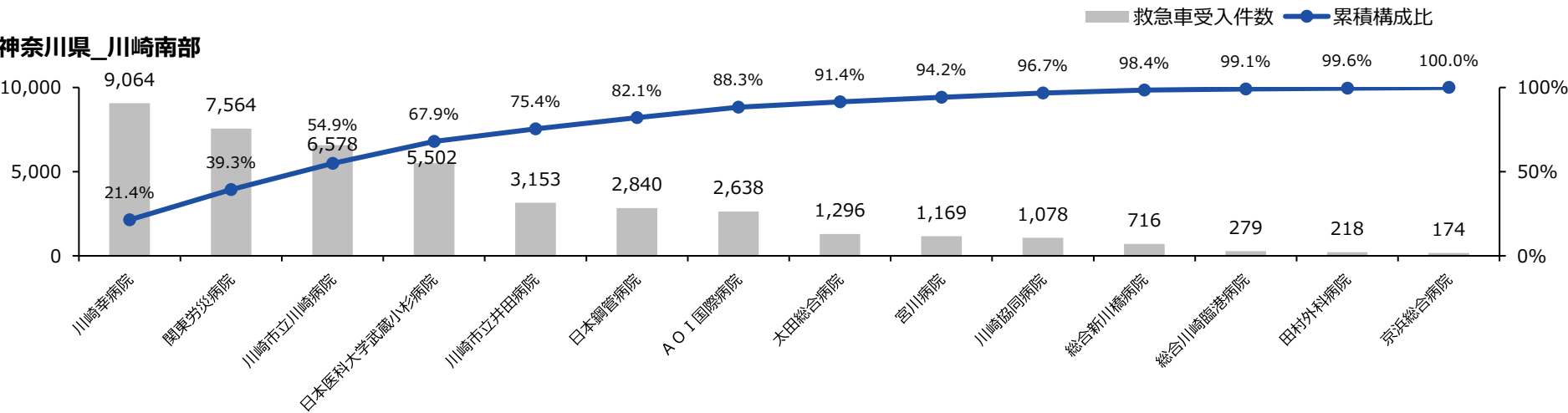


東京都_北多摩西部



救急医療の提供状況の類似区域との比較【救急車受入件数②】

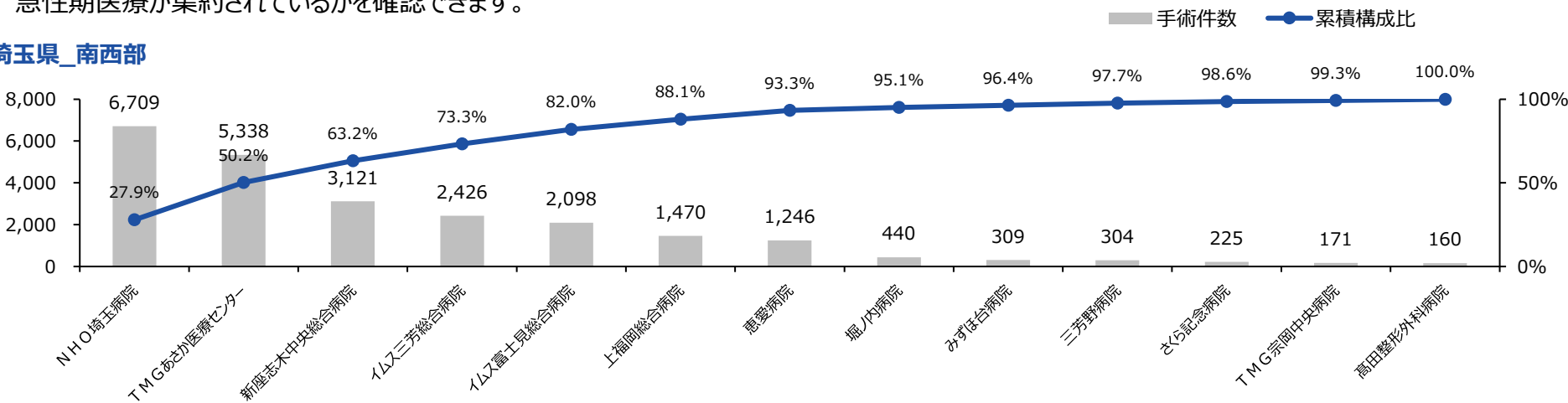
医療機関別の救急車受入件数の累積構成比を他の区域と比較しています。



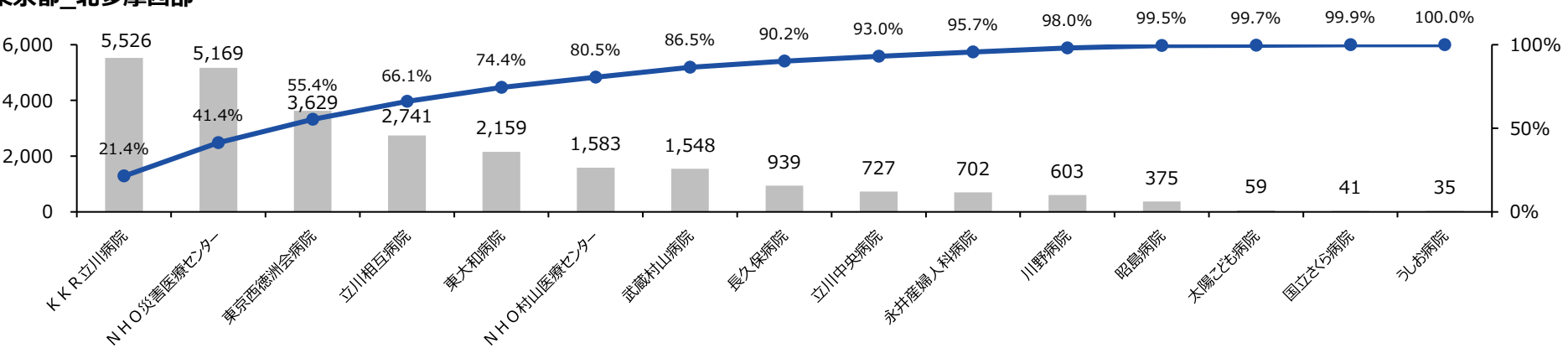
救急医療の提供状況の類似区域との比較【手術件数①】

医療機関別の手術件数の累積構成比を他の区域と比較しています。
急性期医療が集約されているかを確認できます。

埼玉県_南西部

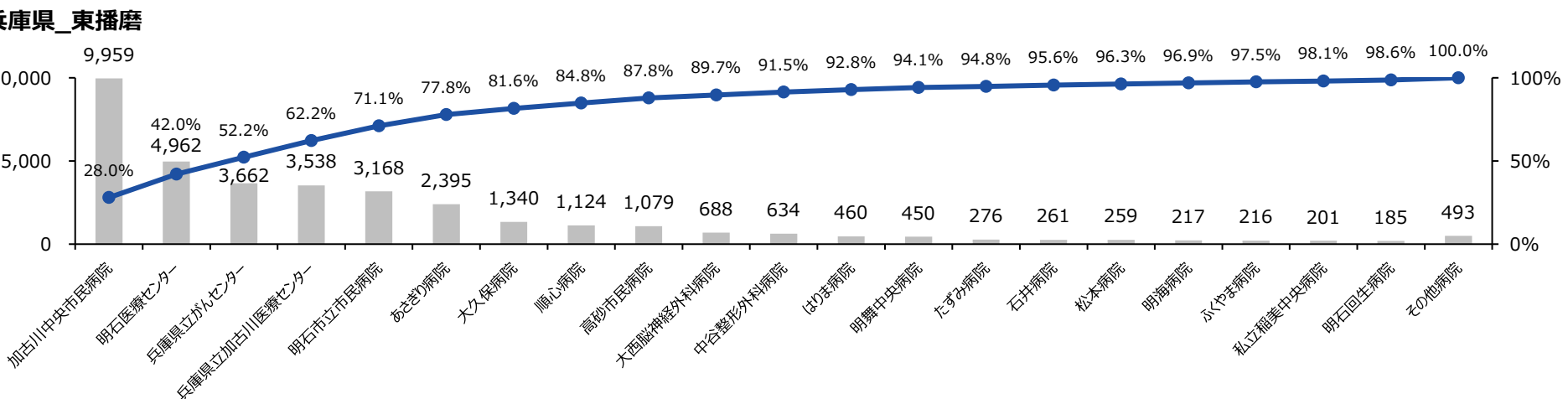
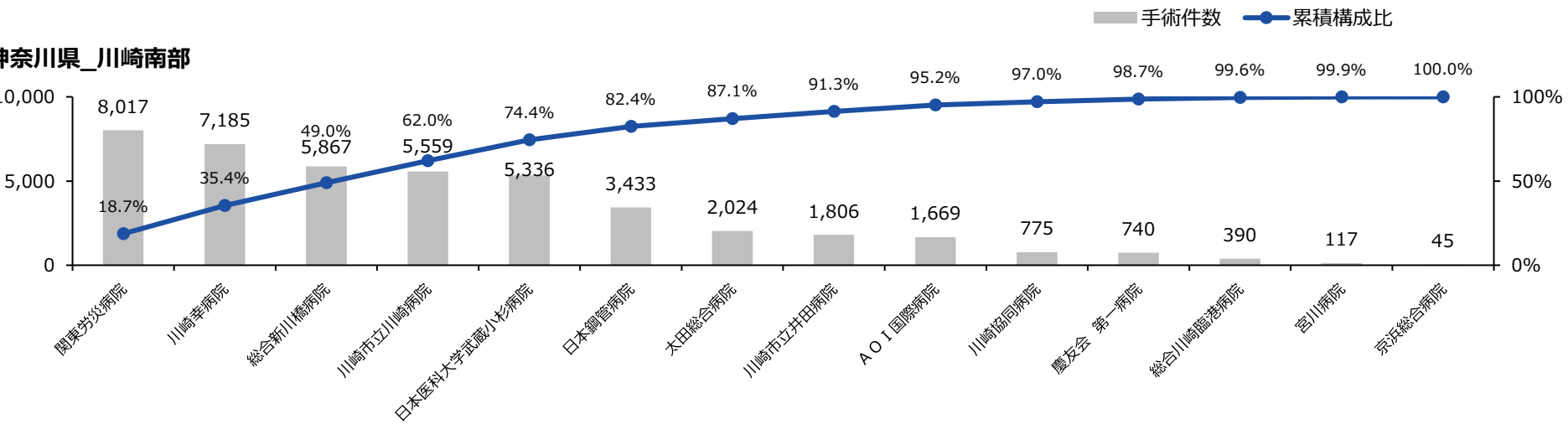


東京都_北多摩西部



救急医療の提供状況の類似区域との比較【手術件数②】

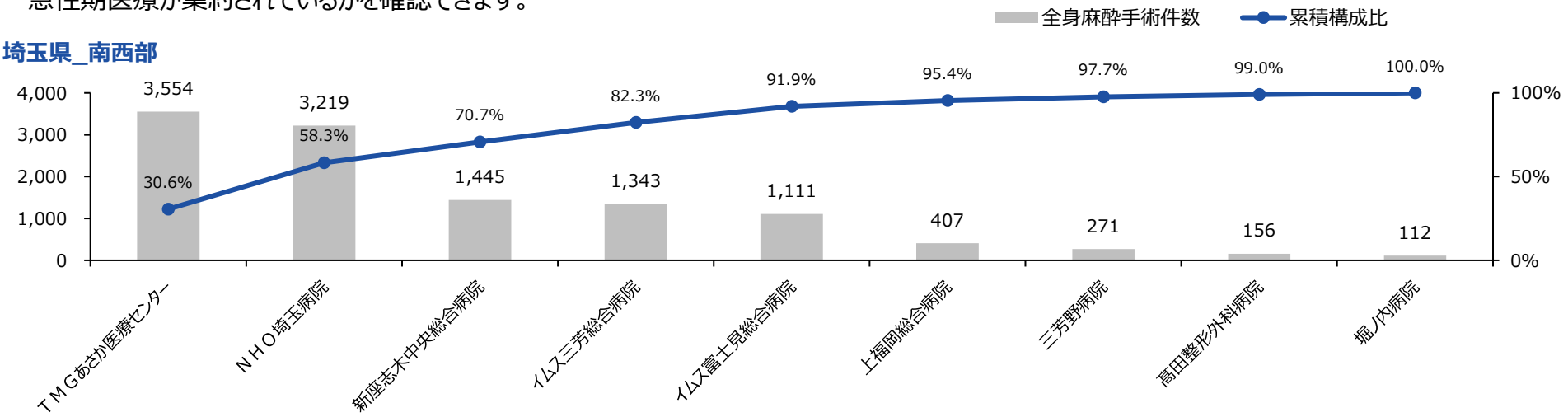
医療機関別の手術件数の累積構成比を他の区域と比較しています。



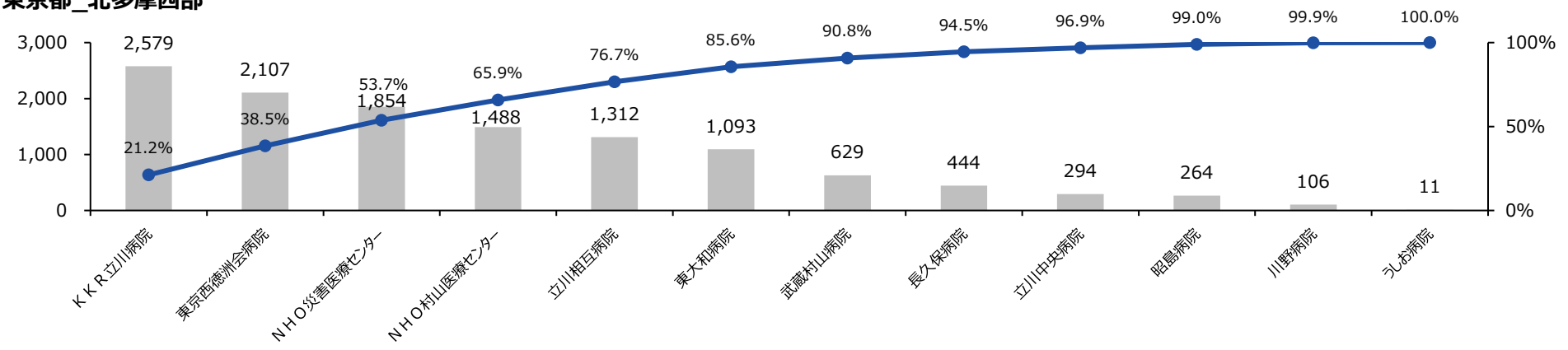
救急医療の提供状況の類似区域との比較【全身麻酔手術件数①】

医療機関別の全身麻酔手術件数の累積構成比を他の区域と比較しています。
急性期医療が集約されているかを確認できます。

埼玉県_南西部



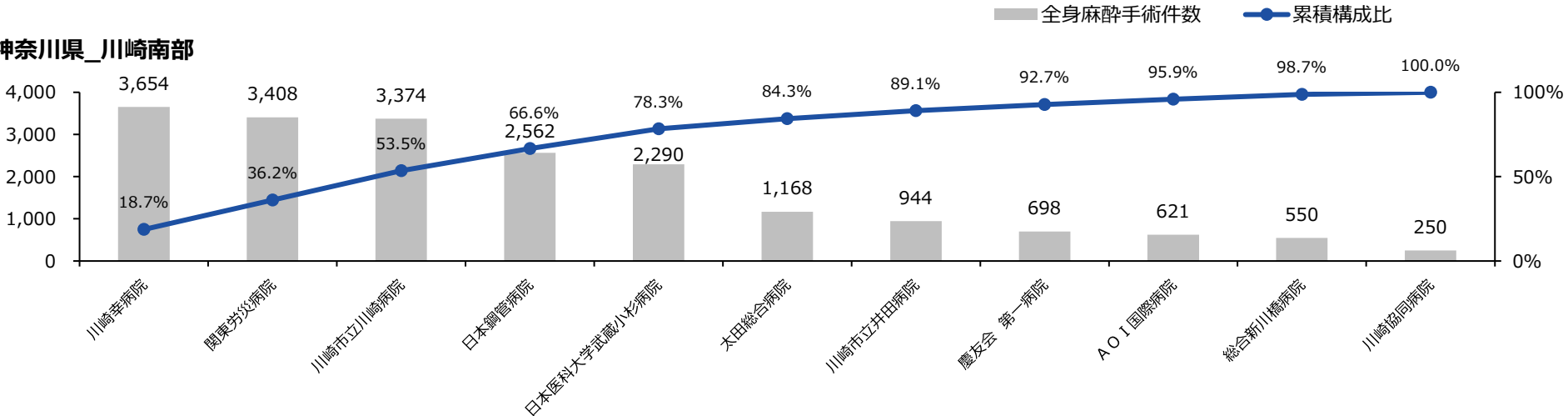
東京都_北多摩西部



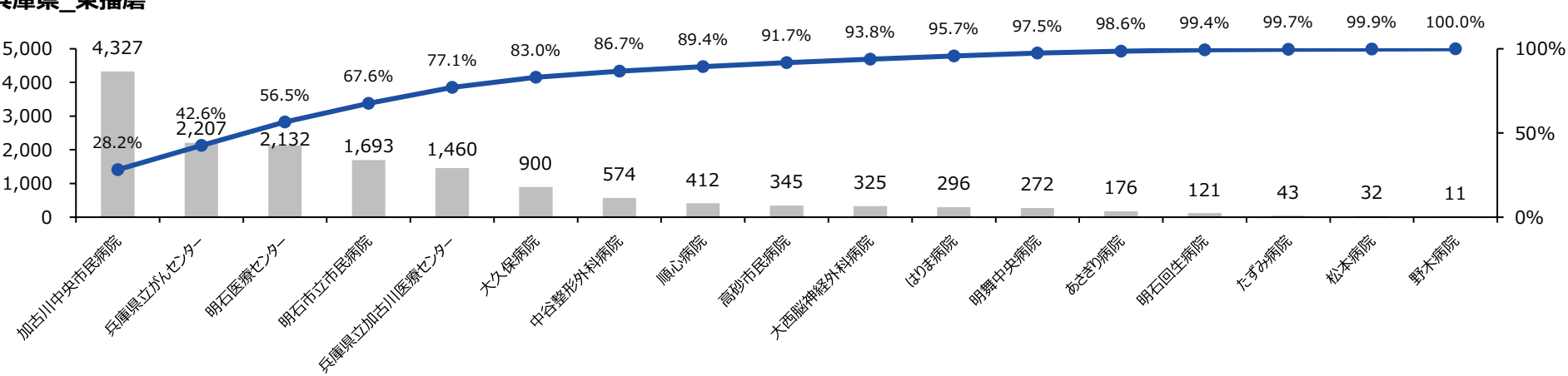
救急医療の提供状況の類似区域との比較【全身麻酔手術件数②】

医療機関別の全身麻酔手術件数の累積構成比を他の区域と比較しています。

神奈川県_川崎南部



兵庫県_東播磨



出典：「地域医療構想 地域別の病床機能等の見える化（令和6年度）」（厚生労働省）

埼玉県 | DPC対象病院における平均在院日数（DPC患者数の多い順）①

都道府県内のDPC病院における在院日数の比較を示しています。

全国の平均在院日数は11.72日であり、「全国の疾患構成に補正した場合」の日数が長い医療機関は非効率な運用となっている可能性があります。

No.	医療機関名	医療圏	医療機関群	入院基本料	DPC算定 病床数	DPC算定 病床割合	DPC患者数	平均在院日数 (日)	全国の疾患構成に 補正した場合 (日)
1	獨協医科大学埼玉医療センター	東部	特定	急性期1	923	100%	20,577	11.3	11.8
2	埼玉医科大学 総合医療センター	川越比企	特定	急性期1	1,025	100%	17,994	13.5	12.6
3	埼玉医科大学病院	川越比企	大学	特定7対1	800	91%	17,866	11.3	11.5
4	さいたま赤十字病院	さいたま	特定	急性期1	632	99%	17,743	9.8	9.8
5	上尾中央総合病院	県央	標準	急性期1	660	90%	16,013	11.1	12.0
6	自治医科大学附属さいたま医療センター	さいたま	特定	急性期1	628	100%	15,813	10.6	10.0
7	埼玉医科大学国際医療センター	西部	標準	急性期1	756	100%	15,389	13.1	12.2
8	N H O埼玉病院	南西部	標準	急性期1	530	96%	12,793	11.2	11.7
9	さいたま市立病院	さいたま	標準	急性期1	563	89%	12,550	11.7	10.4
10	川口市立医療センター	南部	標準	急性期1	492	97%	11,425	10.4	9.8
11	埼玉石心会病院	西部	特定	急性期1	410	91%	10,224	12.5	11.7
12	戸田中央総合病院	南部	標準	急性期1	469	96%	9,498	12.2	11.6
13	T M Gあさか医療センター	南西部	標準	急性期1	434	96%	8,934	13.2	12.7
14	防衛医科大学校病院	西部	大学	特定7対1	629	95%	8,903	10.2	10.2
15	埼玉県立がんセンター	県央	標準	専門7対1	467	93%	8,730	11.6	12.2
16	済生会川口総合病院	南部	標準	急性期1	424	100%	8,633	11.0	10.5
17	深谷赤十字病院	北部	標準	急性期1	415	97%	8,225	12.7	11.8
18	草加市立病院	東部	標準	急性期1	349	94%	8,049	10.1	11.1
19	越谷市立病院	東部	標準	急性期1	432	100%	7,883	12.4	13.4
20	済生会 加須病院	利根	標準	急性期1	304	100%	7,658	11.7	11.6
21	春日部市立医療センター	東部	標準	急性期1	361	100%	7,399	11.3	12.7
22	新久喜総合病院	利根	標準	急性期1	293	75%	7,330	11.4	9.8
23	さいたま市民医療センター	さいたま	標準	急性期1	293	86%	6,501	10.6	10.8
24	彩の国東大宮メディカルセンター	さいたま	標準	急性期1	315	94%	6,248	13.3	12.1
25	J C H O埼玉メディカルセンター	さいたま	標準	急性期1	349	88%	6,122	12.2	12.2

埼玉県 | DPC対象病院における平均在院日数（DPC患者数の多い順）②

No.	医療機関名	医療圏	医療機関群	入院基本料	DPC算定 病床数	DPC算定 病床割合	DPC患者数	平均在院日数 (日)	全国の疾患構成に 補正した場合 (日)
26	埼玉県立小児医療センター	さいたま	標準	急性期1	316	100%	6,069	11.1	9.7
27	埼玉協同病院	南部	標準	急性期1	295	79%	6,005	11.2	10.2
28	北里大学メディカルセンター	県央	標準	急性期1	372	100%	5,937	11.3	12.0
29	熊谷総合病院	北部	標準	急性期1	253	82%	5,753	12.0	12.4
30	埼玉県立循環器・呼吸器病センター	北部	標準	急性期1	289	84%	5,686	12.0	10.8
31	イムス富士見総合病院	南西部	標準	急性期1	263	87%	5,639	9.8	10.1
32	春日部中央総合病院	東部	標準	急性期1	272	67%	5,347	11.8	12.2
33	新座志木中央総合病院	南西部	標準	急性期1	282	70%	5,143	11.6	11.0
34	徳洲会 羽生総合病院	利根	標準	急性期1	257	83%	5,028	15.4	13.4
35	NHO西埼玉中央病院	西部	標準	急性期1	300	100%	4,682	11.3	13.4
36	イムス三芳総合病院	南西部	標準	急性期1	227	83%	4,351	11.7	11.1
37	行田総合病院	利根	標準	急性期1	310	62%	4,339	9.9	10.5
38	三愛病院	さいたま	標準	急性期1	189	95%	3,983	11.4	11.8
39	秀和総合病院	東部	標準	急性期1	208	69%	3,968	13.9	12.4
40	三郷中央総合病院	東部	標準	急性期1	231	80%	3,649	14.8	15.4
41	東埼玉総合病院	利根	標準	急性期1	155	82%	3,269	11.4	12.2
42	みさと健和病院	東部	標準	急性期1	172	61%	2,972	10.7	11.5
43	八潮中央総合病院	東部	標準	急性期1	186	74%	2,961	15.6	14.0
44	所沢美原総合病院	西部	標準	急性期1	221	100%	2,780	11.6	9.9
45	赤心堂病院	川越比企	標準	急性期1	156	79%	2,725	9.1	11.4
46	丸山記念総合病院	さいたま	標準	急性期1	146	69%	2,675	9.3	10.0
47	三愛会総合病院	東部	標準	急性期1	150	55%	2,652	12.6	11.1
48	川口工業総合病院	南部	標準	急性期1	161	81%	2,631	10.9	11.4
49	白岡中央総合病院	利根	標準	急性期1	148	58%	2,291	13.4	12.6
50	三井病院	川越比企	標準	急性期2	83	91%	2,269	13.7	12.0

埼玉県 | DPC対象病院における平均在院日数（DPC患者数の多い順）③

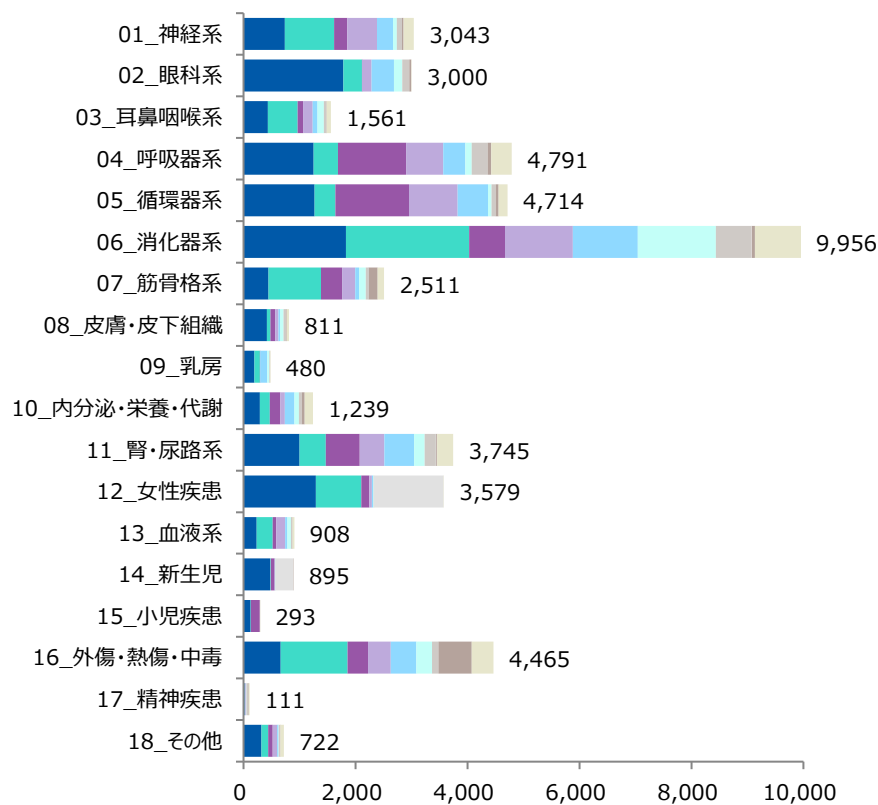
No.	医療機関名	医療圏	医療機関群	入院基本料	DPC算定 病床数	DPC算定 病床割合	DPC患者数	平均在院日数 (日)	全国の疾患構成に 補正した場合 (日)
51	関越病院	川越比企	標準	急性期1	192	84%	2,137	11.9	10.6
52	吉川中央総合病院	東部	標準	急性期1	130	48%	2,071	12.5	12.8
53	埼玉慈恵病院	北部	標準	急性期1	110	69%	2,051	12.0	12.2
54	越谷誠和病院	東部	標準	急性期1	108	55%	2,047	11.8	11.9
55	小川赤十字病院	川越比企	標準	急性期1	168	67%	1,970	12.5	12.0
56	圏央所沢病院	西部	標準	急性期1	112	42%	1,877	12.5	10.7
57	土屋小児病院	利根	標準	急性期1	40	100%	1,861	5.6	5.4
58	蓮田病院	利根	標準	急性期4	139	52%	1,740	12.2	12.4
59	伊奈病院	県央	標準	急性期1	102	56%	1,485	15.9	16.2
60	埼玉東部循環器病院	東部	標準	急性期1	40	100%	1,429	7.3	8.4
61	JCHOさいたま北部医療センター	さいたま	標準	急性期2	90	61%	1,402	10.7	10.1
62	埼玉成恵会病院	川越比企	標準	急性期4	122	72%	1,361	11.6	12.0
63	秩父市立病院	秩父	標準	急性期1	100	74%	1,094	11.5	10.8
64	東川口病院	南部	標準	急性期1	95	48%	1,035	13.1	13.2
65	池袋病院	川越比企	標準	急性期2	52	68%	744	13.7	13.1
66	徳洲会 皆野病院	秩父	標準	急性期4	60	40%	645	16.8	14.8
67	武蔵野総合病院	川越比企	標準	急性期2	79	46%	448	14.3	13.5

南西部医療圏 | MDC別退院患者数および医療機関シェア

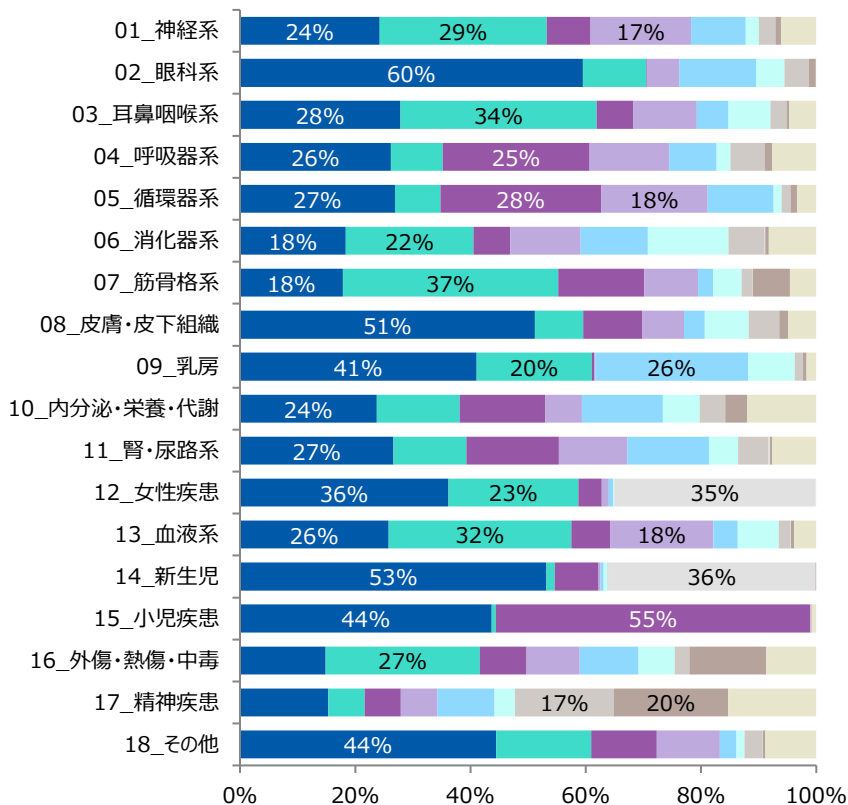
医療圏内の医療機関の疾患別推定シェアを示しています。

疾患ごとの役割分担の状況を確認できます。

MDC別退院患者数



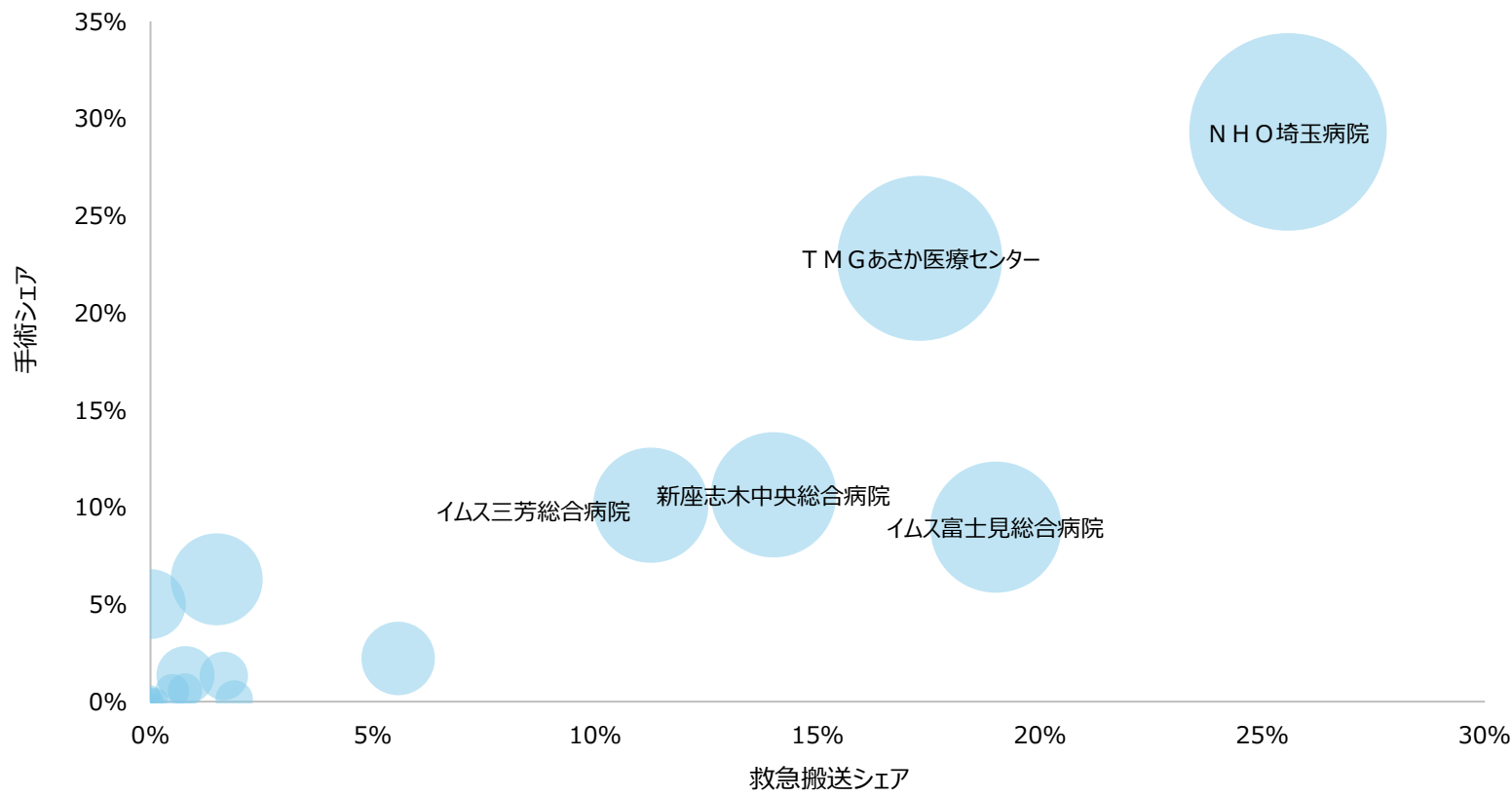
MDC別医療機関シェア



■ NHO埼玉病院 ■ T M Gあさか医療センター ■ イムス富士見総合病院 ■ 新座志木中央総合病院 ■ イムス三芳総合病院
■ 上福岡総合病院 ■ 堀ノ内病院 ■ 恵愛病院 ■ 三芳野病院 ■ その他

南西部医療圏 | DPC退院患者の手術シェア×救急搬送シェア

医療圏内の医療機関の救急搬送シェアと手術シェアをプロットしており、地域内の急性期病院としてのポジショニングを可視化しています。

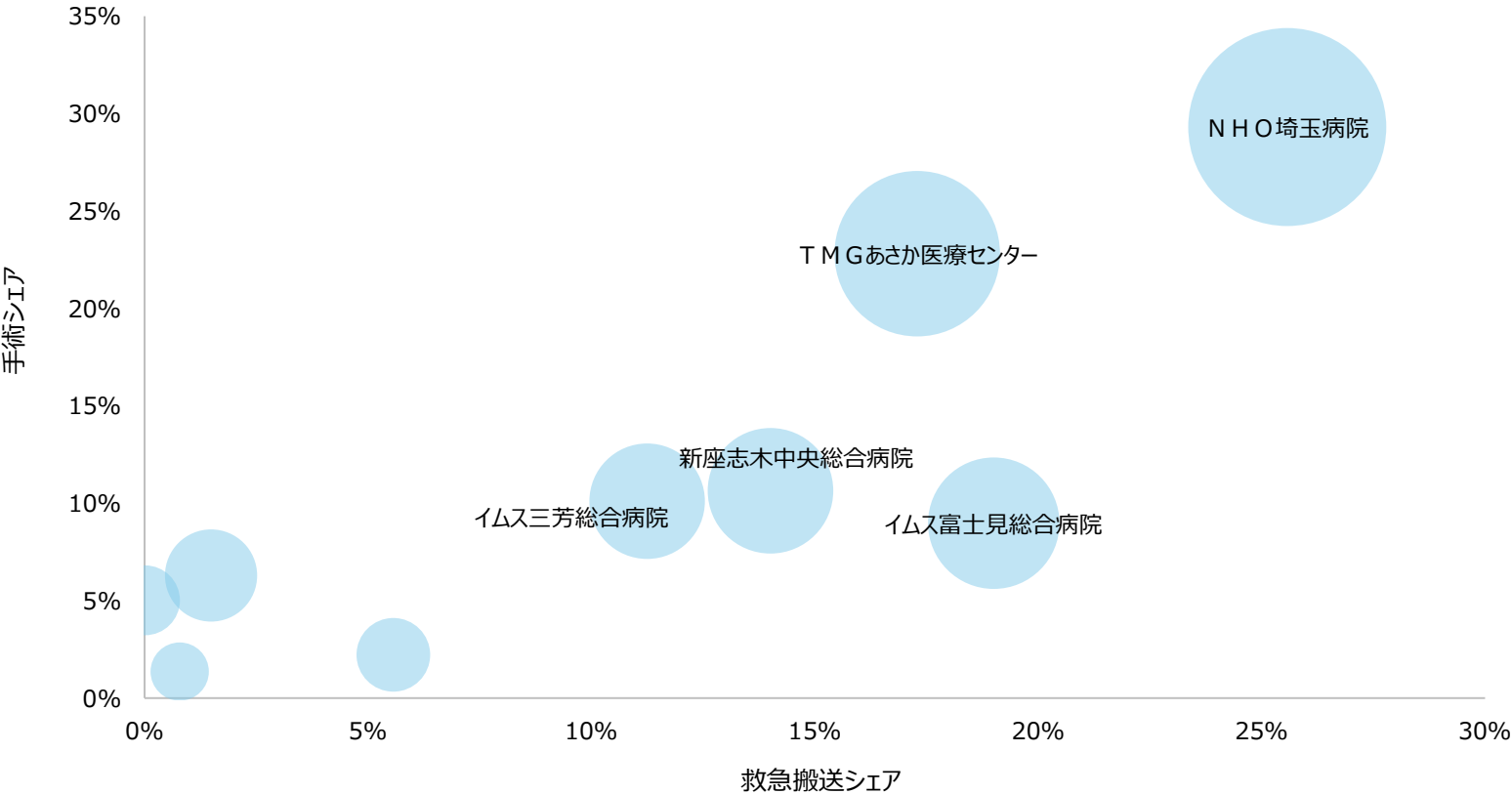


救急搬送シェア	医療圏内の病院における各病院の患者受け入れ割合
手術シェア	医療圏内の病院における各病院の手術実施件数割合
バブルの大きさ	退院患者数

出典：「令和5年度DPC導入の影響評価に係る調査「退院患者調査」」（厚生労働省）

南西部医療圏 | DPC退院患者の手術シェア×救急搬送シェア(退院患者数1000人以上の病院)

前項のグラフのうち、退院患者数が1,000人／年以上の病院のみを抜粋しています。



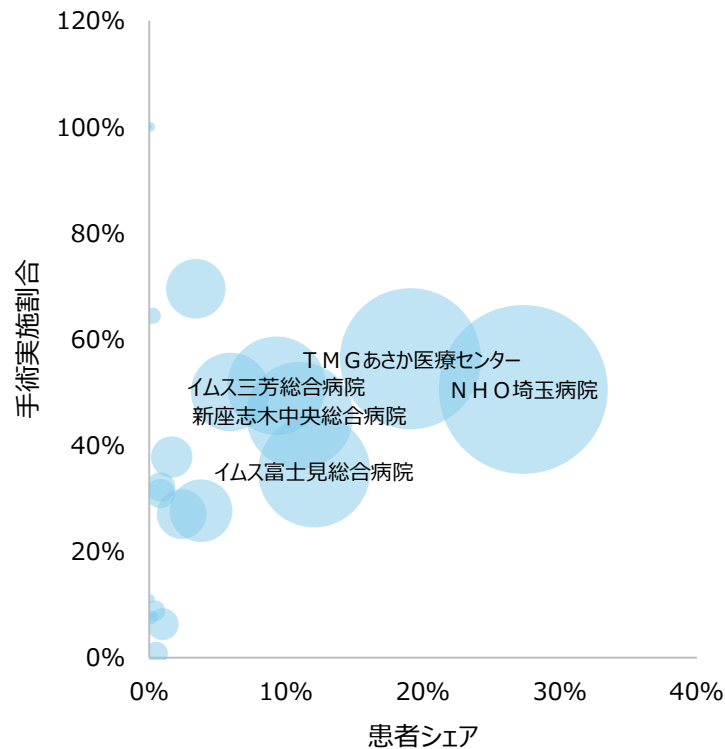
救急搬送シェア	医療圏内の病院における各病院の患者受け入れ割合
手術シェア	医療圏内の病院における各病院の手術実施件数割合
バブルの大きさ	退院患者数

出典：「令和5年度DPC導入の影響評価に係る調査「退院患者調査」」（厚生労働省）

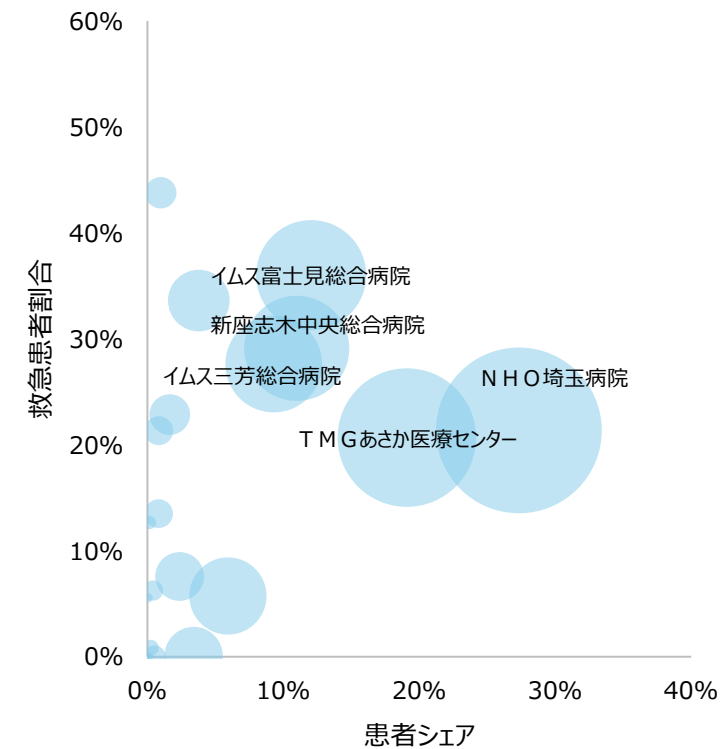
南西部医療圏 | DPC退院患者の手術・救急患者割合×患者シェア

医療圏内の医療機関の手術実施割合と救急患者割合、地域内の患者シェアをプロットしています。

手術実施割合×患者シェア



救急患者割合×患者シェア



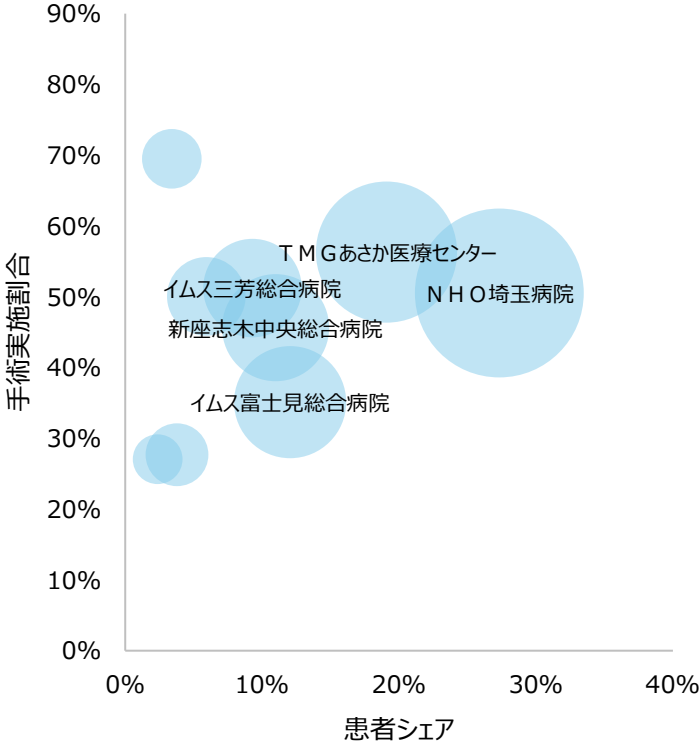
手術実施割合	院内の退院患者に占める手術の実施割合
救急患者割合	院内の退院患者に占める救急搬送患者の割合
患者シェア	医療圏内の病院における、各病院の退院患者数割合
バブルの大きさ	退院患者数

出典：「令和5年度DPC導入の影響評価に係る調査「退院患者調査」」（厚生労働省）

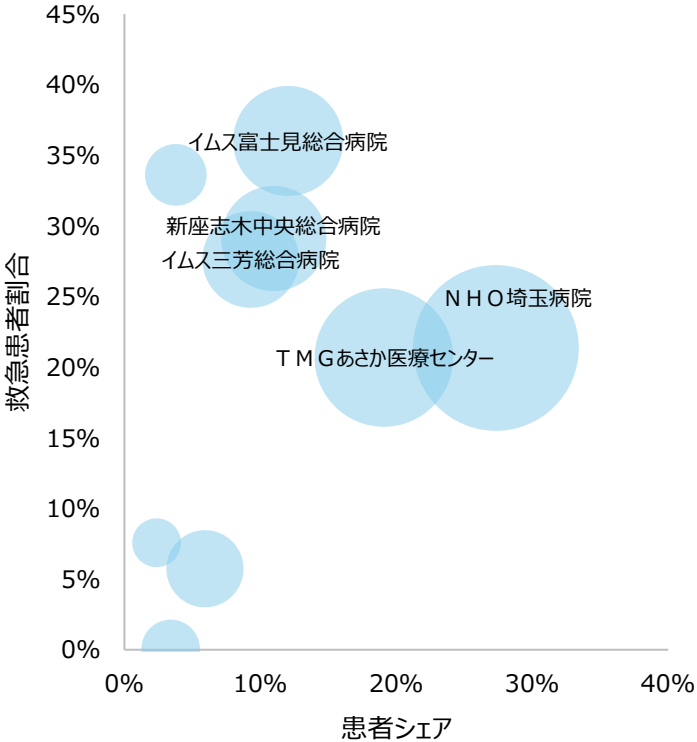
南西部医療圏 | DPC退院患者の手術・救急患者割合×患者シェア（退院患者数1000人以上の病院）

前項のグラフのうち、退院患者数が1,000人／年以上の病院のみを抜粋しています。

手術実施割合×患者シェア



救急患者割合×患者シェア



手術実施割合	院内の退院患者に占める手術の実施割合
救急患者割合	院内の退院患者に占める救急搬送患者の割合
患者シェア	医療圏内の病院における、各病院の退院患者数割合
バブルの大きさ	退院患者数

－ 二次医療圏でみる地域医療の構造 －

医療需給総覧

version

1.0

- 本資料は各ページ下部に記載している機関の公表データを用いて、株式会社日本経営が作成した資料です。
- 本資料に提供されている内容は万全を期しておりますが、入手し得る資料および情報に基づいて作成したものであり、その内容の正確性や安全性を保証するものではありません。
- 本資料の使用は自己判断で行っていただくものとし、万一、貴社・貴法人が損害等を被った場合において、弊社は一切の責任を負いかねます。
- 本資料は、行政・医療機関等における検討・意思決定の目的を含め、転載・引用・配布いただけます（事前連絡不要）。ただし、転載・引用・配布の際は、転載先に本資料名および株式会社日本経営を出典として必ずご明記ください。なお、有償・無償を問わず、本資料の全部または一部を頒布・提供する行為は禁止します。
記載例「出典元：医療需給総覧 ○○県△△医療圏（株式会社日本経営）」